

平成27年度（平成26年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【 目 次 】

○はじめに		
1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1

○学校教育		
1 点検・評価の実施方法	3
2 点検・評価の記載方法	3
3 報告内容の構成	4
4 点検及び評価の結果		

I	子どもたちの学力向上	5
	1 個に応じた指導の充実	5
	① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	5
	② 「読解力」向上の取り組みの推進	10
	③ 読書活動の推進	14
	④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	18
	〈教育委員会分析結果〉	22
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	26
	2 健やかな心と身体の育成	28
	① 基本的な生活習慣の育成	28
	② 豊かな心を育む道徳教育の推進	32
	③ 豊かな体験活動の推進	36
	④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	40
	〈教育委員会分析結果〉	44
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	47
II	課題に迅速に対応する学校づくり	49
	1 多様な教育的課題への対応	49
	① 学校安全の推進	49
	② 問題行動等への対応の推進	54
	③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	58
	④ 国際教育の推進	62
	⑤ キャリア教育の推進	66
	⑥ 福祉教育の推進	70
	⑦ 環境教育の推進	74
	⑧ 情報教育の推進	78
	〈教育委員会分析結果〉	82
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	86
	2 地域に関われた学校づくり	88
	① 地域への情報発信と学校公開の工夫	88
	② 地域教育力の活用	92
	③ 学校評価を生かした学校の改善	96
	〈教育委員会分析結果〉	100
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	103

Ⅲ	教員の指導力向上	105
	1 教員研修・研究の充実	105
	① 授業研究の充実	105
	② 授業評価の活用	109
	③ 研修事業の充実	113
	〈教育委員会分析結果〉	117
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	119

○社会教育

1	点検・評価実施方法	122
2	点検・評価の記載方法	122
3	報告内容の構成	122
4	点検及び評価の結果	
	各種講座事業	124
	学校開放事業	125
	人権・同和教育等事業	126
	家庭教育推進事業	127
	小坪公民館図書貸出事業/沼間公民館図書貸出事業	127
	小坪公民館学級講座事業/沼間公民館学級講座事業	128
	社会教育委員会議からの意見、助言	130

○参考資料

	平成26年度の教育委員会の活動状況	133
	逗子市学校教育総合プラン全体図	137
	平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移	
	逗子小学校	138
	沼間小学校	144
	久木小学校	150
	小坪小学校	156
	池子小学校	162
	逗子中学校	168
	久木中学校	175
	沼間中学校	181
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	187
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について （抜粋）	188

〇はじめに

1 趣 旨

平成 19 年 6 月に公布された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成 20 年 4 月 1 日から、すべての教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、また、社会教育の講座等の充実を図り、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象については、学校教育に関わる対象事業は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に策定された「逗子市学校教育総合プラン(第Ⅲ期)」(平成 25 年度改定)を対象とし、学校の教育活動に焦点をあてています。

また、平成 24 年度から社会教育に関わる事業について、「すし生涯学習推進プラン」2011～2014 に基づく、社会教育に関する講座等の事業を対象としており、今年度につきましても引き続き対象としています。

○学 校 教 育

1 点検・評価の実施方法

学校教育に関わる対象事業は、「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅲ期）」に基づいて実施しています。

本計画は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に、逗子の公立学校の取り組む方向性を示す「逗子市学校教育総合プラン」を平成18年3月に策定しました。その際、変わり行く社会情勢や教育改革に対応できるよう、プランの期間を3年とし、2年経過後見直しを図ることとしました。

平成24年度中に改訂作業を進め策定した第Ⅲ期のプランも、第Ⅰ期・第Ⅱ期同様、さらなる学校教育の充実に向け、これまでの本市の教育施策や各学校の取り組みを整理するとともに、理念的なプランではなく、「子どもたちの学力向上」「課題に迅速に対応する学校づくり」「教員の指導力向上」と大きく三つの柱を立て、これからの子どもたちに培う力、そのための学校教育の進め方などについて具体的・実践的なプランとなっています。

この三つの柱を中心に、基礎学力の定着、豊かな体験活動の推進、健康教育の推進、地域全体で学校を支援する体制づくりなどに重点をおき、平成26年度の取り組みについて点検・評価を実施しました。

* 予算や決算審査では見えにくい各学校の教育活動に焦点をあて、「逗子市学校教育プラン」の平成26年度における取り組みを点検・評価するものです。

2 点検・評価の記載方法

(1) 「逗子市学校教育総合プラン」の三つの柱に基づいて定めた各行動プランについて、平成26年度に各小・中学校が取り組んだ状況を明らかにするとともに、教育委員会が各小・中学校が取り組んだ事項を総合的に分析した結果を記載しています。

(2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方の意見、助言を記載しています。意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

久保田 貢 氏（元鎌倉女子大学非常勤講師 元鎌倉市立西鎌倉小学校長）

福田 幸男 氏（横浜薬科大学薬学部教授）

3 報告内容の構成

(1) 項目

点検・評価の対象を「逗子市学校教育総合プラン」の「三つの柱」をさらに次の五つに分けた項目ごとに点検・評価を行っています。

- ア 個に応じた指導の充実
- イ 健やかな心と身体の育成
- ウ 多様な教育的課題への対応
- エ 地域に開かれた学校づくり
- オ 教員研修・研究の充実

(2) 目標

項目及び行動プランごとの目標を掲げています。

(3) 各小・中学校の実施計画取り組み概要

各小・中学校ごとの行動プラン「平成26年度の取り組み目標」を「達成した」かどうか、「達成した」とした場合、その判断をした状況、「達成できなかった」とした場合、その目標への取り組み状況や明らかになった課題を、「成果と課題」としてまとめています。

(4) 教育委員会分析結果

各小・中学校の取り組みの進捗状況（項目別達成率）などを踏まえ、教育委員会が評価を行い、今後の課題や対応の方向をまとめています。

教育委員会の自己評価のうち評定は、市立全校の実践評価での項目別達成率が90%を超え、顕著な成果が見られるものをS、同じく実践評価での項目別達成率が80%を超え、多くの成果を挙げていると判断できるものをA、同じく実践評価での項目別達成率が70%を超え、一定の成果を挙げていると判断できるものをB、同じく実践評価での項目別達成率が60%を超えているものをC、同じく実践評価での項目別達成率が60%に満たないものをD、としています。

(5) 学識経験を有する者の意見、助言

外部からいただいた意見を掲載しています。

I 子どもたちの学力向上

<目 標>

学校が、子どもたちの学力向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実を図り、指導法・評価活動の工夫をすすめるとともに、基本的な生活習慣の育成を家庭とともに連携し、進めていきます。

1 個に応じた指導の充実

① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

【 目 標 】

「確かな学力」を育むためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度の育成が求められます。このためには、授業の工夫・改善に取り組み、一人ひとりの子どもにどのように指導していくのかを考えていくことが大切です。

具体的には、各教科等の指導にあたり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視し、言語活動の充実を図ります。また、学習評価を通し、授業のあり方の見直しや個に応じた指導の充実を図るなど、指導と評価の一体化を進めます。

その際、一斉学習だけでなく少人数指導・チームティーチング等の多様な学習形態も活用し、個に応じた指導ができるよう取り組みます。また、子どもたちの学習習慣が確立するよう、家庭との連携を図ります。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る
- ②個に応じた指導の実践の充実
- ③逗子小の特別な学習環境を踏まえた学習指導の実践
- ④長期休業期間中の学習支援の充実
- ⑤支援教室の積極的な活用

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

- ③達成した
- ④達成した
- ⑤達成した

【成果と課題】

- ①・②校内研究をとおして低・中・高ブロックを単位とし充実を図った。
- ③オープンスペースの積極的活用が図れた。
- ④サマースクールについては、今年度「海洋教育」に力を置いて実施した。海での活動が主体であったが、学校支援地域本部のバックアップにより、多くのボランティアが集まり、安全に充実した内容で実施することができた。
- ⑤支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターが連携して積極的に活用した。

沼間小学校

【目標】

- ①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への、具体的な工夫改善
- ②発達段階に応じた学習の仕方の指導、並びに家庭学習の充実
- ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①基礎・基本の定着のために、補習を含めたさまざまな手段を使って、子どもたちを導いてきている。「わかる授業」から「ともに学び合う」授業を次の課題にして取り組んでいる。
- ②家庭学習の必要性については、学級及び学年通信、学校だよりを通じて保護者の協力を得ながら、定着した効果を上げている。
- ③「ともに学ぶ授業」づくりを目指していることにより、教員は学び合うことで子どもたちが答えを創り出せる、授業展開及びそのための教材づくりを研究している。

久木小学校

【目標】

- ①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る
- ②少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①継続的な課題であり、引き続き取り組みを続けたい。

②児童の学力向上に取り組むべく、一単元の中においても学習集団の実態に合わせ、チームティーチングや少人数指導などを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指した。本校児童の学習の定着状況を確認し、課題がどの学年の何に起因しているかを全職員で調査研究した（算数）。これは、本校の教育課程を編成する上においても、また、校内研究（算数）を推進する上においても非常に重要な資料となっている。

小坪小学校

【目標】

- ①研究の成果を踏まえた教育課程の見直しに着手する
- ②基礎的・基本的な知識・技能の習得のための指導の工夫をさらにすすめ、定着度について検証する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①研究の成果を踏まえ新たな課題として「既習事項を活かす」ことにより、より「確かな学力」を育むことにつながった。
- ②基礎・基本の習得に向け、児童の実態を把握し、習熟度別の指導体制を取り入れるようになった。

池子小学校

【目標】

- ①今まで取り組んできた地域教育力を生かした学習支援ボランティア等をより活用し、個を支援する学習環境を整える
- ②基礎的・基本的な知識・技能がどれだけ子どもたちに定着しているかを検証し、より効果的な学習形態の工夫改善（指導と評価の一体化）を図るとともに、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成にも力を入れる

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①今年度は地域の学習素材や教育力の更なる活用に心がけ、各教科や特に生活科・総合的な学習の時間の具体的な場面で個を支援する教育活動ができた。
- ②授業力向上に心がけ、個々のニーズに合った指導支援に繋がるケースが増えてきているが、合理的な配慮を踏まえた更なる検証、工夫が必要である。

逗子中学校

【目標】

- ①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチング及び少人数

学級の実践・検証

- ②学習支援情報（個人学習カルテ）の作成と、教科相談等の支援活動の実施
- ③校内研究と連動し、「生徒一人ひとり」に視点をあてた研修の実施と授業改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①数学、英語を中心に単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。
- ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。
- ③横浜国立大学の両角准教授や有元教授をスーパーバイザーとして、年間2回の公開授業と11月の授業研究（3クラス）を中心に校内研究を進めた。また、教育研究所の先生方とも連携して生徒一人ひとりが生きる学級づくりについて研修を進めた。

久木中学校

【目標】

- ①指導法の工夫改善を図る（3年間を見据えた系統立てた指導の在り方を探る）
- ②少人数指導での習熟度別指導とチームティーチング指導での指導工夫の充実と成果の明確化
- ③補習体制の充実（長期休業中及び日常的な実施の工夫・改善）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①3年間を見据えた各教科の系統立てた指導計画ができた。
- ②教職員の配置により英語・数学での少人数授業が全学年で出来ないところがあった。それに代わり国語、理科でチームティーチング授業を行う事ができた。
- ③1年を通じて補習授業が計画的に行えた。

沼間中学校

【目標】

- ①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習（サマーチャレンジ）の参加人数の増加を図る
- ②3年生で少人数学級を、また少人数指導、チームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を、数学、保健体育、技術、英語で実施する

【評価】

- ①達成した

②達成できなかった

【成果と課題】

- ①補充的学習（いわゆる補習）は、教師側が指定しているので除外するが、今年度は発展的な学習として、生涯学習的な講座も組み入れたことで、昨年度参加者49名に対し、今年度参加者94名と倍増した。次年度は、地域の方にも講座を持っていただきたい。
- ②市の小規模校加配、数学の教員配置ができなかったため、数学で取り組めなかった。

② 「読解力」向上の取り組みの推進

【目標】

読解力を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」（文部科学省2010）とするならば、この力を高めていくためには、テキストを理解・評価しながら読む力を高めること、様々な文章や資料を読む機会をもつこと、自分の意見を述べたり書いたりすることが必要になります。

新しい学習指導要領においては、言語活動の充実を図ることにより、これからの時代を担う子どもたちに、思考力、判断力、表現力等を身につけさせ、社会の変化に対応する能力やそれに伴う課題を自らの力で解決する能力を育成することを目指しています。これらの能力は、国語科のみならず各教科等においてその育成が重視されています。

どれも短期間で育成されるものではなく、長期的な視野を持ち、継続して取り組んでいくことが重要です。

各小・中学校における平成26年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の検証
- ②発達段階に応じた課題図書の実施
- ③指導法の工夫改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①・③国語科を中心に行った「言葉」を大切にする指導の工夫では、横浜国立大学から講師を招聘し、授業研究を中心に検証を実施し、一定の成果を得た。
- ②学校図書館指導員の尽力により課題図書の整理や紹介とともに図書の時間の有効活用が図られた。

沼間小学校

【目標】

- ② 各教科における、言語活動の充実を目指した年間指導計画及び授業づくり
- ②自分の考えを、自分の言葉にして表現しようとする子どもの育成
- ③各教科並びに様々な教育活動を通じて、「学び合い」を大切にした授業づくり

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①言語活動の充実を図ることは、各教科並びに特別活動等において、実施されてきた。その中で扱われてきた題材を通じて、計画的な指導を行うことができた。
- ②いわゆる自己表現活動、プレゼンテーション能力の育成だが、これは毎朝の会のスピーチや、各教科並びに総合学習等の発表において実践することができた。
- ③「学びあい」は校内研究のテーマでもあるので、さまざまな教育活動においてアクセントをもたせた取り組みができています。

久木小学校

【目標】

- ①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した

【成果と課題】

- ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。校内研究においては、昨年度に引き続き、授業実践を通して研究を進めてきた。上記「①成果と課題」の調査結果（算数）からは、低学年の語彙力や理解力、文章理解力、経験域の狭さなども課題として挙がってきている。言語活動の充実を図るためにも、低学年指導の在り方についても考えていきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①「逗子市読解力向上プラン」を通じて言語活動のさらなる充実を図る
- ②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「さらに育てたい力」を明確にする

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①読解力の充実に関しては各教科の学習において意図的に取り組んだが、「読解力向上プラン」の活用には至らなかった。
- ②各教科で「育てたい力」を意識することにより、言語活動の充実についても取り組むことが出来た。

池子小学校

【目標】

- ①読解力向上のための言語活動の実践内容を各学年の年間計画にのせ、6年間で子どもたちに

とってより効果的な取り組みとなっているか分析・検討を進める。

- ②コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設け、授業実践の工夫改善を図る。

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①言語活動の実践が6年間で子どもたちにとってより効果的な取り組みとなるよう総合的学習や生活科と関連させながら、カリキュラムに反映させた。
- ②授業実践の工夫改善を図り、引き続き、コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設けた。

逗子中学校

【目標】

- ①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成
- ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成（生徒の自己評価）
 - ・言語、シンボル、テキストを活用する能力
 - ・知識や情報を活用する能力
 - ・テクノロジーを活用する能力
- ③6月・1月に行う生徒の自己評価の肯定的な自己評価を5ポイント程度上げる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①校内研究のテーマと関連付けて年間指導計画を作成した。
- ②6月と1月の年間2回全生徒に自己評価をしてもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。
- ③2年「ある程度ついている」というポイントにおいては、課題が残った。

久木中学校

【目標】

- ①久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体で計画的かつ系統立てて進める
- ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する（教科の課題としてレポート作成、プレゼンテーション発表を推奨する）

【評価】

- ①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①教科指導全体での言語活動の充実が出来なかった、今後は系統性の部分に絡めて行えばよい。
- ②教科の課題としてのプレゼンテーション発表はよく進める事ができているがレポート作成については教科にとらわれず指導をする必要がある。

沼間中学校

【目標】

- ①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを試行する

【評価】

①達成した

【成果と課題】

- ①横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに、「生徒自ら考え、判断し、創造する授業を目指して～input intake output を意識した授業づくり～」を研究テーマとして、年間7回の校内研修会、年間1回全員の公開授業と年間1回の研究授業（3クラス）を実施した。今年度はあるべき授業スタイルの共有化が中心であったので、次年度は、実践に一層力を注ぎたい。

③ 読書活動の推進

【 目 標 】

読書活動は「考えながら読む」「考えたことを表現する」という言語に関する能力を育むことに不可欠であり、本に接し読書に親しむことは、いろいろな考えに触れ、知識を蓄え、豊かな心を育むことの基盤となります。

学校においては、読書活動につながる教育内容・指導方法の工夫により、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、家庭・地域と連携し、読書の習慣付けを促進することが大切です。

また、学校生活をおくる子どもたちにとって、学校図書館は読書活動の重要な拠点と言えます。子どもの読書習慣の定着と読書意欲の向上のために、学校図書館を核として、市立図書館や地域の方々との連携を図り、子どもたちが活発に図書館を活用し読書に親しむことができるようネットワークの充実を図る必要があります。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校図書館の整備と充実
- ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着
- ③市立図書館の積極的な活用

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成できなかった

【成果と課題】

- ①今年度より貸し出し方法をこれまでの「ブックカード方式」から「DATE DUE」に変更したが、手続きの簡素化が出来、貸し出し数の増加にも繋がった。
- ②今年度も多くの読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせを全学年で実施した。
- ③児童への周知が不十分なこと、ネットワークを介した検索システムが確立していないことなどが挙げられる。

沼間小学校

【目標】

- ①読書活動の日常化を果たすことによって、子どもたちの学校生活の基盤を養う
- ②子どもたちが、読書に親しみやすい環境を整備していく（学習情報センターとしての、図書館機能の充実）
- ③学習活動の中に、子どもの発達段階に応じた読書活動を位置づける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①読み聞かせボランティアが日替わりで、各クラスの朝の会において、読み聞かせを行うとともに、教室内に書物が整備されていて親しまれている。
- ②図書室及び調べ教室共に、子どもたちが興味・関心を持ちやすく、また調べ学習をする上でニーズに合った条件整備が整えられている。
- ③休み時間、学習時間等を通して、読み物に親しむ習慣は、各学年及びクラスの中で定着している。

久木小学校

【目標】

- ①読書推進活動全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る
- ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する
- ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①計画通り実施することができた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指したい。
- ②朝読書の割合も増え、児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動がより主体的になってきている。
- ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。

小坪小学校

【目標】

- ①各学年、各教科で、図書室を利用した学習を推進する
- ②継続して、読書の習慣化をめざし、取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①各教科の学習において、問題解決的な授業計画が充実し、図書室を利用する機会が増えた。
- ②引き続き、読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。

池子小学校

【目標】

- ①司書教諭、学校図書館指導員、学校支援ボランティアの連携と、効果的な活用を進め、読書活動の充実を図る
- ②市立図書館との連携を深め、学級文庫の充実に努める。また、蔵書のデータをパソコンに入力し、検索を容易にするため、校内のデータベース化を目指す

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①学習内容に合わせ市立図書館の貸し出しを利用し年間通して活用できたと共に、学級文庫用のリサイクル本を充実させることができた。次年度は、各教室の学級文庫として配置していきたい。
- ②蔵書数、購入数、廃棄数などはデータ化できたが、検索を容易にするためのデータベース化にまでは至らなかった。次年度も継続して進めていきたい。

逗子中学校

【目標】

- ①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実
- ②朝読書を中心とした読書活動の充実
- ③市立図書館との連携

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間を中心に特別活動の時間にも行った。
- ②年2回の読書週間で「朝読書」を行い、校長・教頭・教務・学年の先生方が「読み聞かせ」等を行った。
- ③市立図書館の図書への借り受けを中心に連携を図った。

久木中学校

【目標】

- ①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める(対人関係づくりに活かす)
- ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる
- ③朝の読書を推進する(学校支援地域本部事業の活用や全教職員・図書委員会による読み聞かせ活動を取り入れる)

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①図書館指導員と教科担当の連携のもと、図書館の利用が高まった。
- ②学校図書館指導員と生徒会図書委員会が連携して図書館利用が高まってきている。
- ③年間2回、延べ4回の読み聞かせをクラスで取り入れられている。

沼間中学校

【目標】

- ①朝の読書週間を設定し、読み聞かせを実施する
- ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間2回の、朝の読書週間を実施し、2回目に読み聞かせの実践を行った。
- ②市立図書館との連携は日常化してきた。また、授業で図書館を使う取り組みも年間を通して行った。

④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進

【 目 標 】

支援を必要としている子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切に対応するために、学校を中心とした総合的な支援体制の充実が求められています。

それに応えるために、学校では教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、ケース会議や校内委員会で検討した支援を具現化する必要があります。また、学校だけでは解決できない課題に対しては、専門家や専門機関と連携し協働することが大切です。

よりよい支援を行うために「支援シート」を活用し、子どもたちのライフステージを見通した指導の継続と様々な機関との連携による「縦」と「横」の支援が必要です。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①校内支援チームの取り組みの充実
- ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践
- ③スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、うるおいフレンドや外部専門機関との連携の充実
- ④支援教室の活用を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①3名の教育相談コーディネーターを中心に児童相談所、市子育て支援課、スクールソーシャルワーカーと定期的にケース会議をもち、情報共有だけでなく、今後の具体的方向性についても検討を進めた。
- ②主な進学先2校の教育相談コーディネーターと連携を密に取った。また、心の教室相談員も中学校と情報交換を積極的に行った。
- ③教育相談コーディネーターだけでは対応できないケースについては、積極的に外部専門機関を利用し、みとりと方向性を確認した。
- ④支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターが連携して積極的に活用した。

沼間小学校

【目標】

- ①校内支援体制における円滑な組織運営
- ②児童並びに保護者に対する支援ニーズの把握と指導の充実
- ③児童理解に基づいたきめ細かな支援及び保護者・外部機関との連携・協働の推進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした組織運営及び体制作りを、今年一年をかけて確立してきた。次年度は二人体制をとって、更なる実用化を図っていく。
- ②③同じく教育相談コーディネーターが中心にはなるが、児童個々の学習障害や児童指導的な問題や行動に対するアセスメントは、学級並びに授業担当者が行う中で、児童または必要に応じて保護者への支援を外部機関とつなぎながら行っている。

久木小学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的支援を行う
- ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める
- ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①定期的に児童や学習集団を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定し、具体的な対応について検討をすることができた。ケース会議を定期的を実施することで、児童の変容や課題などを確認し、保護者の理解を得ることにつながる事案もあった。
- ②巡回相談員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることが出来た。
- ③幼稚園、保育園、療育相談との連携を深めることが出来た。中学進学に向け、中学校と定期的に連携を図ることが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①支援教室の活用方法について検証し、支援の充実を図る
- ②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める

【評価】

- ①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①支援教室の運用が具体化し、個別支援が組織的に行われるようになった。
- ②校内支援体制の取り組みについて、保護者、地域に情報発信し、理解を得ることができた。

池子小学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的対応を進める
- ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を充実させ、児童理解の研修等を通して、授業力、学級経営力の向上をめざす

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①年2回の他に毎月児童の情報共有を全職員でした。今年度は児童相談所、県スクールソーシャルワーカー、子育て支援課、教育相談所相談員等に参加していただき、ケース会議を複数回行えたことで支援が適切かつ充実したものになった。
- ②支援教育推進巡回指導員に具体的なソーシャルスキルに関する研修をしていただき、役立てることができた。

逗子中学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実
- ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した、支援教室等、個に応じた支援の実施
- ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検証と定着

【評価】

①達成した

②達成した

③達成できなかった

【成果と課題】

- ①教育相談コーディネーターを中心に全職員による支援体制を築いたので、昨年度以上に生徒理解が進み、成果が上がった。
- ②支援教室の生徒利用の生徒が4名になり、それぞれが目的をもった生活ができるようになったことが成果である。
- ③去年の継続に留まった。

久木中学校

【目標】

- ①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める
- ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」から「定着・活用」ができる授業づくりを進める
- ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①一人ひとりの生徒に合わせた支援の仕方が定着してきた。
- ②生徒達が集中できる環境が定着し始め今後は生徒自らが活用できるような設定が必要である。
- ③学校行事への参加を含め保護者・地域と連携して行う事ができた。

沼間中学校

【目標】

- ①支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートや支援教室を活用しながら支援を進める
- ②困り感を持つ生徒に対する個別の学習指導を必要に応じて進めていく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①支援教室での個別指導を行った（年間3名）。また、火曜日の放課後に、希望者を募って「学習会」を実施した。
- ②教育相談コーディネーターを二人体制とし、5月をスクール・カウンセラーや研究所の心理の専門家などによるアセスメント月間と位置づけて、不登校生徒及び通常級で困り感を抱く生徒を特定し、個別の指導を行った。結果として登校できるようになった生徒も2名いた。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成 26 年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な実施事業

- 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業（13人）

- 学校教育支援ボランティア〈学校支援地域本部事業〉（3,848人）

- 授業研究推進校委託

逗子小学校⇒今、逗子小の子どもたちに必要な力とは

沼間小学校⇒「自分から進んで取り組む子を育てる」

～ともに学び合う授業をめざして～

久木小学校⇒「協同的・創造的な学び合いを目指して」～よりよい人間関係の中で、
共に学び合い、豊かな心を育成する授業のあり方

小坪小学校⇒「自ら考え、すすんで取り組む子の育成」

～既習事項を活かし、互いに学び合い認め合う授業～

池子小学校⇒生き生きと 自主性のある子にするために

～子ども同士が学び合う学習の創造を目指して～

逗子中学校⇒学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業

～生徒一人ひとりの思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業づくり～

久木中学校⇒「中学校3年間を見据え、系統立てた指導の在り方を考える」

『授業のユニバーサル化』～生徒が「わかった」と思える授業づくり、
安心して学べる学習集団の形成～を受け、より深化させる

沼間中学校⇒ 「生徒自ら考え、判断し、創造する授業を目指して」

～input intake output を意識した授業づくり～

- 学校図書館指導員派遣事業（8人）

- 日本語指導講師派遣事業（9人）

- 特別支援教育充実事業

（学習支援員52人、特別支援補助教員3人、ことばの教室補助指導員1名）

- 支援教育推進巡回指導員（1名）、市費スクールカウンセラー（1名）の配置

(2) 主な指導内容

- ▲児童・生徒一人ひとりの課題に沿った学習指導のための教材や指導方法の工夫・改善
- ▲学習指導要領の実施にあたっての課題把握と改善
- ▲学習評価の妥当性、信頼性の向上
- ▲「読書活動推進計画」の実施
- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲校内支援体制の構築に向けた各校の課題把握
- ▲教育相談コーディネーター、心の教室相談員、学校図書館指導員、学習支援員等への研修会の実施
- ▲支援教室の運営等に関する支援

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果

(1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 92.7%)

(2) 主な成果等

【「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実】

- ・中学校では数学と英語で、習熟度別グループによる少人数指導を実施した。小学校では一部の学年においてティームティーチング又は少人数指導を算数で実施した。単元や授業内容によってはT2がオープンスペース等で習熟度に応じて個別・グループ指導を行ったり、子どもたちに恣意性を感じさせないように、担任が習熟度に配慮した編成で少人数指導を行ったりした。
- ・全ての小・中学校で夏季休業中に児童・生徒の実態に応じた補充的学習の機会を設定し取り組んだ。また、学校によっては、発展的な内容を扱うサマースクールの取り組みを学校体制として実施した。
- ・全ての中学校で、学習カルテ作成の取り組みが行われ、それをもとに教育相談で保護者・生徒に具体的な話ができた。

【「読解力」向上の取り組みの推進】

- ・思考力・判断力・表現力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について校内で研究を進めた。

【読書活動の推進】

- ・地域住民や保護者のボランティアとの連携で、読みきかせやお話会など、読書の習慣づけのきっかけになる活動を積極的に行った。
- ・学校図書館指導員は司書教諭と連携して、保護者のボランティアの協力も得ながら、

学校図書館が子どもの学習する際の望ましい環境となるように、整備や研修に努めた。

【校内支援体制を活用した支援教育の推進】

- ・支援教育推進巡回指導員と市費スクールカウンセラーが、小・中学校を巡回し、支援の必要な児童・生徒の実態把握や教員へのアドバイス、保護者との面談等を行い、各学校の支援教育の推進を図った。
- ・支援教育研修会を通じて、児童・生徒理解や対応方法について、研修を深めることができた。
- ・支援の必要な児童・生徒の課題の把握と情報共有を教職員間で行うことができた。
- ・外部の専門機関とのネットワークづくりと教育相談・ケース会議の充実を図った。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 学習指導要領に対応した学力を育むため、個に応じた学習指導の充実へ向けて努力した。

(2) 主な成果等

【「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実】

- ・全普通教室に設置されているエアコン（平成 22 年度中に設置完了）により、夏休み前後の猛暑時における学習環境が整っており、全ての学校において夏休み中の児童・生徒への学習支援が行われた。

【読書活動の推進】

- ・子ども読書推進担当者会（2回）と学校図書館指導員研修会（6回）を開催し、児童・生徒の読書活動に寄与するための研修や情報交換を行った。
- ・市立図書館との連携が進んだ。

【校内支援体制を活用した支援教育の推進】

- ・小・中学校に支援教育推進のために巡回指導員を派遣し、支援教室の教材配布や活用の仕方について説明した。
- ・各学校において、学校の実態に合わせた研修を適宜実施した。
- ・幼・保・小連携推進連絡調整会議における情報交換、小学校・中学校教員による情報交換、指導主事による就学相談および教育研究所の教育相談などを通じて、小1プロブレムや中1ギャップ解消に向けて取り組んだ。

4 平成 27 年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

- ・平成 27 年度も神奈川県学習状況調査が小学校 5 年生対象に 4 教科、中学校 2 年生

を対象に5教科で実施されるので、その調査用紙を活用し逗子市学習状況調査を実施する。また、全国学力・学習状況調査も、小学校6年生を対象に3教科（国語・算数・理科）、中学校3年生を対象に3教科（国語・数学・理科）、全国悉皆で実施されるので、各学校におけるそれぞれ児童・生徒の学力把握のための一つの手段とし、個に応じたきめ細かい指導がより一層充実するように指導を継続して行く。

- ・教職員の職務の合理化を図り、児童・生徒に直接向き合う時間を確保する。
- ・「確かな学力」を育むために必要な教員の指導力の向上に努める。

（2）読書活動の推進

- ・小学校、中学校それぞれの実態に即して、読書活動の推進を行う。
- ・学校図書室蔵書貸し出し数の推移
（H26年度 小学校 年間平均24冊／人、中学校8冊／人）
（H25年度 小学校 年間平均27冊／人、中学校6冊／人）
（H24年度 小学校 年間平均30冊／人、中学校6冊／人）
（H23年度 小学校 年間平均30冊／人、中学校6冊／人）

（3）校内支援体制を活用した支援教育の推進

- ・教職員一人ひとりが共通理解を持ち、児童・生徒・保護者に対し適切な対応を図るためにも、校内支援体制を整え、チーム支援が十分できるように、人的配置や研修が必要である。
- ・小・中学校9年間の支援教育が一貫性を持ち、小学校入学時および中学校卒業時における接続期の機関連携を含めて、児童・生徒・保護者が安心して学校生活を送ることができるよう個に応じた支援や予防的な関わりをめざし、子育て支援課をはじめとする関係機関との連携を含めた環境調整を行い、問題の未然防止を図る。
- ・支援教室を効果的に運営するために、教材の有効な活用方法やソーシャルスキルトレーニングなど、指導方法の改善に取り組む。
- ・授業のユニバーサルデザイン化などの工夫を充実させ、「だれにでも分かりやすい授業」の実現に向けて取り組む。
- ・援助ニーズのある児童・生徒を含め、「お互いを認めあう学級集団」づくりに取り組み、通常学級における合理的配慮を実践する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

[個に応じた指導の充実]

各学校共に、「分かる授業」を目指し、小学校では算数を中心に、中学校では数学・外国語を中心に習熟度に応じた少人数指導やチームティーチングの指導形態を取り入れるなどして、個に応じた指導の充実を図っていることが伺える。中学校では、学習カルテを作成し、生徒一人一人の学習状況等を記入するなどし、日々の学習活動や教育相談等に役立てているとのこと、小学校においても是非導入し、よりきめの細かな指導に役立てて欲しいと考える。

各学校共、教員構成や教師の負担増などいろいろ苦勞されている面があると思うが、大事なことは、「授業の内容が分かった。授業が楽しかった。この部分が分かり辛かった。」などいった声が出るような授業を実践することである。そのためにも、TTの役割、少人数指導導入の是非、習熟度のねらい等について検討し、効果的な指導形態や指導方法を導入した授業設計を期待する。

[読解力向上の取組]

各学校共、言語活動に力点を置いて読解力の向上に努めていることが伺える。

「言語活動」のねらいは、全教育活動を通じて「思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力」等の育成である。各学校共、自校目標に対する評価について、ほぼ「達成した」と答えているが、それほど簡単なことではないと考える。中・長期的な取組、小中9年間の系統性を見据えた教育活動を通して達成できるものとする。

全国学力調査で、Aについては、一定の成果を上げているが、Bについては、相変わらず不十分であるとの指摘があった。この指摘は、調査開始以来毎年続いており、学習指導要領が目指す「思考力・判断力・表現力」等の育成が不十分であると言える。

基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る過程であるいはそれを用いる過程で、いかに「確かな学力」の育成を重視した授業づくりに力点を置くかが問われている。まさに、教師の授業力にかかっていることを踏まえ、「確かな学力」を育む授業実践に取り組むことを期待する。

[読書活動の推進]

各学校共、学校図書館の機能の充実を図るよう、努力していることが伺える。

[校内支援体制を活用した支援教育の充実]

各学校共昨年と同様「子供一人ひとりに寄り添う支援体制」を目指して、校内は勿論、教育相談員、教育相談コーディネーター、支援教育推進巡回指導員等との連携を密にした取組によって、一定の成果をあげていることが伺える。

今後とも、関係機関の協力を得て、教育相談の充実や補完授業の充実、生活支援等に力を入れ、ドロップアウトしない子供の育成に尽力して戴きたい。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実は、学校教育の最重要課題の一つである。ただし、その課題を解決する「魔法の手立て」はない。個々の学校のおかれた状況を踏まえた上で、児童・生徒に寄り添った取り組みを選択することが求められる。

基礎的・基本的な知識・技能については、具体の取り組みに力を入れているが、思考力・判断力・表現力の育成については、必ずしも十分な取り組みにはなっていない。全国あるいは神奈川県の実績・学力・学習状況調査等の結果等も参考にしながらその育成に関する取り組みをさらに進めてもらいたい。

また、小学校6年間、中学校3年間を見据えた指導計画に加えて、小・中学校9年間を見通した指導計画を立案することも課題となる。校種を超えた積極的な取り組みを期待する。今後のより効果的な取り組みの実現には、教員の加配や授業支援員等の配置が必要となってくる。教育委員会にはご配慮いただきたい。

② 「読解力」向上の取り組みの推進、読書活動の推進

各校で、「読解力」の向上の取り組みに工夫がみられる点を評価する。「読解力」の育成には時間を要する。そのため、長期的な視野を持ち、かつ継続して取り組む必要がある。池子小学校に代表されるように、小学校であれば6年間を見通した取り組みが求められる。また、各教科さらにはあらゆる教育活動において「言語活動の充実」を目指す取り組みが展開されることを期待する。

③ 校内支援体制を活用した支援教育の推進

教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実が図られ、かつ教員間の情報の共有化が図られる中で、ニーズに応じた具体的な支援が行われていることを評価する。また、必要に応じて、積極的に外部専門機関を利用する方針が徹底しつつあることも評価する。さらに、幼・保および小・中との情報交換の推進を図ることで、適切な支援が実現することになる。学校・教育委員会の一連の取り組みが保護者から信頼を寄せられれば、相互の連携協力を一層強めることになる。

一方で、学校での支援体制を整備する際に、教員の負担が過度にならないように配慮いただきたい。様々な役割を担う専門家を配置し、時に外部専門機関を有効活用し、組織だった支援体制を確立して行くことが今後とも課題となってくる。

2 健やかな心と身体の育成

① 基本的な生活習慣の育成

【 目 標 】

子どもたちの心身の健康問題は、深刻かつ多様化してきており、気力や学習意欲の低下による、学校生活全般への影響が問題指摘されています。

基本的な生活習慣を確立し、子どもたちが活力ある生活を送るためには、健康3原則(食事・運動・休養及び睡眠)を十分に意識しながら、自らの生活課題を改善させるとともに、学校・家庭・地域が密接に連携し、実りある取り組みを進めることが大切です。

学校では子どもたちが規則正しい生活習慣を身に付けるよう、学校全体で協力し子どもに関わっていくことが求められています。

「食事をしっかり食べる」「外遊びを推進する」「睡眠時間を十分とる」をはじめ、「あいさつをする」「ルールや時間を守る」など、子どもたちの暮らしの根底づくりに関心を向けた取り組みを進めます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①あいさつ運動を推進する
- ②マナー・ルールを守る態度を育てる
- ③基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく
- ④学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①児童会を中心に「あいさつ運動」を継続して行った。
- ②道徳の時間を中心に全ての教科・領域、また学校行事等でも集団行動での規律やマナー等の指導に力を入れた。児童の中でもお互いに守っていこうという意識が根付いてきているが、登下校中のマナーはまだ不十分である。
- ③④お便りや懇談会、PTA運営委員会で呼びかけ連携した取り組みを進めている。

沼間小学校

【目標】

- ①学校でのきまりや暮らし方の指導について、学校全体で計画的実践的に進める
- ②学校だより・学年及び学級だより・保健だより・給食だより等を発行して、保護者への啓発運動を推進する（保護者と連携した児童の生活習慣の確立）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学年会→児童指導部において観察・話し合いを進めてきた結果を、職員会議の中で進めてきた。生活のきまりや基本的な生活習慣の確立を図ることをねらいとするために、「沼間小スタンダード」となるものを、次年度を通じて創っていく計画である。
- ②各お便りが定期的に発行されていたことで、学校の情報や共通理解を依頼することについて、確かな発信を果たすことができた。

久木小学校

【目標】

- ①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う
- ②学校・保健だより等を通して情報を発信する
- ③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①全職員の一致した取り組みが重要である。全校集会での話の聞き方に児童の成長がみられる。各学級においては、担任が必要に応じ、現状に合った指導を丁寧に繰り返してきたことの成果が出てきたと感じる。
- ②学校だより、保健だより、学校ホームページなどの情報発信は、意図的効果的に行うことが出来た。
- ③各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があるので、引き続き、担任の思いが伝わる、保護者の思いを受け止める、丁寧な連携を意識していきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①学校・家庭・地域の情報や行動の情報交換を密にして連携を深める
- ②保護者・地域の方々を対象とした講演会や研修会を行い、それぞれが担うべき役割を再確認する

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①行動目標を「あいさつ」として設定していることが地域、保護者に理解され、その視点からの学校理解が深まった。

②引き続き、給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。

池子小学校

【目標】

①学校からの「たより」や参観・懇談など、様々な機会を通して保護者・地域・関係諸機関などへ積極的に情報発信をしていくことで、さらなる連携を図る

②児童を取り巻く環境の変化に応じた健全育成を図るため、保護者や地域を対象にした講演会（研修会）を積極的に開催し、子どもを見守り、育てるための考える場を設定する

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①学校便り、学年便り等、定期的に発行され、学校からの積極的な発信に繋がった。HPは年度末に新たな形での更新ができたが、全職員での研修が必要である。

②子どもたちの規範意識の高さは、学校、地域、保護者の連携の結果である。また、委員会やたて割り活動を通じた学校をあげての取り組みの効果が出ている。

逗子中学校

【目標】

①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成

- ・毎日の朝食を必ずとる。（85%以上）
- ・「孤食率」の低下を呼びかける。（30%未満）
- ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す。

②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①保護者と連携して基本的な生活習慣の定着をめざしたが、食育については不十分であった。

②学校だより、ホームページ等で連携がとれた。

久木中学校

【目標】

- ①家庭・学校・地域との連携をもとに基本的な生活習慣の育成を図る（小・中の連携のもとに）
- ②学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①地域・保護者・学校が連携してあいさつなどの基本的な生活習慣の育成ができた。
- ②学校便りや学年・学級だよりの発行から情報の共有化が行われ保護者・地域と協力して課題の解決ができた。

沼間中学校

【目標】

- ①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する
- ②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう
- ③教職員からすすんであいさつをする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。家庭における、家族としての役割分担を継続してほしい。
- ②、③日常的な対応ができている。

② 豊かな心を育む道徳教育の推進

【 目 標 】

小・中学生のいじめや自殺等の問題が大きく伝えられている現在、学校だけにとどまらず、社会や家庭生活において、人を思いやり、相手の立場に立って考えることが求められています。目上の人を敬い、自分より弱い立場にいる人を大切にする心を育てるとともに、集団としての規範意識を高めることが大切です。また、集団の一員としての自覚を養うために、忍耐力や協調性などの社会性を身に付けさせることも大切です。

学校では道徳教育の重要性を教職員間で共通理解し、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うように努めることが重要です。特に、道徳教育の要となる道徳の時間においては、他の学習活動と連携を図りながら、計画的・発展的な指導によって、道徳的実践力を高めていくように取り組みを進めます。

「いのち」を大切にする心、人を思いやる心、規範意識を持たせることなど、児童・生徒一人ひとりの豊かな心を育むために、学校・家庭・地域と連携を密に図りながら、心に響く教育を進めていくことが、より大切になってきています。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと内容の連携を図る
- ②児童会活動等を通して自ら取り組む主体的な姿勢を育てる
- ③異年齢集団の交流を推進する(たてわり集団によるグループ活動への取り組み)

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①各教科・領域を横断的に取り上げ積極的に実践を行った。
- ②特にユニセフ活動を中心に全校をとおして活発に活動した。
- ③今年度より異学年集団の交流のねらいをより明確にしていくため、活動内容を祭り系からグループ活動系に変更した。活動については工夫・改善が必要であるが、ねらいはほぼ達成できた。

沼間小学校

【目標】

- ①各教科、総合的な学習、外国語活動等と連携を図りながら、計画的に道徳教育を推進する
- ②地域人材活用の授業実践（年間3回以上）

③学校内の縦割り活動を通して、異年齢交流を通じて思いやりの心を育む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①各教科並びに特別活動等との兼ね合いを考慮しながら、道徳教育を精力的に推進してきた。
- ②4・5・6年生で、教科または生活指導の一環として取り扱うことができた。
- ③特別活動を中心に、その他多くの場面を通じて、縦割り活動の推進を果たすことができた。内容の更なる充実という意味では、再考の余地があることを共通認識している。

久木小学校

【目標】

- ①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う
- ②日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みを進めることが出来た。
- ②朝会、学級指導等を通して取り組んだ。以前よりあいさつの声が聞こえるようになってきた。更なる日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続した取り組みをしていきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①さらに道徳の授業の充実を図り、人権意識の涵養、命について考える機会とする
- ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①道徳の時間だけでなく、学校生活全般を通して、命について考える機会を設定した。
- ②地域の教育力の活用は様々な場面で意図的に活用したが、道徳の授業実践に結び付けることは難しかった。

池子小学校

【目標】

- ①人を思いやる心、命を大切にすることを重点に、児童一人ひとりの心に響く教育を学校・家庭・地域と連携を密にしながら推進する
- ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材や特性を生かした道徳教育の実践に取り組む

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①学校教育の要である道徳教育は、普段の生活の中で活かされなければならない。本校では生きた題材を元に子どもたちの心に響く授業を意識し公開することができた。

②出生地学習は自尊感情の向上に繋がることを意識した心をはぐくむ授業の実践を行うことができた。

逗子中学校

【目標】

①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動

②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討（全校道徳年間4回以上実施）

③地域人材活用の授業実践（年間3回以上）

【評価】

①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。

②年間3回の全校道徳を実施した。

③全校道徳で地域人材を活用した。

久木中学校

【目標】

①道徳教育の重要性を理解し全ての教育活動の中から道徳性を培えるように進める

②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、更なる規範意識の向上に努める

③体験学習を重視するとともに地域講師の採用、生徒が感動を覚える題材の開発と活用を行い「命」を大切に作る心を育てる

【評価】

①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①年ごとに生徒達の様子が変わり指導の仕方も併せて変える必要がある。

②3年間を見据えた系統性がある指導ができることが一番良いが生徒達の状態を見極めるのに時間がかかりすぎた。

③生徒の体験をもとに命を大切にする授業の仕方を工夫する必要がある。

沼間中学校

【目標】

- ①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図り、ねらいの深化を図る
- ②発達段階に応じて、地域講師や地域機関等との連携を利用して、ねらいの深化を図る
- ③3年間が見通せる、道徳の学習一覧作成に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①各学年の年間指導計画に明示した。
- ②特に、今年度は湘南三浦教育事務所管内、道徳教育推進教師を対象とした授業公開を11月に実施し、2年生の授業で地域講師3人の協力が得られた。
- ③各学年の年間指導計画を一枚にした。今後、その関連性を精査していきたい。

③ 豊かな体験活動の推進

【 目 標 】

少子化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かすことのできない、多くの人々との出会いや触れ合い、社会・自然・芸術などと直接ふれ合う体験が乏しくなっています。様々な体験活動を通して、人や社会等とのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高めるようにすることが大切です。

体験活動は文字どおり、自分の身体・五感を通して実際に経験する活動のことです。子どもたちが、学校・家庭・地域社会を含めた生活空間の中で、他者、社会、自然、環境と直接的なかかわりを持ち、豊かな体験を重ねていくことが必要です。そして子どもたちが自分自身の体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいけるように、体験活動を計画的に位置付け、その充実を図ることが大切です。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める
- ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する
- ③宿泊行事やサマースクール（海洋体験教室）などを通じて児童の人間関係を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①今年度も高学年を対象に「影絵」、低・中学年を対象に文化庁巡回公演の劇を鑑賞した。
- ②職員室前の廊下やオープンスペース等に、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。
- ③夏季休業中にも関わらず多くの参加があった。体験活動では、児童が協働して取り組むプログラムも多く用意し、相互の人間関係、信頼関係を深めることができた。

沼間小学校

【目標】

- ①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める（自然体験活動、林間学校、修学旅行）
- ②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①意図的・計画的な取り組みの末に、各学年とも確かなねらいを果たすことができ、それを通常の学級運営に活かすことができた。
- ②学年の発達段階に応じた芸術系並びに福祉系の団体を招聘し、実体験ができる企画・推進ができた。

久木小学校

【目標】

- ①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う
- ②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。
- ②計画通り実施することが出来た。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。

小坪小学校

【目標】

- ①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組む
- ②学校行事・児童会行事を通して問題解決的な学習を進める

【評価】

- ① 達成した
- ② 達成した

【成果と課題】

- ①たてわり班の活用が学校行事の中心として位置づいてきた。
- ②学校行事での「つきたい力」を学校全体で共通理解するように努め、指導と評価の一体化が定着しつつある。

池子小学校

【目標】

- ①学校に講師を招いての体験活動だけでなく、子どもたちが積極的に地域へと出て行って取り組めるような活動を増やすことで、より効果的な学習活動を目指す
- ②各種体験活動等を通して、体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいくような活動を計画し推進する

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①子どもたちが地域に出て行く活動については、昨年度までのものに加え、今年度新たに企画したものも多く実施することができた。次年度は、特に地域の高齢の方とふれあえるような体験活動を工夫していきたい。
- ②総合的な学習の時間など、体験を通してさらに学習を深めていけるような活動に取り組むことができた。

逗子中学校

【目標】

- ①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施
 - ・現代的な教育課題
 - ・学校行事の縦割りブロック活動
 - ・自然体験活動
 - ・職業体験
 - ・修学旅行
- ②3年生で3年間の市民性教育の集大成としての発表会を保護者・地域に公開して行う

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①3年生が修学旅行を通じて学んできたことを「どのようにして逗子市に活かせるのか」ということについて市への提言を行った。
- ②市長にも来校していただき、多数の来校者の中、発表会を実施できた。

久木中学校

【目標】

- ①行事を通じた生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める
- ②地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる取り組みを更に進める

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①計画的に地域行事に参加し、体験出来る学習ができた。
- ②学校支援地域本部事業と連携して地域清掃などに取り組むことができた。

沼間中学校

【目標】

- ①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける（1年生から）
- ②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①1年生「横浜めぐり」の調査テーマとして、逗子の観光・ごみ・歴史をテーマに事前学習し、横浜の現状と比較した。
- ②2日間、42事業所での「2年生職場体験」を実施した。学校関係者評価委員会では、受け入れ側の事情も考え、1日でも目的が達成できるのでは、という声があった。

④ 食育と体力づくり・健康教育の推進

【 目 標 】

社会状況の変化に伴い、子どもたちの健康を取り巻く問題が顕在化してきています。基本的な生活習慣の問題・心の健康の問題・食習慣の問題・飲酒や喫煙、薬物乱用などの問題・性に関する情報の氾濫・運動能力の低下など、様々な課題に対して、学校は家庭や地域と連携した教育を推進することが必要です。

学校においては、食に関する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身につけるための食育指導、体力づくり、及び心身の成長発達について正しく理解させるための取り組みを推進していく必要があります。これらの教育を、子どもたちの発達段階に合わせて進めていく中で、各課題に対する指導の充実を図り、子どもたちが生涯を通じて心身の健康を維持した生活が送れるよう、そのための知識・実践力を身に付けられるようにしていくことが大切です。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める
- ②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めて行く(運動能力調査の実施)
- ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①2名体制の養護教諭を有効に活用し、特にインフルエンザ、溶連菌感染症等の流行性感冒についての未然防止・早期対応を迅速に図った。
- ②運動能力調査を実施し、本校の児童の特徴や向上すべき点を分析し、指導に役立てた。
- ③栄養教諭の配置校である本校では、各学年での食育の推進とともに、給食試食会等をおして、保護者向けの食育も充実させた。

沼間小学校

【目標】

- ①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する
- ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTA と連携した食育指導の充実を実施する
- ③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①養護教諭からの「保健だより」を通じての発信、並びに保健委員会の活動を通じて、計画的な取り組みを果たすことができた。
- ②栄養士並びに担当教諭が中心となり、生活の中における食の大切さについて、各学年に応じた教材や課題を提示して取り組むことができた。PTA とは給食の試食会で子どもたちの配膳の様子を参観し、学校給食への興味と理解を深めることができた。
- ③薬物乱用については学年の発達段階に応じて、特別活動の中で取扱い、意識を高めることができた。安全教室は、インターネット、携帯電話、不審者対策というねらいで、それぞれ実施することができた。

久木小学校

【目標】

- ①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める
- ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①計画通りに実施することが出来た。
- ②芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることが出来た。校庭のどの場所が芝の定着率が高いかなどの研究を重ねた。結果、校舎に沿ったところをグリーンベルトにすることが効果的であること、3 月下旬に植えた芝が定着すれば、約半年緑の芝の中で教育活動を行えることなどの予測を持つことが出来た。次年度は、検証し方向性をまとめていきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①各学年の食育に関するこれまでの取り組みを体系化していく
- ②健康教育を推進する中で、健康の意義について保護者の理解を深める

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①栄養教諭による食育指導が充実してきたが各学年の体系化までには至っていない。
- ②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進するとともに、保健だより等で保護者に意図を周知していくことができた。

池子小学校

【目標】

- ①各学年の食育に関する取り組みを体系化し、食育指導、体力づくり、心身の成長発達につ

いて正しく理解させるための実践を推進する

- ②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、食育の視点を持ち進めていく。
- ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりやホームページを通じての発信を行った。今後、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。

逗子中学校

【目標】

- ①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実
 - ・体育授業のチームティーチング（教員3名による指導）
 - ・ラジオ体操
 - ・マラソン大会
- ②地域やPTAと連携した食育の推進
- ③チャレンジデイの取り組みを学校として企画し、自主参加を呼びかける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①体育科の人数を確保する必要がある。
- ②1・2年生の技術・家庭科で食育の授業を行った。「餅つき」を通して地域・PTAの協力を得て推進できた。支援学級では、畑を作るなどの活動を通して、充実させることができた。
- ③長縄に学校全体で取り組んだが、家庭への啓蒙活動を充実させる必要がある。

久木中学校

【目標】

- ①食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づいた久木中としての食教育について指導方針を明確にし発達に応じた健康・体力作り等を系統的に推進する
- ②飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など、家庭と学校との連携を基にして外部機関等との

連携を図りながら積極的に健康教育を進める

③性教育について性教育全体計画に基づいて系統的に正しい指導を進める

【評価】

①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①今後、食育全体計画に基づいた取り組みを教科と絡めてできるように計画すれば良い。

②外部機関と連携して喫煙防止教室、薬物乱用教室などの取り組みができた。今後、危険ドラッグ等の取り組みを入れて行ければさらに効果的である。

③性教育全体教育に基づいた取り組みを発達段階に応じて進めることができた。

沼間中学校

【目標】

①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる

②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう促す

【評価】

①達成した

②達成できなかった

【成果と課題】

①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭から講演等を実施した。

②保健体育科や部活動を通じて指導を図ったが、全国体力運動能力テストの結果からは、あまり成果が見えなかった。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成26年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 就学時健康診断業務委託
- 児童健康管理事業（小学校）
- 生徒健康管理事業（中学校）
- 自然教室推進事業
- 学校支援地域本部事業（学校支援ボランティア 3,848人）
- 授業研究を柱とした特色ある学校づくり
- 芸術鑑賞推進事業
- 学校体育振興事業

(2) 主な指導内容

- ▲道徳教育全体計画作成
- ▲特別活動全体計画作成
- ▲食育に関する教育全体計画作成
- ▲健康教育に係る各種研修会の実施
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 93.5%）

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣の育成】

- ・基本的な生活習慣を育成するためには、家庭や地域との連携が不可欠なので、家庭や地域との連携に向けての情報発信を積極的に行った。規則正しい生活習慣の大切さを啓発する等一定の成果が見られたが、今後とも、生活習慣改善のための努力を続ける必要がある。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・各教科・特別活動等における関連について配慮し、各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践が行われ成果も上がった。
- ・地域人材を活用した全校道徳を行った。
- ・異学年集団とのふれあい活動等、集団として及び集団の一員としての行動の在り方を育てる取り組みが活性化してきている。

【豊かな体験活動の推進】

- ・文化庁芸術体験事業や市のアウトリーチ事業を活用する小学校が多く、優れた芸術家による芸術の鑑賞を体験した。
- ・小学校・中学校全校で友だち同士の共同生活を通して自然にふれあうことをねらいとした自然体験学習を実施した（1泊5校、2泊3校）。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・栄養教諭が市内の小学校を巡回し、2年生を対象に食育の授業を行った。
- ・小学校5年生児童を対象に「食に関するアンケート調査」を行った。
- ・健康について積極的に啓発するために、養護教諭や学級担任が各種便り等を発行し、疾病やケガの予防に努めた。
- ・喫煙防止、薬物乱用防止等について、関係機関と連携しての取り組みが定着している。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

（1）教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 学校支援地域本部を軸にした家庭・地域との連携は、各本部の実情に合った定着が見られている。多様化する社会の中で生じてくる新たな課題に常に対応できるよう、関係諸機関と連携した取り組みを広げつつ、家庭や地域との連携を一層強化した取り組みを継続する必要がある。

（2）主な成果等

【基本的な生活習慣の育成】

- ・「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果分析から分かる本市の児童・生徒の生活習慣に係る特徴を踏まえての取り組みを進める必要がある。
- ・家庭や地域への啓発と連携、及び小・中学校の連携により、9年間を見通しての習慣づけを進める必要がある。

【豊かな心を育む道德教育の推進】

- ・各学校が推進できるよう必要な情報等を提供した。

【豊かな体験活動の推進】

- ・今以上に効果的な活動となるよう、各学年の体験学習のねらい、時期や期間の見直しを図り、特別活動全体計画の中でのそれぞれの活動の位置付けを確認する必要がある。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・食育推進ネットワーク会議を行い、栄養教諭を中核に各学校と連携を図りながら食育に取り組んだ。

4 平成27年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

【基本的な生活習慣の育成】

- ・基本的な生活習慣を育成するために、家庭や地域への啓発と連携を強化する必要がある。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・児童・生徒の社会性育成につながる異年齢交流を進める。
- ・地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る必要がある。

【豊かな体験活動の推進】

- ・「総合的な学習の時間」における、よりよい体験活動の在り方を探る。
- ・地域人材の活用を支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る必要がある。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・食育と健康教育の推進のため、栄養教諭の活用の仕方を探る。
- ・小学校5年生対象に行った「食に関するアンケート調査」の結果を分析し、指導に活かす。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

[基本的な生活習慣の育成]

子どもたちの学ぶ意欲や学習習慣、規範意識の低下、社会性やコミュニケーション能力の不足等が指摘されて現在、各学校共に具体的な目標を掲げ、全教育活動を通じて様々な取り組みを展開し、一定の成果を上げていることが伺える。

「学力の充実」を優先的に考える保護者もいる中、「心の教育」はより大切であることを、様々な機会を通じて発信する必要がある。今後とも、学校・家庭・地域社会が連携し、それぞれの役割を理解しながら、学年の発達段階に応じたきめの細かな指導を期待する。

[豊かな心を育む道徳教育の推進]

学校によって多少の差異は感じるが、概ねしっかりとした取組が行われていることが伺える。ややもすると、「道徳の時間」が「特別活動や教科の時間」に代替されたり、ビデオ視聴で済まされたりしてしまうケースも見られるが、本市では、決してこのようなことがないことを期待する。

道徳教育の目標・ねらいは、生きる力の要素である「豊かな心の育成」である。上記の「基本的な生活習慣の育成」にもつながるものであり、決しておろそかにしてはならない。道徳教育の全体計画の見直しを始め道徳の時間における教材・資料等の整備及び授業時数の確保などに努め、地域の教育力も最大限に活用しながら、「心豊かな児童・生徒の育成」に、全教職員が一丸となって努めて戴きたい。

[豊かな体験活動の推進]

各学校共に地域の教育資源や教育ボランティアを活用しながら、多岐にわたって取組がなされている。後述の「地域教育力の活用」でも指摘したが、体験活動は、「生きる力」を育む上で大事な要素である。多くの人との人間関係の醸成はもとより自分の生き方を考える場でもある。単に「体験活動」で終わらせることなく、「何を育て、それを将来どう活かすか。」キャリア教育等と相俟って、教育活動を展開していく必要があると考える。

併せて、教科等の年間指導計画への位置づけを明確にすることも必要である。

方法論で終わることなく、学校教育目標の具現化としての体験活動でありたい。

[食育と体力づくり・健康教育の推進]

各学校共、養護教諭、栄養士、栄養教諭を中心に、食育、喫煙防止教育、性教育、薬物防止教育等に力点を置き、「保健だより」や保健・体育、給食等を通じて、児童・生徒の心身の健康増進に努めていることが伺える。とりわけ、性情報や薬物情報については、SNS 等を通じて様々な危険情報が流れていることをきちんと伝え、関係機関の協力を得て、子供はもとより保護者や地域社会も巻き込んで、正しい情報選択能力を培う指導の充実を期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 基本的な生活習慣の育成

基本的な生活習慣の確立は、いわゆる「発達課題」として求められるものであり、学校のみならず保護者の協力が不可欠である。また、マナー・ルールを守る態度についても学校の指導はもちろんのこと、保護者や地域との連携が求められる。これらは、日々の暮らしの中で時間をかけて培われるものであり、保護者との情報交換を密にしながら、それぞれが担うべき役割を確認する取り組みが肝要である。

② 豊かな心を育む道德教育の推進

小・中学校ともに、道德教育の推進に関して、その重要性を理解し、すべての教育活動の中から道德性を培う取り組みを展開しつつあることを評価する。また、発達段階に応じた指導内容に留意し、かつ全教員が協力する体制が整いつつある点も評価する。

異年齢集団の交流、全校道德、行事や体験活動との関連を図る試みがなされ、さらに地域講師の活用や地域機関との連携を利用する等の工夫した取り組みが展開されてきていることに注目したい。

③ 豊かな体験活動の推進

各校さらには小・中学校で、体験活動の内容は異なるが、児童・生徒が自身の体験の中から課題を見つけ、課題解決に向けて自主的に取り組めるよう工夫が図られていることを評価する。各校の特色ある活動の継続を望む一方で、得られた成果を各校で伝え合い、新たな体験活動の推進に生かしてもらいたい。

④ 食育と体力づくり・健康教育の推進

「食育」、「薬物乱用防止」等の取り組みを推進していることを評価する。また、取り組みに関して、栄養教諭、養護教諭の活躍を今後とも期待したい。これらの取り組みが体系化され、小・中学校で継続して実施されることを強く望む。食育に関しては、保護者の理解と協力が不可欠であり、そのための情報提供や各種行事・講演会等の工夫も必要となる。

体力づくりについての言及が少ない点が少し気になる。全国体力運動能力テストなど客観的な指標を活用しながら、体系的なかつ継続した指導の推進を期待したい。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

<目 標>

学校は今、様々な教育課題への対応を求められており、本市では迅速で的確な対応を目指します。また、教育は学校のみで完結するものではなく登下校の安全面なども含め、家庭・地域との連携や協働参画することによってさらに充実が図られます。

1 多様な教育的課題への対応

① 学校安全の推進

【 目 標 】

現在必要とされている教育環境として、子どもたちが安全・安心な質の高い空間で学び、生活できるということが求められています。

防災・防犯・不審者対応では、学校や通学路等において子どもたちが安全に過ごせるよう、学校と地域のボランティアや関係機関との連携により地域ぐるみで子どもたちの環境を整備する必要があります。

また、防災・安全教育を推進し、児童・生徒が現在や将来において自他のいのちを守るために、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる能力の育成に努めます。

さらに、子どもたちの安全・安心を確保し、質の高い教育環境を整備できるよう、放課後や週末に子どもたちが体験・交流活動をするための場づくりを進められるよう取り組みを進めます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける
- ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る
- ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等の定着と充実を図る
- ④児童への安全教育の推進と教職員の危機管理能力の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①、③文化教育ゾーンの4施設と合同で避難訓練を実施し、各職員の配置や緊急時の誘導の仕方等について確認できた。今後は不審者が侵入した際の対応訓練も、各公共施設と連携して行っていきたい。
- ②月ごとの安全点検を徹底し、必要な場合は修理を早急に行うなどの対応を取った。
- ④引き続き、「逗子小学校安全マニュアル」に沿って、津波や火災、不審者など様々な危険から回避する訓練を定期的実施し、児童には「自分の命は自分で守る」という意識付けを行っていく。

沼間小学校

【目標】

- ①沼間小学校防災計画に基づいた、安全体制確立のために、地域と連携した組織運営の整備を図る
- ②不審者対策、安全教育の実施、災害用伝言ダイヤル 171 の訓練等の充実
- ③自分の命は自分で守ることができるように、各学年の発達段階に応じた安全への啓発を高めていくようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①小学校区における避難所運営会議並びに年に一回の訓練について、地域と連携した取り組みを推進することができた。
- ②不審者安全対策については、校内における実地訓練並びに実体験型の安全教室（2・3年生を対象とした「スキップ」）を行った。防災ツールを増やすために、「災害用伝言ダイヤル 171」に取り組んだ。次年度は3回の実施を計画している。
- ③道徳・学級指導・特別活動等を通じ、命の大切さをもとにした自己防衛について意識を高めさせることができた。

久木小学校

【目標】

- ①防災教育年間計画の作成に取り組む
- ②防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める
- ③PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①これまで行ってきた避難訓練や引取り訓練などを見直し、年間を見通した「防災教育年間計画」としてまとめた。この中には、授業との関連や防災意識を育てるためのオリエンテーションなども組み入れた。次年度、実施しながら検証・研究を進めたい。
- ②年間計画通りに訓練等を実施した。継続的指導により、児童の防犯意識を育てたい。
- ③地域と連携した取り組みは継続している。特に、見守り隊の地道な活動により地域の防犯意識が高まっていると感じる。児童には「自分の命は自分で守る」意識を育てるべく、PTA・地域との連携をさらに進めていきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①各教科の中で思考力・判断力の育成を充実させることにより、児童の危機管理能力を向上させるような実地訓練を計画・実施することを含み、防災教育の充実を図る
- ②様々な、災害を想定し、安全確保のための環境整備をさらにすすめる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①資料を活用しながら、各学年の発達段階に即した防災教育を道徳の授業等教育課程上に位置づけた。
- ②大規模災害の想定を拡大し、避難の仕方を検討、実践するなど環境整備を推進した。

池子小学校

【目標】

- ①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく
- ②地域との連携を通して児童の実態を踏まえた交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室を実施し、安全に対する意識の向上を図る。また、より良い環境を整備していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も計画的に行っていく。
- ②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につなげる事が

できた。今後も継続していく。

逗子中学校

【目標】

- ①逗子警察署生活安全課等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し
- ②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実
- ③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①不審者対策の講演会などを実施し、安全教育を徹底した。また、防災についても避難訓練等徹底した。
- ②年3回の避難訓練や災害伝言ダイヤル訓練を実施し成果をあげた。
- ③逗子中で実施された避難所訓練に参加し成果をあげた。

久木中学校

【目標】

- ①防犯教室などに加え携帯電話、SNS 関連に関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく
- ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく
- ③校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①年間計画に基づいて外部機関と連携して実施することができた。
- ②③防災計画に基づいて訓練を実施したが天候等により保育園との合同訓練は延期となった。

沼間中学校

【目標】

- ①保健委員会等がリーダーシップをとり、生徒自らが危機管理意識をもち、安全点検に参加する
- ②地域講師を迎えての授業に避難所運営訓練を導入し、身近な体験活動等を通じた防災教育を行う

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①まだまだ、生徒自らの危機管理意識をもった取り組みにはいたっていない。
- ②ふれあいデーや避難訓練時に、避難所運営委員会・消防署等の協力を得て、アルファ米をもどす・救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行うことができた。

② 問題行動等への対応の推進

【 目 標 】

都市化や少子化、情報化などが進展し、社会全体で様々な課題がある昨今、子どもたちの問題行動等が生じています。その背景には、規範意識や論理性の低下が関係しているとも指摘されています。このような社会情勢の中で、学校は一人ひとりの子どもの人格を尊重し、個性の伸張を図りながら、子ども自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指します。

いじめや不登校、器物破損や暴力行為等はその子にも、どの学校にも起こり得るものであることを十分認識し、地域・保護者とともにもその未然防止や早期発見・早期対応への取り組みが、今各学校において求められています。さらに、いじめについては、学校は毅然とした態度で「いじめは許されない、いじめる側が悪い」ということを明らかにして、子どもの立場にたって、親身に、適切な指導を行う必要があります。

また、不登校児童・生徒など支援を必要としているすべての子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の確立が望まれています。学校では子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう相談体制を充実させるとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図り、協働することが大切です。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①差別やいじめを許さない学級づくりを進める
- ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見、予防を心がける
- ③外部専門機関との連携を密にするとともに、支援教育推進巡回指導員などの活用を進める
- ④全校体制のもと児童個々に応じた指導・支援の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①、④「命の大切さ」を児童に伝えるため、道徳の時間を中心に全ての教科・領域の中で、「命の授業」に取り組んだ。また、児童には朝会での学校長の話の中で、保護者にはお便りで、職員には事故防止会議等で「いじめ」「暴力」「差別」の根絶を投げかけた。
- ②、③問題行動のある児童に対しては、教育相談コーディネーターが中心となって早期発見・早期対応に当たっているが、ケースによっては外部専門機関との連携を密にとり、連携して対応している。

沼間小学校

【目標】

- ①問題行動への組織的対応を図る（教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談体制の再検討）
- ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める（生活アンケートの工夫と充実した活用）
- ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る（他機関との連携の充実）

【評価】

- ① 達成した
- ② 達成した
- ③ 達成した

【成果と課題】

- ①校内における教育相談に関することとして、教育相談コーディネーターの位置づけと立ち回り、具体的な役割について、一年間を通して確立を図ることができた。次年度は二人体制を作ることにより、更なる効率と実績を高めていくようにする。
- ②児童指導部の中で生活アンケートの内容見直しは勿論のこと、記名方式を試みて実態把握の充実に努めた。
- ③支援体制の確立は、校内外を含めた連携を積極的に執り行うことで、個に応じて総合的な見地に立った支援体制をとることができた。

久木小学校

【目標】

- ①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る
- ②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく
- ③外部機関やスクールカウンセラー、巡回相談員等との連携を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①基本方針に基づいた指導を実践した。
- ②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童（保護者）への対応を進めることが出来た。校内での共通理解も進んだ。
- ③支援教育推進巡回指導員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることが出来た。必要な時にケース会議を持つことや、定期的に振り返りを行い、短期・中期目標を確認することなどが定着してきたと感じる。今後も一層の連携を図りたい。

小坪小学校

【目標】

- ①校内相談体制の向上を目指し、外部機関との連携をさらに推進する
- ②児童理解に対する校内研修を充実させ、問題行動の予防的指導に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員のアドバイスのもと、支援教室の運用を具体化することができた。
- ②児童指導に関する研修が定着しつつあり、日々の実践の中で活用することが出来ている。

池子小学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る
- ②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携を密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①支援や配慮が必要な児童には、スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員にアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。毎年心のアンケートを実施し、即対応ができています。
- ②外部機関と連携を密にし、各児童に合った支援ができた。

逗子中学校

【目標】

- ①スクールカウンセラー、うるおいフレンド（心の教室相談員）、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討
- ②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①教育相談コーディネーターを中心に人材の活用と情報の共有化を推進し成果をあげた。

- ②研究所や支援教室の利用等で、全職員の共通理解のもとで成果をあげた。今後もこの態勢で実施していきたい。

久木中学校

【目標】

- ①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める
- ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく(いじめ対応等)
- ③関係諸機関との連携を密に図り生徒一人ひとりの課題に応じた支援を計画的に行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①毎日の打ち合わせで生徒の情報を共通理解のもと、全職員が教育活動を進める事ができた。
- ②支援教育委員会を中心に定期的に生徒からの生活アンケートの情報、教師の教育活動による情報を収集し指導・対応した。
- ③外部機関との連携によりケース会議等を開くことにより計画的に支援ができた。

沼間中学校

【目標】

- ①安心・安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を学ぶ
- ②本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①研究所の協力の下、複数回の研修や実際に授業を行った。研修図書も購入したので、今後とも研修を継続したい。
- ②定期的な生活アンケートとともに、日常的に生徒を見ることを大切に、いじめの早期発見・早期対応に努めた。

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

【 目 標 】

幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、新しい環境になじめなかったり、授業中に立ち歩いたり騒いだりする問題を「小1プロブレム」といいます。

同様に、中学に入学した際に生じる問題を「中1ギャップ」といい、近年大きな問題となってきました。

これらの問題を解決し、子どもたちが希望に満ちた学校生活を送れるよう支援していく必要があります。

そのためには、幼稚園・保育園と小学校の連携、さらに小学校と中学校の連携を図り、子どもや保護者が、学びや生活が連続していると安心できるように、相互の教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める
- ②幼稚園・保育園との交換行事を学年行事として実施していく
- ③中学校との交流行事を進める

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成できなかった
- ③達成できなかった

【成果と課題】

- ①、②幼稚園、保育園との交流は、「学校へ行こう週間」や「ようこそ集会」などで単発で行っているが、交換行事やカリキュラムの検討までは進んでいない。
- ③中学校との交流も、外国語活動や生徒指導の引継ぎ等で行っているが、今後他の教科、行事にも広げて行きたい。双方の日程調整が課題となっている。

沼間小学校

【目標】

- ①幼・小・中学校間で、教員の授業交流の実施
- ②小・中 9 年間の学びの連続性に向けて、情報交流を進める。
- ③幼・保との連携では、授業交流や行事における子ども同士の交流を推進することで、一連の流れのあるつながりを推進する

【評価】

- ①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①各機関との連携は、行事の参観及び追跡調査といった形で取り組んできた。

②沼間中との連携で、義務教育「9ヵ年の学び方作り」という点で、一小一中を利点とする連続性のある学び方について、その取り組みが夏季合同研修会において始まったところである。

③毎年、本校に入学予定の大所である幼稚園・保育園児を招き、1年生がゲームや合唱等を行い、歓迎の意を表わす会を催している。本校からは、該当の保育園・幼稚園を訪れ、保育参観や情報交換を行っている。

久木小学校

【目標】

①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める

②幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①複数回にわたる小学校の授業見学、小学校の朝会で生徒が合唱発表、中学校教諭の6年生出前授業、夏休み中の部活体験など、年間を通して連携を深めることが出来た。

②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園へ参観したりするなど、職員交流の手立ての充実を図った。

小坪小学校

【目標】

①入学時に幼・保だけではなく、教育研究所や療育関係機関とも連携し、児童に対する職員間の共通理解、情報の共有も図る

②小・中連携では行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①入学児の幼・保参観をきめ細かく行うと同時に療育の観点からの聞き取りも行い指導体制の構築に努めた。

②卒業にあたっては中学校への着実な引継ぎに努め、担任だけではなく、教育相談コーディネーター同士の情報共有も行ったが行事や授業での接続は難しかった。

池子小学校

【目標】

- ①個人情報取り扱いに、より一層配慮しつつ、幼・保・小・中の連携を進め、学校生活の安心・安全の向上を図る
- ②小・中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①幼・保・小連携推進連絡調整会議において、情報交換や公開行事参観などを通し、相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。
- ②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けての児童の授業参観や部活見学、生徒会活動説明会など、学校間の交流が深まった。今後も、継続的な連携をはかっていく。

逗子中学校

【目標】

- ①小・中学校間で、教員の授業交流の実施
- ②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの実施
- ③湘南保育園との連携

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①池子小で体育教員、逗子小で英語教員が授業を行った。
- ②モデルを提示した。
- ③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園で職業体験を引き続き実施した。

久木中学校

【目標】

- ①入学してくる生徒がスムーズに中学校生活をスタートさせることができ、安心して学校生活を送れるよう一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に進める（小学校への出前授業・夏休みの教室）
- ②小学校と協同して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進め、小・中学校連携のもと児童・生徒の成長を図る

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①教育相談コーディネーターを中心に小学校との情報交換ができ中学校生活へ活かすことができた。

②生徒の合唱発表での小学校訪問、夏季休業中の部活体験、出前授業など連携が図れた。

沼間中学校

【目標】

①教職員研修等で小・中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく

②小・中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」に着手する

③小・中での授業参観や出前授業等実施する

【評価】

①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①小・中合同研修会で、学びの連続性をテーマにしたが、家庭学習の定着は検証できていない。

②小・中合同研修会において、9年間の学びのカリキュラム原案を提示することができた。
今後、この原案を元に、できるところから実践化していきたい。

③英語の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。

④ 国際教育の推進

【 目 標 】

今日、わが国では様々な面で多様な文化との接触や国際化が進展し、国際社会に生きる日本人としての資質の向上が重要な課題となっています。

これからの国際教育は、多様な文化や生活様式を知ることにとどまらず、多様な文化との共生に向けて、多様性を尊重し、多様な価値観を受容したり、ぶつかり融合したりする中、新しい価値観を創造したりすることができる等、国際社会においても自らの力を発揮できる資質や能力を育てることが必要です。

また、自分たちが生活している日本と世界の国々の現状や課題について、自分たちの思いや考えをもち、それらを自ら発信し、かつ多様な文化的背景をもった人々を理解し国際平和の実現に努める態度の育成とコミュニケーション能力の向上に努めます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める
- ② I E A（国際教育指導助手）との連携について実践していく
- ③自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業実践の実施

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①、③中学校の英語教員と相互に交流授業を行い、特に自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した外国語活動における小・中連携のあり方やカリキュラムの繋がりについて吟味した。
- ② I E A（国際教育指導助手）との連携については、高学年のほか、低・中学年にも実施し、今後の外国語活動の導入を見据え、児童に興味・関心をもたせるような教材を開発した。

沼間小学校

【目標】

- ①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る
- ② I E A（国際教育指導助手）の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る
- ③ I E A（国際教育指導助手）と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進め

る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①外国語活動の時間を通じて、毎時間において異文化理解を深める題材を扱い、コミュニケーション能力の必要性を大切にした取り組みを進めてきた。
- ②③外国語活動の授業以外でも、全学年を通じて、IEA（国際教育指導助手）が授業並びに特別活動の時間に参画し、授業実践を進めることができた。
題材の共有化については、そのための手段・方法を考えていくことを課題として考えている。

久木小学校

【目標】

- ①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る
- ②IEA（国際教育指導助手）の効果的活用を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。
- ②昨年度とは違う形でIEA（国際教育指導助手）が配置されたこともあり、これまで以上に、IEA（国際教育指導助手）とコミュニケーションを取りながら外国語活動を進めていくことに困難があった。次年度は、今年度の課題を踏まえてより良い連携を図ることが出来るよう努めたい。

小坪小学校

【目標】

- ①外国語活動中でのコミュニケーション力の育成や国際教育における、異文化理解を通して、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる
- ②各学年の教育課程上に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①IEA（国際教育指導助手）を活用し、各学年で、国際理解のための授業を設定することができた。
- ②IEA（国際教育指導助手）の勤務時間等が減り、各学年の授業がイベント的な扱いにならざるを得なかった。

池子小学校

【目標】

- ①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化活動についてふれ、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる
- ②各学年の外国語活動、国際理解の授業に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA（国際教育指導助手）との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。
- ②児童がより興味をもつ内容をIEA（国際教育指導助手）と考え、授業作りをした。様々な地域や国の文化にふれ、授業を展開した。

逗子中学校

【目標】

- ①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通じたコミュニケーション能力の育成
- ②IEA（国際教育指導助手）の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施
- ③市民性教育の一環として、修学旅行において、在住の外国人や観光客に住みやすさのインタビューをして、観光都市逗子のあり方を考える

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した
- ③達成できなかった

【成果と課題】

- ①地域人材の活用まで及ばなかった。次年度からは、地区内でのIEA（国際教育指導助手）の交流に取り組んでいきたい。
- ②IEA（国際教育指導助手）を活用し、アメリカの地域や文化を紹介した。
- ③修学旅行において、外国人とコミュニケーションをとるのは時間的にも難しい。

久木中学校

【目標】

- ①国際社会に生きる日本人としての資質の更なる向上を目指し、派遣されているIEA（国際教育指導助手）を様々な教育活動において積極的な活用を進める
- ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体・一般外国人との交流を図れるような工夫をし国際社会に生きる子ども達の育成を進める

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

① I E A（国際教育指導助手）の計画的活用が積極的にできた。

②外部機関(カモノハシプロジェクト)の活用ができ国際状況の学習ができた。

沼間中学校

【目標】

①校外活動等で、自ら、国際交流の機会を見つけ、発表していく等、実践の機会を模索していく

② I E A（国際教育指導助手）のより効果的な活用を研究していく

【評価】

①達成できなかった

②達成した

【成果と課題】

①沼中ラーニングのテーマとして、国際教育を取り入れられなかった。

②英語の授業で、 I E A（国際教育指導助手）を活用し、国際理解教育を実施した。

⑤ キャリア教育の推進

【 目 標 】

キャリア教育とは一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育です。

新学習指導要領における『生きる力』には『社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力』が含まれるとした上で、その力について具体化されている要素を学校生活のあらゆる場面で育てていくことが必要です。

子どもたちそれぞれの発達段階に応じて勤労観や社会性を養い、将来の職業について正しく理解できるよう、学校・家庭・地域など関係機関の協力を得て、キャリア教育を進めていきます。

また、キャリア教育は職業学習だけでなく、将来を見据えた「生き方の教育」であり、子どもの発達に応じたさまざまな生き方の学習に取り組んでいきます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①サマースクール等支援サポート活動を活用し推進を図る
- ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①サマースクールの工作や給食献立づくりなど保護者や学校支援地域本部事業を効果的に活用し、推進を図った。
- ②全体計画のほか、学級によっては「ふれあい授業」などで扱う場合もあり、同学年でも学級ごとに内容が異なる場合がある。今後は、学校支援地域本部事業を活用し、講師の派遣など一層の充実を図りたい。

沼間小学校

【目標】

- ①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する
- ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する
- ③学校行事並びに児童会活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①各教科、特別活動並びに総合的な学習の中で、自己の将来について見つめ直したり、課題解決を目的とした取り組みをしたりすることができた。更なる具体的なキャリア教育として位置づけられるものを、模索しているところである。
- ②各教科において、将来における職業観について見つめさせ、勤労観の大切さを学ばせてきた。体験学習については、一部の学年で実施することができた。
- ③様々な学校行事を通じて、児童会組織を中心とした活動の推進を果たすことができた。

久木小学校

【目標】

- ①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る
- ②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することが出来た。
- ②教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることが出来た。今後も、日常的な取り組みの継続が必要と感じている。

小坪小学校

【目標】

- ①キャリア教育に対する、教職員の共通理解を図り、取り組みについて検討する
- ②総合的な学習の時間の探究活動をキャリア発達に即して見直す

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間の全体計画を見直す中で、キャリア教育の視点を組み込むことの必要性は共通理解してきた。
- ②3～6年の取り組みを全体計画に沿って実施するように働きかけたが、キャリア発達に即して活動を設定するまでには至らなかった。

池子小学校

【目標】

- ①キャリア教育に対する教職員の共通理解を図り、子どもの発達に応じた様々な「生き方の教育」について検討し、その取り組みを実践する
- ②調べ学習や体験学習のねらいを再確認し地域教育力の効果的な活用を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の年間カリキュラムを作る中、4年生6年生でキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。
- ②地域や保護者の方を効果的に活用した体験的な学習を引き続き行った。

逗子中学校

【目標】

- ①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進
- ②学校行事・生徒会活動の充実
- ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラム完成

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①例年通り39箇所の事業所の協力で職業体験を実施した。
- ②PTA及び学校支援地域本部の協力のもと、取り組んだ。
- ③取り組みの3年目ということで、修学旅行の学習活動をもとに、逗子市への提言という形で発表することができた。

久木中学校

【目標】

- ①職業の選択を始めとし、自分の未来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校3年間の指導計画を作成し系統だった指導を進める
- ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域社会での職業体験を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①生徒達の将来を見据えた進路指導に活かすことができた。
- ②生徒達の職業に対する理解学習のキャリア教育講演会など地域・保護者の協力を得て取り

組むことができた。

沼間中学校

【目標】

- ① 3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育に着手する
- ② 職場体験を2日間実施し、ねらいをより深化していく

【評価】

- ① 達成した
- ② 達成した

【成果と課題】

- ① 1年生で、市長の講話や経済観光課・観光協会・資源循環課・教育研究所などの機関に協力いただいて、「沼中ラーニング」（キャリア教育と市民性教育の統合）に着手した。
- ② 2年生で、42事業所において2日間の職場体験を実施し、事前事後指導も含めて、ねらいを達成できた。

⑥ 福祉教育の推進

【 目 標 】

私たちの周りには、障がいを持つ方や高齢の方々が多く、ともすると福祉とはそのような方々のために何かをすることと、子どもたちはとらえられがちです。しかし、福祉は特別な人の誰かのためのものという限定されたものではなく、一人ひとりの

「 だんの らしの あわせ 」

を願うものという観点で、福祉教育を進める必要があります。

年齢の違い、障がいの有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり、心を育てる教育を進め、誰もが住みやすい社会をつくる担い手を育成していくことが、これからの社会において大切です。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①人と人との温かい人間関係・コミュニケーションづくりに努め、思いやりの心、人権尊重の精神を育む教育の推進をはかる
- ②地域講師やボランティアを活用した、福祉教育の実践を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①道徳の時間を中心に各教科・領域で取り組んだ。また、児童会でも「あいさつ運動」やユニセフ活動をとおして推進を図った。
- ②第4学年を中心に、逗子市社会福祉協議会や県立岩戸養護学校と連携し、身近な福祉について学んだ。また、東京で開催されるパラリンピックへの関心を高めるため、障がい者スポーツの一つであるフライングディスクを障がい者とともに行った。

沼間小学校

【目標】

- ①外部人材を活用して、各学年における年間計画の作成のもとで、指導方法の工夫改善を図る
- ②社会福祉協議会と連携し、地域と協働した児童の体験的な学習活動を推進する

【評価】

- ①達成した

②達成した

【成果と課題】

- ①教科並びに特別活動を通じて、福祉に対する理解及び必要性について扱ってきている。指導方法の工夫・改善については、今後の課題としている。
- ②社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生で行うことができた。

久木小学校

【目標】

- ①福祉学習年間計画をもとに、教科、総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む
- ②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。
- ②福祉教育の計画・実施に関わって連携を図ることが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①各学年の福祉体験活動を整理し、小坪の特色を活かした福祉教育の推進を図る
- ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意識的に取り組む

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間において、各学年とも福祉学習に取り組んだが地域の特色を生かすまでには至らなかった。
- ②日常の教育活動における教職員の人権感覚をさらに向上させるための研修を実施した。

池子小学校

【目標】

- ①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る
- ②日常的な福祉教育・人権教育を推進し、人権感覚の向上に意図的に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。
- ②各教科や、ユニセフ募金などの活動を通して、自分たちにできることを考えたり、他者を尊重する態度を培うことができた。

逗子中学校

【目標】

- ①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成
- ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長
- ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①・②共に社会福祉協議会と連携し、3年生対象に福祉教育の授業を実施した。
- ③田越川清掃活動、万引き防止キャンペーン等、新しい試みにも参加した。次年度も継続して行っていきたい。

久木中学校

【目標】

- ①発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深め生活の中で応用が出来るようにする
- ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成し生活の中で活用ができるようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①福祉防災教室と絡めた中での福祉教育学習を通して学習することができた。
- ②学校警察連絡協議会の活動を通して生徒会が中心となって、小学生のチリリンタイムや地域の行事への参加を行った。

沼間中学校

【目標】

- ①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく
- ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。

⑦ 環境教育の推進

【 目 標 】

逗子市では、今日、世界的に大きな課題となっている環境に関する諸問題の解決に向けて、逗子市環境基本計画がつくられています。

逗子市立小・中学校においても、一人の市民として自然と共生できる明るい未来の実現のために、身近な環境問題について自ら考え判断できる子どもたちを育てます。

さらに、子どもたちが自然に、環境にやさしい行動が取れるようになることを目指して、環境教育に取り組んでいきます。

また、環境教育の取り組みが、子どもたちだけの活動にとどまらず、各家庭・各地域へと広がっていくことを目指して、地域・保護者の方と、子どもたちとともに活動できるような具体的な取り組みを推進していきます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践を推進する
- ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う
- ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①児童会の環境委員会が中心となり、田越川沿いの清掃活動を行った。ごみの多さとマナーの低下を身をもって感じ、環境問題について関心を高めた。
- ②教室のゴミ箱を分別できるように分けている。また、教室から移動する際は、電気や冷暖房の電源をこまめに消すよう努めている。
- ③4年生では、浄水管理センターやクリーンセンターの見学をとおして、汚水やごみをリサイクルする過程を学んだ。そして、学んだことを家庭と連携し、ごみの分別や清掃活動などに積極的に取り組んだ。

沼間小学校

【目標】

- ①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する

②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習を推進する

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①特に、生活科、家庭科、理科、総合的な学習の時間等において、環境問題に対する興味・関心が高まった。

②夏季休業期間中の課題として、各学年の発達段階に応じて、環境問題について考えさせ、自己の考えを持つように促した。地域との具体的な協働については、今後の課題として考えていく。

久木小学校

【目標】

①教科、総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む

②逗子市の施策（グリーンカーテン等）を環境教育に生かす

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことが出来た。

②今年度もグリーンカーテンを育てることで、環境教育の一助と成すことが出来た。

小坪小学校

【目標】

①環境教育の全体計画を作成し、カリキュラム上の位置づけを明らかにする

②地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る

【評価】

①達成できなかった

②達成した

【成果と課題】

①総合的な学習の時間の全体計画の中で、環境教育の位置づけが明確にされているが、カリキュラムの中での洗い出しはまだ着手できていない。

②支援地域コーディネーターを活用し、環境に関わる体験活動の充実が図られた。

池子小学校

【目標】

①各学年の全体計画を見直し、取り組む行動事項と目標を明確に示し、環境教育を積極的に推進する

②保護者・地域、さらに関係諸機関との連携を深め、子どもたちの環境への意識を育む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムともからめながら、各学年の全体計画を見直し、取り組む行動目標や内容について、共通理解をはかり、次年度以降も進めていくことを確認した。
- ②関係機関と連携した学習活動を引き続き行った。

逗子中学校

【目標】

- ①生徒会活動を中心とした、ホタルの里づくりの推進
- ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践
- ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①初夏に天候が悪く、ホタルをあまり確認できなかった。餌のカワニナを飼育中だが、水槽に照明が欲しい。
- ②昨年度の反省を受けて12月中に3月の日程を決めて、地域清掃の連絡を行った。また来年度は総務会の方針で、10月にも地域清掃を行う予定である。また、保健委員会を中心に芝生の育成を行った。
- ③田越川の清掃活動など、新しい試みにも多く参加した。

久木中学校

【目標】

- ①地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育て活用する
- ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし活動を積極的に行う
- ③太陽光発電の施設を利用して、環境に対する意識を育て生活の中で生かせるようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①田越川の清掃活動参加などの活動を通して環境に対する意識づくりができた。

- ②生徒会が中心となってミックスペーパーの収集を計画的に取り組み、夏休みにリサイクルの仕組みも見学した。
- ③データは活用しているが更なる取り組み方を検討する。

沼間中学校

【目標】

- ①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を実行していく
- ②学校支援地域本部、P&T（本校保護者と学校との連携組織）の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①環境委員会からの企画提出にはいたらなかった。
- ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが恒常化してきた。

⑧ 情報教育の推進

【 目 標 】

逗子市では市内全校でコンピュータやインターネット、電子黒板、書画カメラ、プロジェクター、デジタルカメラなどのICT（情報コミュニケーション技術）が、多様な学習のための有効な手段として活用できる環境が整いました。ICTの急速な進歩により、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身に付けた子どもの育成が、授業の中でも重要な課題となってきました。

また、携帯電話やパソコンを持つ小・中学生が増加してきたことにより、ネット上の様々なトラブルに巻き込まれるケースも出てきています。このようなことを回避するためには、ネット上での情報交換の場におけるマナーやモラルの教育を図ることが求められてきています。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①発達段階に応じたIT機器やソフトを使用し系統性のある学習計画を実践していく
- ②情報モラルに対する意識の向上を図るため外部機関等を活用した授業を実施する

【評価と課題】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①低・中・高のブロック別に目標と評価規準を設定し、コンピュータ室を効果的に活用し、年間をとおして取り組んだ。
- ②情報モラルについては、一部児童が問題のある画像を検索してしまった経緯があったので、今後一層の危機意識をもって指導に当たる必要性を感じた。

沼間小学校

【目標】

- ①ICT（情報通信技術）機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める
- ②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①様々な授業において、ICT（情報通信技術）機器を活用した学習形態並びに児童の学習経過

や結果を発表する場面として、機器の存在価値を果たす取り組みがなされていた。

- ②特に情報モラルについては、各学年の中で適宜学習が進められている。外部講師を招いての情報教育は、今後は下の学年までを考えた計画が必要だと感じている。

久木小学校

【目標】

- ①情報教育指導計画をもとに情報教育に取り組む
- ②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①情報教育指導計画に基づいた指導を実践した。
- ②「携帯やスマートフォンに係る光と影」など、今日的課題について校内で十分課題共有し、指導に当たる必要があると感じている。次年度への継続課題としたい。

小坪小学校

【目標】

- ①引き続き、ICT（情報通信技術）機器を活用した授業に取り組み、教員のスキルの向上を図る
- ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①パソコンの入れ替えにより、各教室のICT（情報通信技術）環境がさらに充実し、授業場面で多くの実践がなされた。
- ②児童の情報機器活用能力が進んでいく中、それに伴うトラブルも避けられない状況を認識し、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、判断力の育成を図った。

池子小学校

【目標】

- ①ICT（情報通信技術）を活用した「授業の充実」と「分かる授業」の実現を積極的に図る
- ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①情報教育年間指導計画のもとに単元研究に取り組み、学年に応じて実践した。
- ②ICT（情報通信技術）を活用し、児童の意欲や関心を高めることができた。今後も、機器の活用を工夫しながら取り組みたい。

逗子中学校

【目標】

- ①市民性教育の一環として、ICT（情報通信技術）を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成
- ②ICT（情報通信技術）の「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①1年生は実物投影機、2・3年生はパワーポイントを活用して行事などの発表会を実施した。特に3年生については、Z-Learningの視点より市長や教育委員会の協力の下、情報活用能力の育成に努めた。
- ②県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。

久木中学校

【目標】

- ①情報教育全体計画に基づいて機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションが、発達段階に応じたておこなえるよう系統立てた育成をする
- ②情報モラルの育成を図り、あふれる情報を一人ひとりが正しく理解して、それを正しく活用できる力を育てる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ① 学年行事での生徒の取り組みを生徒がプレゼンテーションするなど計画的に行う事ができた。
- ② 技術の学習を中心に情報モラルについて取り組み、学校の取り組みとしてSNSなどを含めた指導を行った。

沼間中学校

【目標】

- ①ICT（情報通信技術）を活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を実践する

②教科におけるICT（情報通信技術）を活用した生徒の発表実践を増やしていく

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①・②数値的なデータはないが、授業にICT（情報通信技術）を活用する取り組みは数多く見られた。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成26年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 児童生徒安全確保事業（体験型安全教室「すきっぷ」）
- 教育相談事業
（非常勤職員4人）
- 適応指導教室運営事業（非常勤職員2人）
- 心の相談・援助事業（心の教室相談員各校1人 非常勤職員）
- 国際教育推進事業（国際教育指導助手[IEA]中学校は各校1名、小学校は5校で3名、計6名配置）
- 教育用コンピュータ維持管理事業（コンピュータリース）

(2) 主な指導内容

- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲小学校外国語活動・中学校英語科の授業づくり研修
- ▲「逗子市学校防災計画」に基づく各学校の防災計画の作成

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 88.8%）

(2) 主な成果等

【学校安全の推進】

- ・保護者、地域、外部関係機関との連携のもとに子どもの安全確保に取り組んだ。
- ・小学校2年生と小学校3年生対象に、市内全クラスにおいて体験型安全教室「すきっぷ」を実施した。

【問題行動等への対応の推進】

- ・未然防止・早期発見のために、全校が、児童・生徒の生活実態について、聞き取り調査や質問紙調査を行うなど、きめ細かく把握に努めた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築し、組織的な対応をはかることができた。
- ・外部機関と連携した取り組みを進めることができた。

【幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進】

- ・小学校・・・幼・保・小連携推進会議において、グループ協議を行い「顔の見える連携」を進めた。また、年度末に関係幼稚園・保育園・小学校との情報交換を実施し、学びの

連続性を意識した情報連携を図った。

- ・中学校・・・小・中の連携を図るため、合同研修会や情報交換の機会をもった。また、中学校の教員が小学校へ赴いて行う出前授業や部活体験(クラブ指導)等を実施した。

【国際教育の推進】

- ・中学校は各校に1名ずつの国際教育指導助手(ネイティブスピーカー)が配置されたことで、教職員との連携や生徒との交流を行う時間を確保でき、より深めることができた。
- ・単なる語学指導に終始することなく、コミュニケーションや人権、異文化理解、国際教育に発展させることができた。

【キャリア教育の推進】

- ・中学校における職業体験は定着しており、生徒にとって地域教育力を活用した貴重な体験となっている。(1日実施・・・2校、2日間実施・・・1校)

【福祉教育の推進】

- ・各教科・生活科及び総合的な学習の時間の中で計画的に実践された。
- ・社会福祉協議会(地域の教育力)との連携が定着しており、児童・生徒の実態に応じ、学校ごとに取り組みが行われた。

【環境教育の推進】

- ・総合的な学習の時間、生徒会・児童会活動の中で計画的に実践された。
- ・子どもたちの環境に対する意識を高めるために、地域教育力を活用した環境学習授業が行われた。

【情報教育の推進】

- ・小・中学校において、外部関係機関と連携しての携帯電話教室や情報モラルに関する授業を実施した。
- ・ICT機器を活用した授業を行う教員が増え、授業内容の充実も見られる。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔B〕

コメント 学校の防災体制に係る課題について各学校が教育委員会との連携のもとで取り組んだ。児童・生徒の問題行動等については、早期発見、早期解決に向けて委員会としても継続的な支援を行った。

(2) 主な成果等

【学校安全の推進】

- ・不審者情報が提供された際、臨機応変にFAXやメールで速やかにその情報を提供し、注意を喚起することができた。
- ・交通安全・不審者対応等の防犯に関わる諸機関との連携を密に行うことができた。
- ・全小学校2・3年生を対象に体験型安全教室「すきっぷ」を実施し、不審者から身を守る意識を高めることができた。
- ・県教育委員会が作成した自転車事故防止資料「チリリン・タイム」を市内の小・中学校に配布するとともに、グループウェアに掲載して活用を促した。

【問題行動等への対応の推進】

- ・各学校において早期発見・早期対応の取り組みを進めるよう働きかけた。
- ・教員と児童・生徒、保護者とのよりよい信頼関係を構築する必要性から前年度立ち上げた『信頼に基づいた指導推進担当者会』を年4回実施し、信頼に裏打ちされた、罰によらない指導の在り方を検討し、研修や情報交換を行った。
- ・校内の情報共有の徹底と、適切な指導に向けた教員個々の指導力向上を引き続き目指す。

【幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進】

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を年間3回開催した。
- ・小・中連携の取り組みを進めるために、年間5回開催された教育課程担当者会で、中学校区における情報交換を行うとともに、小・中連携のあり方や方向性について話し合った。

【国際教育の推進】

- ・年間8回の小学校外国語活動指導者研修会（兼 教育研究所国際教育・英語教育研究会）や夏季研修会を開催するなどして、逗子市小学校外国語活動ガイドラインに基づいた指導のあり方について共通理解を図った。また、小学校外国語活動・中学校英語科の授業づくりについて連携した。
- ・中学校は1校に1名ずつ、小学校は5校で3名の国際教育指導助手を配置し、国際教育・英語教育の推進を図った。

【環境教育の推進】

- ・環境教育に係る諸機関との連携を密に行うことができた。

【情報教育の推進】

- ・ICT（情報通信技術）機器（PC、プロジェクター、電子黒板、実物投影機等）の授業における活用を、情報教育研究会で研究し推進を図った。
- ・情報モラルに関する研修会を実施し、情報モラル等に関しての意識向上に取り組んだ。

4 平成27年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 学校安全の推進

- ・大規模地震及び津波の発生に備えて「逗子市学校防災計画」の見直しに引き続き取り組む。
- ・「チリリン・タイム」等を活用し、自転車での事故防止のための啓発により一層取り組む。

(2) 問題行動等への対応の推進

- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築するため、特別支援教育充実事業を充実させる。
- ・各学校と教育研究所や子育て支援課・児童相談所等の関係諸機関との有機的連携を進める。
- ・不登校の未然防止に向けた具体的な手立てを講じ、出現率の低下に努めるため、各学校の教育相談体制を充実させるとともに、居心地のよい学級づくりに取り組む。

(3) 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を継続する。
- ・小・中の教職員間に顔が見える関係を構築し、互いの教育への理解を深める。
- ・小・中9年間を通して育てる「逗子の子ども像」について、教職員間の話し合いを深める。
- ・小・中統一した書式の支援シートの作成と活用を進める。

(4) 国際教育の推進

- ・中学校英語科の授業との接続と指導法の工夫・改善も視野に入れて、小学校外国語活動の授業づくり研究を継続する。
- ・小学校にも1校に1名ずつの国際教育指導助手を配置し、国際教育・英語教育の推進を図る。

(5) 情報教育の推進

- ・ICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター等）の授業における効果的な活用を推進する。
- ・「情報モラル」についての一貫性を持った指導を検討する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

全体を通して、各学校共に、教師一人一人が目標の達成に向けて、真摯に取り組んでいる姿が伺える。

[学校安全の推進]

予想される都市型直下地震や相模湾沖地震や度々起こる集中豪雨に備えて、更にきめの細かな防災計画とそれに伴う防災訓練、地域防災の取組を重視する必要がある。

不審者対応については、各学校共、CAP を始め防犯教室の充実や学校・家庭・地域社会が連携を図りながら子供の安全に配慮しているが、特に子供に対しては「自分の命は自分で守る。」という意識付けをきちんと指導する必要がある。

[問題行動等への対応]

各学校共、「いじめ」「不登校」等の解消に向けて、日々の教育活動の充実を図るなどして成果を上げていることが伺える。特に、「いじめ」については、今後とも、些細な事象であっても決して見逃さず「いじめは、いじめられる人間の生き方を否定し、時には死に追いやる犯罪行為である。いかなる理由があろうとも、いじめは許さない、いじめる側が悪い。」ということ、保護者及び児童・生徒に毅然とした姿勢で指導に当たることを期待する。最近、小・中学生が、Line や SNS やチャット等を通して、「いじめや不登校」等に巻き込まれる事例も増えていることから、子供はもとより保護者の情報管理・選択・活用能力を高め、子供相互のコミュニケーション能力を高める指導を期待する。

また、校内暴力の低年齢化が進み、特に小1の校内暴力が増加している実態を踏まえ、子供にとって「学校は楽しい。自分の居場所がある。自分の存在が認められている。」等の安心感が味わえる学級経営や授業経営を推進すると共に、関係機関と連携して、保護者への適切な子育て支援を図る必要がある。

[幼・保・小・中学校連携の推進]

昨年と殆ど変らぬ取組である。小1プロブレム、中1キャップの問題行動が問われる中、「連携」「接続」の必要性について一層の理解を図る必要がある。

[キャリア教育の推進]

各学校共に、地域の協力を得て、職場体験などの実践を通して、子どもの「生きる力」を育む教育に取り組んでおり、一定の成果を上げているが、「何が身に付き、そこで培った力をどう活かしているか。」等を検証することも必要である。

[福祉教育]

現在の社会構造を考えたとき、要支援者サポートの在り方も含めて、全教育活動を通じて「福祉の心」を育む教育活動の充実を期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 学校安全の推進

児童・生徒が安全・安心な質の高い空間で学び生活することが強く求められている。そのためには学校、保護者、外部関係諸機関、地域との緊密な連携が必要であり、各校がその対応を着実に推進していることを評価する。

防災・安全教育では、児童・生徒が自他の命を守るために、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる能力を育成する必要がある。その際に、児童の発達段階を十分に踏まえた指導が求められる。

② 問題行動等への対応

「いじめ」をはじめとして、児童・生徒の問題行動等に対して各校が積極的に取り組んできていることを評価する。具体的問題事例に対する個々の教員の取り組みはもちろんのこと、教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実、スクールカウンセラーや外部機関との連携・協力が必要となる。ただし、基本は、問題行動の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決そして根絶にある。そのためには、学校がチームとしてこの種の問題に取り組む体制を作り上げ、関係者間（ここには当然保護者も入る）の共通理解を持つことが大事である。逗子の児童・生徒の「心の健康」を皆で守る強い覚悟を期待したい。

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

幼・保・小連携、小・中連携の推進が提唱されて久しい。この間、それぞれの連携が進んだことは評価できるが、実りある成果を達成したとは言えない。6・3制の本格的な見直しが始まり、「義務教育 9 年間の学び」が問い直されている中で、全市的に積極的な取り組みが求められる。喫緊の課題の一つである。

④ 国際理解の推進、キャリア教育の推進、福祉教育の推進、環境教育の推進、情報教育の推進

それぞれの分野で着実な成果を上げていることを評価する。特に小学校の外国語活動に関して、指導者研修会を開催し、ガイドラインに基づく指導の在り方の共有や小・中連携の授業づくり等に取り組んだことを評価する。小学校での英語教育が始まることを前提として、委員会にはなお一層の研修の充実と国際教育指導助手等の人材の確保と派遣を要望したい。

2 地域に開かれた学校づくり

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

【目標】

学校が様々な教育課題の解決に向けて取り組むとき、家庭や地域社会との連携はますます重要になってきています。

学校教育目標や重点課題等を積極的に公開し、開かれた学校運営に努めることや、保護者、地域住民に向けた学校説明会や授業公開の定例化を進め、学校を地域に十分に開くよう取り組みを進めていきます。

また、個人情報保護に十分注意しつつ学校から積極的に情報発信を行い、さらに保護者や地域住民の声に耳を傾けるなかで、地域と学校とが適切に相互理解を深めていくことを目指します。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校ホームページの充実を図る
- ②学校便り・学年便り・学級便りなど各種のお便りの充実を図る
- ③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開を行う
- ④学校ナビ（逗子小ガイド）の改訂・充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①、②根拠のない噂やツイッターによって混乱や学校への不信感をもたれないよう、学校からの情報を出来るだけ早く、正確にお知らせするため、様々な媒体をとおして発信を行った。
- ③保護者や学校評議員、学校関係者評価委員より改善点等の意見を出してもらい、意見に対する具体的方策について、学校便りやホームページを通じて発信をした。
- ④今年度学校支援地域本部及びボランティアによって逗子小ガイドの変更点や項目の加除訂正を全ページに渡って行い、大幅な改訂を行った。保護者にとって、逗子小学校の情報を知るためにより分かり易いガイドとなった。

沼間小学校

【目標】

- ①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進
- ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築（5回以上設定）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①顔の見える、間口を開いた学校をモットーにしていることから、本校における教育活動については諸機関を通じて、こまめに発信することができた。
- ②今年度からの重点の一つとして取り組んできたが、少しずつ成果を上げることができている。保護者との人間関係の構築が、安定した学年・学級運営を推進していくこと並びに信頼関係の構築につながる根源であることを、共通認識することができた年であった。

久木小学校

【目標】

- ①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める
- ②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。
- ②学校だよりを地域に回覧し始めて1年半が経つ。以前に比べ、本校の教育活動等への理解が地域にも広がってきたと感じる。更に、今年度に入りホームページの更新を週に数回行ってきた。本校の教育活動を確認する保護者も増えてきていると感じる。また、災害時には、ホームページからそれに関わる情報を取ることが出来るようにトップページに工夫を施した。今後も、更なる改善を図り、適切な情報公開を目指したい。

小坪小学校

【目標】

- ①授業参観や「学校に行こう週間」等保護者・地域への公開の場を活用し、学校教育目標や取組の実態などの周知を図る
- ②日常の授業だけではなく、研究会なども公開することにより、学校運営への理解を求める

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①「学校へ行こう週間」等で保護者、地域の方に学校の様子を公開することはできたが、そのねらいや取り組みの工夫等が伝わり、学校に対する理解が深まったとは言えない。
- ②引き続き、アンケート項目の工夫改善に取り組んだ。

池子小学校

【目標】

- ①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施
- ②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①今年度も、学校からの情報発信として、各学級・学年・学校・係からのたよりを通して、保護者・地域に発信することができた。また、年度の後半には、学校ホームページを随時更新し、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。
- ②地域コーディネーターと連携し、学校支援地域本部事業を適切かつ活発に実施することができた。

逗子中学校

【目標】

- ①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る
- ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定
- ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進
- ④池子地区総務会にも出向き、情報発信していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①PTA役員を中心に授業見学が行われた。
- ②年間5回の授業公開を行った。
- ③事例として挙げたもの全てに取り組んだ。
- ④学校長が参加した。

久木中学校

【目標】

- ①学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期

的に行う

- ②青少年育成推進の会をはじめとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め地域と学校の支援・協力体制が確立できるようにする

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校だより・学年・学級だよりは計画的に発行できているがホームページの更新を計画的に行うようにする。
- ②地域と学校が生徒の情報を共有できていて協力して支援体制がとれるようになってきた。

沼間中学校

【目標】

- ①P&T（本校保護者と学校との連携組織）として、逗P連（逗子市PTA連絡協議会）に加入すべきか検討する
- ②学校公開等あらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく
- ③関係機関との連携を密にとって、学校情報を発信していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①PTA加盟は、現状すぐには難しいと判断し、現在のP&T組織の強化を図ることから着手した（保護者の役割を増やしたり、規約改正し、前年度に運営役員三役を選出）。
- ②今年度より、毎月2回のペースで、校長通信「こぶしの花」を発行した（2月13日時点で24号発行）。
- ③学校評議員会や住民自治協議会へも参加し、連携を図った。

② 地域教育力の活用

【 目 標 】

都市化や核家族化、少子化の進行は、地域の連帯感を希薄にし、地域の教育力を低下させる要因の一つとなっています。しかし本来、地域には多彩な人的・物的なリソース（資源）があり、それを教育に生かすことは重要です。

地域の貴重なリソースを学校に取り込み、教育活動の充実を図ること、また、地域の中の活動等を通して子どもが豊かに育つことを大切にしていきたいと考えています。

これまで、市として「学校教育支援ボランティア登録制度」を立ち上げるとともに、2009年（平成21年）度に市立小・中学校全校で立ち上げた学校支援地域本部を通してボランティアを募るなど、学校支援を広く求める取り組みを進めてきました。その結果、各学校の教育活動の様々な場面で保護者や地域住民による協力を得られるようになってきていますが、今後もこの取り組みの一層の充実を図ります。

各小・中学校における平成26年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①地域協議会の活動の充実を図る
- ②サポート通信の発行を推進する
- ③学校支援地域コーディネーターを1名位置づけ、中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①サマースクールをはじめ、逗子小ガイドの改訂、読み聞かせなど本校における学校支援地域本部の役割は大きい。
- ②学校支援地域本部によるサポート通信は、ボランティアの募集の際、大変有用であった。
- ③今年度、本校における学校支援地域本部の規約を設け、学校支援地域コーディネーターを1名位置づけ、全体の調整役になってもらった。

沼間小学校

【目標】

- ①学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化
- ②地域コーディネーターを活用した新たなる人材発掘を進め、開かれた学校支援地域本部事業を展開する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①多くの見守りの手を感じる、本校の学校運営状況であり、諸機関の連携は密接に機能していた。
- ②新たなる人材発掘については、人員の増員ということで各機関の強化を果たすことができた。学校支援地域本部の取り組みについては、子どもたちの生活環境整備並びに学習効果の効率を上げるために、広範囲における活動の足跡を残すことができた。

久木小学校

【目標】

- ①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める
- ②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、毎年参加者も多く、目的を十分に果していると感じる。
- ②課題は多いが、地域の協力・連携は十分である。維持管理等々に関わって、より良い手立ての研究・試行を進めたい。

小坪小学校

【目標】

- ①学校支援地域本部を通し、保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する
- ②地域との連携を深める中で、地域素材の掘り起こしを進め、学習活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校支援地域協議会の活動について見直し、独自の活動として校内の環境整備に取り組んだ。
- ②地域人材の掘り起こしに努め、地域講師として活動してもらうことができた。

池子小学校

【目標】

- ①地域支援コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善
- ②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の推進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①地域支援コーディネーターを中心に、学校行事や各教科活動での支援やふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、多くの作品の出展協力を得ることができた。
- ②学校評議員会で今年度の活動の協力を通年で呼びかけ、環境整備など協力していただいたことをその都度報告した。

逗子中学校

【目標】

- ①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数100人以上)
- ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化
 - ・学校支援地域本部における地域コーディネーターを活用した人材発掘
 - ・小・中・高連携の充実

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①市民まつりや川清掃、万引き防止キャンペーン、池子小学童への劇上演などに延べ100人以上が参加した。
- ②芝生ボランティア、花壇整備、全校道徳への支援をいただき新たな人材を発掘した。

久木中学校

【目標】

- ①地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な方法を模索し地域と協力した活動を進める
- ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①地域と協力して、いろいろな行事などに計画的に参加活動が出来ている。
- ②学校行事への参加、授業参観などを通して多くの活動に参加して戴き反省・意見を教育活

動に反映していく。

沼間中学校

【目標】

- ①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく
- ②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①道徳の授業で地域講師を活用するなどしたが、今後一層教科等で地域人材の活用を図りたい。
- ②定着した。

③ 学校評価を生かした学校の改善

【 目 標 】

現在、学校はその教育活動全体について、絶えず自己点検・自己評価を行い、その結果を適切に分析、改善することで、教育の質を向上させていくことが求められています。そのためには、学校運営の状況について保護者や地域住民等に対して積極的に説明を行いまた保護者や地域住民の声を聞くなかで、社会の期待と信頼に応える学校づくりを目指していかねばなりません。

さらに、学校の自己評価に基づいた学校関係者評価に取り組み、評価の視点や重点をしぼり、児童・生徒・保護者・地域の方々による適切な評価を実施し、更なる教育活動の向上に取り組みます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①検討された評価項目等による学校評価を実施する
- ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善を行う
- ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①年度末には全職員にも学校評価のアンケートを実施し、授業参観等で実施したアンケートとあわせて学校関係者評価委員、学校評議員の意見を反映させ、次年度に向けた教育活動の改善を図った。
- ②春の授業参観、秋の学校へ行こう週間、そして年度末に保護者、地域に学校評価に関するアンケートを実施した。
- ③PTA及び、学校支援地域本部との連携は進んでいるが、さらに深めて行きたい。また、PTA活動と学校支援地域本部の事業との兼ね合いが課題として挙がっている。

沼間小学校

【目標】

- ①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める
- ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①保護者との人間関係の構築のために、懇談機会を増やすことをはじめとして、年度当初に重点行動目標としたことについて、意識的に結果を残せるよう取り組めた。

②学識経験者からは授業アドバイス、学校評議員及び地域教育協議会員の方からは、読み聞かせをはじめとする様々なボランティアという形で、学校運営の改善に対して積極的な参加を果たしてもらった。

久木小学校

【目標】

①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす

②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子が分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることが出来た。その助言を参考に、学校経営方針の振り返りと次年度に向けた確認を行っている。

②昨年より様式を変更した学校づくりアンケートを今年度も実施した。アンケートを集約することで、本校の課題を整理し、次年度の方向性を学校・保護者・地域で共有することが出来た。今年度は、児童へのアンケートも実施した。

小坪小学校

【目標】

①学校教育目標との関連という視点から、評価項目や評価方法の改善に取り組む

②学校評価に基づく、改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①学校教育目標の具現化をめざした重点を設定し、それに沿った評価項目を設定した。

②学校評価の結果を学校だよりで保護者・地域に発信し、改善点を明確にすることができた。

池子小学校

【目標】

- ①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析
- ②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校評価アンケートの改善と実施方法の工夫を心がけ、沢山の方々からのアンケートをいただくことができた。今後は実施時期（季節）の検討が必要である。
- ②学校関係者評価委員会の指導・助言をいただきながら、全職員で共有し、教育活動に専念することができた。それがアンケート結果に繋がっている。

逗子中学校

【目標】

- ①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する
- ②学校評価保護者回答集計を保護者に協力を求める等、情報共有し、改善策を検討していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年度の重点をお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。
- ②スキャナーによる集計が行えたので、保護者に回答集計作業の協力までは求めなかったが、学校だより等で全校配布した。

久木中学校

【目標】

- ①生徒・保護者にアンケートを適宣実施し、自己評価の中に取り入れ次回への取り組みや計画に活かしていく
- ②自己評価に対する保護者・地域、学校関係者評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度の学校運営(計画)に反映していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①行事アンケートや学校評価アンケート結果を踏まえた計画をしていく。
- ②学校評価や学校関係者評価委員会などの時期を早め、次年度の計画に取り入れられるようにした。

沼間中学校

【目標】

- ①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく
- ②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校関係者に小学校・高校・大学の関係者を置き、小・中・高・大を見据えた教育について論議した。
- ②学校の重点取り組みを明示し、文章で評価いただいた。具体的な激励や改善につながる意見を頂戴できた。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成 26 年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

●学校支援地域本部事業

逗子小学校⇒学校図書館ボランティア、読み聞かせボランティア、サマースクール、サマーコンサート、逗子小ガイドの編集（更新） など

沼間小学校⇒草刈りボランティア、手縫いボランティア、長柄・桜山古墳見学講師、七夕集会、ペンキ塗り事前準備、夏祭り灯籠づくり、校外学習支援、ミシンボランティア、視覚障がい者誘導體験、お店見学見守り、点字学習、被爆体験講演、邦楽鑑賞会、読み聞かせボランティア、図書貸し出しボランティア、グリーンボランティア（園芸飼育委員会支援） など

久木小学校⇒校庭芝生手入れサポーター、久木地区見守り隊、お話会（読み聞かせ）、学習・生活支援ボランティア、図書館ボランティア、稲作プロジェクト（代掻き・田植え）、大豆づくりサポーター、ミシンサポーター、豆腐工場見学、豆腐づくり、味噌づくり、久小わくわくフェスティバル、鎌倉見学サポート、歴史学習ゲストティーチャー、もえぎ級ゲストティーチャー など

小坪小学校⇒読書活動支援（図書室当番、朝の読み聞かせ、夏休み図書室開放の当番、「図書ボランティアだより」の発行）、逗子音頭の講習（ズシップ連合長生会）、着衣泳（リヴィエラ逗子マリーナ）、登下校見守り（小坪見守り隊）、サマースクール、運動会前日清掃ボランティア、交通安全教室（逗子警察、見守り隊）、自転車安全教室（逗子警察、見守り隊）、家庭科ミシンボランティア、津波避難経路環境整備、社会科鎌倉めぐり、学校へ行こう週間受付とパトロール、小坪小まつり、敷地内花壇整備 など

池子小学校⇒ひろがり音楽、長柄・桜山古墳見学（長柄・桜山古墳を守る会）、邦楽鑑賞会（逗子三曲会）、自転車教室・防犯教室（逗子警察署）、田植え体験（名越里山の会）、稲刈り（名越里山の会）、お話会（池小お話会）、着衣泳（逗子マリーナ）、クリーンアップ作戦（池子体育会・消防団・地域ボランティア）、など

逗子中学校⇒図書ボランティア（図書館の貸し出し返却補助）、部活動指導補助、餅つき、敷地内草取り、マラソン大会、ディベート大会練習支援 など

久木中学校⇒部活動指導補助、情報モラル教室、美術館との連携による学習、ブレインジム講習会、環境学習、熱中症予防講習会、法律教室、地域清掃 など

沼間中学校⇒ふれあいデー（地域講師）、沼中花いっぱい計画、沼中ぴっかぴか計画、サマーチャレンジ、苗植付・芽かき など

●学校支援ボランティア（3,848人）

- 学校評議員事業
- 学校関係者評価事業

(2) 主な指導内容

- ▲学校評議員会報告書の提出
- ▲学校関係者評価の報告書の提出
- ▲学校支援地域本部実行委員会（年3回）の開催
- ▲地域教育協議会の設置

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 96.3%）

(2) 主な成果等

【地域への情報発信と学校公開の工夫】

- ・ホームページや学校だより・学年だより・学級だより、メール配信、学校説明会等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進に努めた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校の地域教育協議会のメンバーが学校評議員の一員となり、学校長の求めに応じて学校運営に関する意見を述べる等、地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが進んでいる。
- ・学校支援ボランティアの延べ人数が前年度に比べて減少したものの、ボランティアを活用した学習等の取り組みが進んでいる。
- ・学校支援地域本部実行委員会を年間3回開催し、情報交換や方向性の確認、課題の整理等を行った。

【学校評価を生かした学校の改善】

- ・学校評価から見えてきた課題を、学校教育総合プラン実施計画に反映し学校運営の改善を図った。
- ・学校関係者評価を活用して学識経験を有する評価委員等の意見を自己評価の結果に加味して改善策を打ち立て、次年度の具体的な改善につなげることが出来た。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 全ての学校支援地域本部の活動は機能しており、より活性化するよう地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが進んでいる。

(2) 主な成果等

【地域への情報発信と学校公開の工夫】

- ・保護者向けのメール配信サービスを活用し、保護者や地域に向けてのきめ細かい情報発信が行われた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校にて学校支援地域本部事業が活性化し、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組み等が定着し、ボランティアが充実している。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行い、課題を共有できた。
- ・地域との協働による学校づくりをさらに進め、学校のスリム化を図りたい。

【学校評価を生かした学校の改善】

- ・「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅲ期）」で学校評価の整理を行った。

4 平成27年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

（1）地域への情報発信と学校公開の工夫

- ・ホームページの定期的な更新を促す。

（2）地域教育力の活用

- ・学校支援地域本部が自立的な組織となることをめざす。
- ・活用がより充実するために、各学校がもっている情報やネットワークの共有化（市内の人材リストの作成など）を図る。

（3）学校評価を生かした学校の改善

- ・学校の改善により良く生かす学校評価を推進していくために、一層の評価の具体化を図りたい。
- ・これまでの学校評価の結果を、学校教育総合プランの実施計画作成に反映する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈久保田 貢 氏〉

全体的に、各学校共に、日々の教育活動の公開、地域の教育力を活用した教育活動を展開するなど、家庭や地域社会から信頼される学校運営に取り組んでいることが伺える。

[地域への情報発信と学校公開の工夫]

各学校共に創意工夫を図った情報発信に努めている。HPの更新、学校・学年・学級・校長・保健室だよりなどを、保護者はもとより地域の方々や関係諸機関に発信するなどして、自校の教育活動について理解を図るよう努めていることが伺える。その中で、住民の声や保護者の声などを十分受け止める姿勢も必要である。そのことによって、更に学校への期待や信頼度が増すことになる。

同時に、常に「開かれた学校」でありたい。いつでも、誰もが教育活動に参画できるような体制作りを期待する。なお、HPについて、定期的に更新されていない学校もある。人的問題か時間的問題かは定かでないが、タイムリーな情報を期待する方もいることから、管理職は自校のHPの内容について常に気を遣う必要がある。毎年指摘しているが、教育委員会は、教職員の負担軽減を図るためにも、専任の担当者の人的配置の確保に尽力すべきである。

[地域教育力の活用]

各学校共に、地域の貴重な人的・物的リソースを活かした教育活動の充実を図っており、発足時と比して十分定着したと言える。特筆すべきことは、延べ3848人の保護者や地域住民の方が学校支援ボランティアとして、子供の教育活動に携わっており、分野も授業活動を始め読書活動、部活動、生活支援等多岐に亘っている。こうした方々の教育力を活かした教育活動を展開する上で、配慮すべきは、教師と支援ボランティアとの役割分担及び教育課程の位置付けを明確にすると共に、教育内容の精選及び授業時数の確保に努めることである。

[学校評価を生かした学校の改善]

各学校共に、学校評議員、学校支援ボランティア、地域協議会、学校関係者評価委員、地域住民、保護者、児童・生徒等の意見や日々の教育活動に対する評価等を綿密に自己分析・自己評価し、学校運営の質的改善に努めている。

今後とも、「評価のための評価」ではなく、また、「評価」という言葉が独り歩きしないよう、あくまでも「アセスメント」としての評価ができるような取組を考えると共に、評価者が、学校に対して「何ができたか」「何を期待するか」などの意思が表せるような評価を期待する。それを踏まえて、子供にとって、より分かり、より質の高い教育活動が受けられるよう、学校関係者が互いに知恵を出し合える組織作りと学校運営に取り組むことを期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

各校が、地域への情報発信と学校公開に積極的に取り組み、保護者のみならず地域からの信頼を得ていることを評価する。ホームページのみならず紙媒体を含めて様々な発信を行っていることも信頼を得る結果につながるものと考え。ただ、保護者や地域との関係性の原点は、人間関係にあること忘れてならない。学校は関係者との日常的な信頼関係の構築に最大限の努力を払い続けることが必要である。

② 地域の教育力の活用

学校支援地域本部等を通して、活発な活動が展開されてきていることを評価する。地域の教育力を最大限に発揮してもらえるよう努力を積み重ねていく必要がある。

この活動を支える人材として、学校支援地域コーディネーターの存在が大きな意味を持つことが確認されてきているが、この役割を担う人材の確保や育成に努める必要がある。

③ 学校評価を生かした学校の改善

各校が様々な工夫を重ね、学校評価を学校運営の改善に生かす方向に活用していることを評価する。工夫例として、「評価項目の見直し」、「対象者の拡大（久木小学校に見られる児童へのアンケート等）」、「実施時期（逗子小学校に見られる実施時期の拡がり）」等をあげたい。

また、沼間中学校の取り組みにも注目したい。学校関係者の中に、小学校、高校、大学関係者を含めて小・中・高・大を見据えた教育を論議する機会を設けている。さらには、文章による評価を導入することで、評価項目では表現できない具体の指摘をいただける。迅速でかつ大量のデータを処理するマークシート方式の活用のみならず、対象者の声を丁寧に拾い上げる工夫が学校運営の改善に資することにもなる。様々な取り組みの成果を各校で共有することを期待したい。

Ⅲ 教員の指導力向上

<目 標>

教育において、教員一人ひとりが専門家としての高い指導力と教育に対する情熱と使命感、そして豊かな人間性を持って教育に打ち込むことが大切です。一人ひとりの力量を高めることで教員、ひいては学校全体の信頼を高めることにつながります。

1 教員研修・研究の充実

① 授業研究の充実

【 目 標 】

学校教育において、中心となるのは授業です。授業は、教育の専門家である教職員が計画し、知識・技能の習得、活用そして子どもの自発的な探究活動を重視して展開されるものです。そのため、教職員には、具体的な授業計画の立案と優れた実践力が必要です。学習指導の充実に向けた校内研究は多岐にわたりますが、支柱をなすものは授業研究です。その成果の一つとして行う研究授業では、視点を明確にし、提案性のあることが重要なポイントとなります。また、研究授業は、授業者だけでなく全員が積極的にかかわり研究を推進し、成果を共有することに大きな意義があります。

授業研究の活性化を図り、質の高い授業を構築するためには、外部講師の招聘や他校の研究授業、研究発表会への積極的な参加が求められます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①本校の研究テーマ（伝え合う心の育成）を踏まえた授業実践の充実を図る
- ②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①、②教育課題部（研究部）を中心に校内研究の推進が図れた。今年度は、昨年度までの研究に一区切りを付け、「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」というテーマで、国語科を中心に、「言葉」を大切にする指導の工夫を追究した。低・中・高学年ブロックごとに授業研究を行い、研究講師の指導・評価を受けながら授業改善に努め研究内容の

共通理解が図れた。

沼間小学校

【目標】

- ①授業研究の日常化（毎日が参観日）を目指す
- ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める
- ③授業研究を公開（年間二回以上）し、学校内におけるの実践交流を進める
- ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①校長及び教頭はもちろんのこと、教育相談コーディネーター、うるおいフレンド、そして授業準備時間等を利用して、お互いの授業公開に努めていた。保護者に対しては、必要に応じて積極的な公開を行っていたが、どの学年でいつでもという体制を作るには、様々な条件整備が必要である。
- ②逗子市委託研究Ⅰに取り組むことで、スーパーバイザーを指導・助言の柱にして、充実した授業実践を果たすことができた。
- ③指導案を添えて前後期を通じて一回ずつ以上、全体に呼びかけた授業公開を行うことができた。
- ④校内研究を推進していくための基盤として、三つの学年ブロックを中心にした取り組みを進めてきた。

久木小学校

【目標】

- ①本校の研究テーマを踏まえて授業研究に取り組み、授業力の向上をめざす
- ②外部講師の活用を積極的に行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることが出来た。
- ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことが出来た。次年度は、年3回の研修を予定している。（講師：横浜国立大学 池田敏和教授）

小坪小学校

【目標】

- ①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする
- ②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①これまでの研究の蓄積をもとに新たなテーマを設定し、算数における既習事項を軸に6年間の見通しを持てる体制を整えた。
- ②ブロックの研究組織での取り組みを中心に全員が授業を公開し指導力の向上を図った。

池子小学校

【目標】

- ①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にする
- ②校内研究を通じて、個々の教員が指導力を高め、授業の改善を進めていく。学校全体で目標が達成できるように意識を高める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にし、その姿を実現するために総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しを行った。
- ②個々の教員が授業改善に向けて、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しに取り組み、今後に向けて共通理解を行った。

逗子中学校

【目標】

- ①学習状況調査等、客観的な評価を学習評価の工夫による授業改善にいかしていく
- ②授業研究の積極的実践（1人年2回以上）の実施
- ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実と保護者・学校関係者による授業評価の実施
- ④教科会を中心とした組織的授業研究

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①校内研究の中で取り組むとともに、教科会の話題として盛り込んだ。
- ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。
- ③すべて取り組んだ。
- ④週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。

久木中学校

【目標】

- ①研究授業の積極的な実践をおこない指導方法の工夫改善を進め教師個々の授業力向上を図る
- ②指導助言に適切な講師を依頼し、教員研修の充実と教師個々の指導力向上を図る
- ③研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上と授業力向上を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①年2回の研究授業を義務化し、自ら授業の工夫改善に取り組み授業力向上に努めた。
- ②計画的な教員研修の充実を図り、教員の指導力向上につながった。
- ③教職員同士が自ら、研修会を開き、資質向上を図るなど成果が見られた。

沼間中学校

【目標】

- ①グランドデザインの見直しと、それに基づいた授業実践を行う
- ②年間1人2回は授業公開する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①グランドデザインを校長より提示し、コンピテンシーレベルの力をどう付けていくのか、協議した。
- ②年間1回の授業公開にとどまった。

② 授業評価の活用

【 目 標 】

著しく変化する社会の中で、子どもたちの「確かな学力」を育むためには、日々の授業改善が必要です。多くの教職員が、よりよい授業を実践するためには、日々の不断の努力や研鑽を重ね、教職員一人ひとりの力量を高める必要があります。

それには、PDCAサイクルを意識した授業改善が大切です。つまり、授業のねらいを明確に示し(P)、実践し(D)、その過程や結果に対して適切な評価を行い(C)、次の計画や授業の改善を進めていくこと(A)です。

授業を適切に評価することが次の授業改善につながり、子どもたちの「確かな学力」の育成へと発展していきます。

そこで、日常の授業を質的・量的に評価し、指導に生かしていく体制づくりと、授業評価の活用に向けた教職員の取り組みを進めます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う
- ②学習指導要領に即した評価規準の充実及び指導と評価の一体化を図る
- ③家庭との連携による家庭学習の充実を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した

【成果と課題】

- ①自己評価、学校関係者評価を生かした授業改善は日々行っているが、今後も一層の授業力向上を図りたい。
- ②経験者研修に当たっている教員は、指導と評価の一体化を意識して、指導計画・評価計画を練り、研究授業でも意識して取り組めた。また他の教員についてもノートやプリント、テスト等により授業ごとの評価を行ってはいるが、次の授業へそれをどう生かし改善を図るのかは教員間でも差があり課題である。
- ③漢字や計算、日記など、学級によって家庭での課題は様々であるが、家庭との連携はよく図られている。

沼間小学校

【目標】

- ①学習状況調査の分析を活用する
- ②保護者及び関係諸氏の評価を受けることで、授業実践の見直しを図る
- ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにもなう授業改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①学習状況調査の結果が出た後に、早い段階で全体及び児童個々についての分析を済ませて、事後の指導に活かすことができた。
- ②スーパーバイザーからの指導・助言を得て、その結果を授業改善に活かすことができた。保護者からの意見や感想を拾い上げるために、感想用紙を用意して記入を求めてふり返りをすることができた。
- ③校内研究及び児童からは視点を絞った質問項目に対して記入方式で授業評価を得て、授業改善へとつなげていくことができた。

久木小学校

【目標】

- ①学習状況調査の分析を活用する
- ②外部講師による授業評価を生かした授業づくりを行う
- ③評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①逗子市の分析、学校独自の分析を踏まえ、当該学年の児童の良さを伸ばし、課題については共有するように努めた。
- ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう、ブロック研究を主に取り組んだ。
- ③指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①授業評価のあり方や活用の方法について、共通理解を深める
- ②学校の教育力の向上につながるような授業評価のあり方を引き続き検討していく

【評価】

- ①達成した

②達成した

【成果と課題】

①日々、授業のねらいの明確化を特に意識して取り組むことが共有されつつあり、目標に沿った授業評価が行われるようになった。

②引き続き、学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。

池子小学校

【目標】

①授業評価のあり方や活用の仕方について、検討していく

②授業の改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①②実際に児童や保護者などによる授業評価の実施までにはいたらなかったが、より有効な授業評価のあり方について検討することができた。次年度は確実に実施できるよう、さらに検討を重ねていきたい。

逗子中学校

【目標】

①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善

②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善

③教員相互による授業評価用紙の検討

【評価】

①達成した

②達成した

③達成できなかった

【成果と課題】

①授業公開日に実施した。

②校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。

③今後作成していく。

久木中学校

【目標】

①校内研究における授業評価・改善活用を進め授業に活かす

②生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活

動の向上につなげる

③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる

【評価】

①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①各教科ごとの授業アンケートにより授業改善を図っている。

②③生徒自らが授業アンケートに答えたり、保護者・外部関係者が公開授業を見たりして意見をいただき授業改善につなげている。

沼間中学校

【目標】

①前年度の検証・改善結果が良い方向に向かっているか再検証する

②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する

【評価】

①達成できなかった

②達成した

【成果と課題】

①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証と流れを考えていたが、2回目の実施できていない。

②アンケートの実施はできたが、回収率はあまり高くない。今後の課題である。

③ 研修事業の充実

【 目 標 】

一人ひとりの教職員がより一層専門性を高め、その力を最大限に発揮しながら学校の組織力を高めることが益々重要になってきています。そのため、各学校においては様々な研修が計画され、教育委員会においても教職員のニーズに応える研修事業を実施しています。教職員はこれら学校内外での研修会に積極的に参加し、質の高い授業を計画、実践することが大切です。

現在、教職員の大量退職と大量採用の時代にあって、ここ数年間で多くの教職員が入れ替わります。そのため、教職員のスキルアップを着実に図っていくために、学校内においてOJTを組織的に推進していくことが必要です。OJTは、勤務校で職務をとおして行う研修であり、すべての教職員を対象として、身に付けるべき力を、意識的・計画的・継続的に高めていくものです。教職員一人ひとりが専門性の向上を図ることで、学校全体として質の高い教育を提供することができます。

各小・中学校における平成 26 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①各自が積極的に授業公開を行う
- ②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す
- ③初任者や経験の少ない教員に対して学校全体で育てる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①校内研究のテーマに即し、積極的に授業公開、研究協議が進められた。
- ②自己の課題に即した、学校教育課や教育研究所主催の研修会への積極的な受講を呼びかけ、研修後はその成果を授業改善に取り入れている。
- ③初任者や臨任教員、非常勤教員については、教育指導員の指導を受け、指導力のアップを図るとともに、学年全体でフォローする体制をつくり、チームとして取り組んでいる。

沼間小学校

【目標】

- ①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成

- ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく
- ③校内人財育成の強化（メンター・メンティー、B・S の関係を位置づける）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①学習研究部、低・中・高学年ブロックを中心として、スーパーバイザーを交えた校内研究会を通じた組織運営の基盤を確立することができた。研究授業者は勿論だが、研究会の司会や発表を通じて、幅広い年齢層に渡って組織内で人財育成を果たすことができた。
- ②本校における仕事の基本スタイルとして、日々のライフワークとして定着している。
- ③自己観察書の面接の折に、キャリアプランを含めてメンタリングやB・S（ブラザー & シスター）関係のことを話題提示し、人財育成の効率化を図ることができた。

久木小学校

【目標】

- ①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる
- ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する
- ③逗子市教育指導教員を積極的に活用する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した

【成果と課題】

- ①計画的な研修を実践し、まとめることが出来た。
- ②校内研究において全担任が算数を中心に授業実践をしてきている。しかし、研修会及び教育研究所主催各種研修会への参加は、多くの職員が参加しているとは言い切れない状況にある。参加率が以前より増えてきているとはいえ、継続課題としたい。
- ③臨任・非常勤、経験の浅い教員への指導に十分活用することが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①教職員のキャリア形成に資するような研修を実施し、指導力の向上を図る
- ②校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるように、組織的に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①今年度の指導の重点から、必要な研修を計画し、積極的に取り組んだ。
- ②児童の実態や教員のニーズに沿った研修が設定され、日々の学級、学年経営に活かすことが出来た。

池子小学校

【目標】

- ①学校内のOJTが日常的に機能するように、教職員がお互いに声をかけあいながら取り組む
- ②研究研修計画をもとに、実践指導力向上のための効果的な研究・研修に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①経験の浅い教職員に対しては、日常的に学校全体で指導・支援していくよう声を掛け合っている。
- ②校内研究で、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムを見直す際には、講師による研修も取り入れながら取り組んだ。また、児童指導・保健安全に関するさまざまなニーズに対応できるような研修を年間を通して行った。

逗子中学校

【目標】

- ② 計画的な校内研修会を通じた人材育成
- ②校内の人材育成（OJT）の取り組み強化・メンター制、BS（Brother and Sister）制
- ③自主参加研修の企画運営

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成できなかった

【成果と課題】

- ①授業指導における、支援のあり方にも目を向け、実践できた。
- ②一定の成果はあったが、次年度は時間を確保することも必要である。
- ③勤務時間外の設定は、保護者対応等があり、難しいことがわかった。

久木中学校

【目標】

- ①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画

的に進め教職員の力量の向上を進める

②久木中学校の生徒に合わせた「教師のスタンダード」づくりを進める

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①新しい教職員が増えたことも含めて一度行った研修も確認も含めて再研修した。

②ユニバーサル・デザイン尺度づくりとスタンダードづくりを合わせた形で進めている。

沼間中学校

【目標】

①教育のユニバーサル化に向けた研修に着手する

②授業研究のスーパーバイザーを選任し、適切なアドバイスをいただく

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①研修とともに、教室前の掲示板にロールカーテンを取り付け、学習環境の構造化を計ったり、スクールスタンダードの作成に着手した。今後は、授業のユニバーサル化に発展させたい。

②横浜国立大学・米澤准教授をスーパーバイザーに、年間3回の講演で、本校が目指すべき授業スタイルの共有化を図った。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成26年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 研究推進校委託事業
- 校内研究事業
- 教育講演会

「困った」子？ いいえ、『困っている』子！ です。～よき理解者・支援者となるために～
講師 星山 麻木 氏（明星大学教育学部教授 / こども家族早期発達支援学会会長）

- 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業
- 学校教職員研修資料費

(2) 主な指導内容

- ▲初任者研修、経験者研修、OJTによる若手教員研修の充実
- ▲夏季研修、授業力向上研修
- ▲臨任・非常勤教員への研修

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 90.3%）

(2) 主な成果等

【授業研究の充実】

- ・各学校において新学習指導要領に対応するための授業研究に取り組んだ。

【授業評価の活用】

- ・多様な観点（外部講師、保護者等の第三者からの視点を加味する等）からの授業評価を行い、精度の向上を図っている。

【研修事業の充実】

- ・研修の効果を高めるため、目的に応じた外部講師を活用した。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 教員の授業力向上のために、少人数指導教員・教育指導教員の各学校への派遣や、市内全小・中学校への授業研究委託をした。

(2) 主な成果等

【授業研究の充実】

- ・校内におけるOJTを推進し、特に若手教員に対する組織的・計画的なベテラン教員からの指導に取り組んだ。
- ・少人数指導教員・教育指導教員派遣事業による教員経験の浅い臨時的任用教員及び非常勤講師に対する研修を実施した。

【研修事業の充実】

- ・支援教育に関する研修は、支援教育研修会や子育て講演会を通して、学校現場のニーズや今日的課題に対応した講座を設定した。
- ・教科等に関する研修は、夏季研修会や授業力向上研修を通して、実践的に進めた。

4 平成27年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

【授業研究の充実】

- ・授業研究を柱とした校内研究を全ての学校に委託し、授業力の向上と授業研究の充実を図る。

【授業評価の活用】

- ・授業についての自己チェックリストの活用をより一層促す。

【研修事業の充実】

- ・初任者研修のより効果的なあり方と内容を考える。
- ・校内OJTの一層の推進を図る必要がある。
- ・夏季研修、授業力向上研修等の一層の充実を図り、教職員のニーズや経験年数に応じた研修の質的向上を図る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

全体を通して、各学校共に、教師一人一人が目標の実現に向けて、真摯に取り組んでいる姿が伺える。今後とも、指導力の向上を目指して、自己研鑽に努めていただくことを期待する。

[授業研究の充実]

各学校とも熱心に取り組んでいることが十分伺える。教師のあるべき姿の一つとして「教育の専門家としての確かな力量」が指摘され、その中核をなすのが教師の授業力である。授業の巧拙によって、子どもの学習意欲や学び方、確かな学力の育成等に大きな影響を与える。

授業研究は、教師の授業力の向上を目指すものであり、日々の授業を通して、工夫すべき問題点や配慮すべき問題点などを洗い出し、次の授業に活かすなど授業や指導の改善に役立てるものである。そのために、授業評価が必要となる。公開授業を通して、自分では見えない・気づかない面を、外部講師や保護者、子ども、或は同僚、管理職、地域住民の方々に指導・助言を仰ぎ、授業改善に活かすとともに、教育の専門家としての力量を向上させることがねらいである。

ややもすると、「研究授業をすることが目的化」となっている節も見られないわけではない。「研究授業」は、日々の「授業研究の積み重ね」の成果を発表する場であり、新たな課題を見つける場でもある。「授業研究」と「研究授業」とは表裏一体であるが、自ずと目的が異なることを明確にすべきである。

[授業評価の活用]

指導と評価は一体である。授業改善を図る上で、授業評価は欠かせない。日々の授業で、何をみたいのか、観点なり視点を明確にし、授業計画を立て、授業活動に取り組み、授業後、自己評価と共に子ども等からの評価を最重視し、授業改善に役立てることである。そのためにも、教材分析や授業設計が重要である。子供にとって「わかりやすい授業」とは、教材分析や評価設計等が整備された授業活動であることを踏まえて、日々の授業において、PDSA を実践することが重要である。

[研修事業の充実]

各学校共に、教員構成が、正規、非常勤、臨任、再雇用と複雑化する中で、研修の在り方・設け方も難しいのが現状である。しかし、全ての教師に研修の機会を平等に設けることは管理職の務めである。若手教員が年々増える中で、OJT は効果的であるが、それには、指導役となる中堅やベテラン教師の教師力(資質)の向上を図ると共に、リーダーとしての役割を認識させることが重要である。そのための研修の充実を図る必要がある。リーダーをいかに育てるか、管理職の使命である。

その一方で、年々増えていく事務作業量が教育活動に支障を来していることも事実である。教育委員会や管理職は、減少に向けた環境整備に努めるべきである。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 授業研究の充実

各校が授業研究に積極的に取り組んでいることを評価する。まだ初期段階にあるが、「授業研究の日常化」を目指す沼間小学校の取り組みに注目したい。小学校では主として小・中・高学年ブロックごとの研究授業が報告されているが、6年間で育てたい力を明確にして、全教員で共有する必要がある。学年ブロックの壁を超える必要もある。

研究授業の基本はすべての教員の指導力の向上であり、チームとして協働の意識を深めることが必要である。また、スーパーバイザーや外部講師の指導・助言も有効に活用してもらいたい。

② 授業評価の活用

その手続きは異なるものの、小・中学校で授業評価を活用して、PDCA サイクルを意識した授業の改善に取り組んでいることを評価する。

すべての教員が、「指導と評価の一体化」、「授業の改善」、そして「確かな学力の育成」につながる一連の取り組みを強く意識することが課題となる。

学習状況調査の分析・活用や外部講師による授業評価なども積極的に取り入れていただきたい。

③ 研修事業の充実

教員の入れ替わりに伴う、特に新任教員のスキルアップが大きな課題となっている。校内のOJTを組織的に行う等、各校が研修に工夫を重ねてきていることを評価する。加えて、校外の研修会への参加を積極的に呼びかける姿勢もうかがえる。ただ、その研修を受ける時間をどのように確保するかが課題である。メンター制、BS制などが有効活用されているかも常に検証する必要がある。様々な取り組みの中で、久木中学校が掲げる「教師のスタンダード」づくりに注目したい。

なお、初任者のみならず、研修は臨任教員、非常勤教員もスキルアップの対象となる。校内のみならず、校外での研修体制について特別な配慮が必要である。

○社 会 教 育

1 点検・評価の実施方法

逗子市教育委員会における社会教育の充実に向け、社会教育係の所管する事業のうち、事務的経費や維持管理費等を除き、講座等の事業を中心に平成26年度の実施状況について評価を実施し、お知らせするものです。

なお、埋蔵文化財保護や史跡整備を主とする文化財保護関連事業につきましては、文化庁の示すガイドラインに沿って中長期の事業計画を策定し実施しておりますが、制度上は単年度事業として位置付けられ、年度ごとの事業の審査を経て、補助対象としての採択が決定するため、状況によっては計画どおりの事業内容で進められないこともあり、今回実施した点検・評価の対象から除外しております。

2 点検・評価の記載方法

社会教育課で所管する各事業について、事業ごとに目標を掲げ、取り組みの概要を記載しています。なお、評価の客観性を確保するため、社会教育委員会議において評価を行っています。

3 報告内容の構成

それぞれの事業における「目標の反映度」、「対象者の満足度」、「広報の充実度」、「目標の達成度」の4つの項目について教育委員会が評価を行うとともに、今後の課題をまとめています。「目標の反映度」とは、事業内容が目標を反映したものになっているかどうか、「目標の達成度」とは、事業を実施した後に成果を得られたか否かを評価したものです。なお、「広報の充実度」については、講座等広く周知するものに限り評価を行っています。

4つの項目の評価については、問題点が見受けられないものについては「A」、若干の問題点があるものについては「B」、大きな問題点があるものを「C」とし、社会教育委員会議において討議した上で評価しています。

さらにそれぞれの項目の評価が「A」であるものは3点、「B」は2点、「C」は1点として平均値を出し、その平均値が2.5点以上を「A」、1.5点以上2.5点未満を「B」、1.5点未満を「C」とした事業ごとの総合評価を行っています。

なお、総合評価で「A」と評価した事業は、高い事業効果が認められ、今後も継続する事業、「B」と評価した事業は、軽微な問題点がいくつかあるが、改善を加えた上で継続する事業、そして「C」と評価した事業は、問題点が多く、廃止も視野に入れた大幅な見直しが必要な事業としています。

4 点検及び評価の結果

各種講座事業

【目標】

市民のより高度な学習要求に応えます。

平成26年度の取り組み及び評価と課題

- 社会教育講座の開催
- 料理教室の開催
- パソコン教室の開催

【評価】

総合評価…A

- 社会教育講座

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

- 料理教室

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

- パソコン教室

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果】

社会教育講座については現代的課題を扱い、いずれも満足度が高く学んだことを生かしたいという声が多かった。SNS、環境、法律、フェアトレードをテーマにした講座を開催した。

料理教室については非常に人気の講座であり、満足度が高い講座になっている。地元の食材を使う、魚のさばき方を学ぶ、親子で調理する、子どもが進んで野菜を食べる工夫をする等、食育の面からも充実していると好評だった。

パソコン教室については、使用テキストや講師の説明が分かりやすいと満足度も高いものになった。平日夜間コースを設定したので、30代の受講もあった。

【課題】

社会教育講座については、設定時間が足りなくなった講座、話題が広すぎるとの指摘があった講座があり、時間配分、テーマの絞り込みに工夫が必要である。

料理教室については、進行がスムーズに行かなかった面があり、準備にさらに工夫が必要である。

学校開放事業

【 目 標 】

市民の生涯学習の場を提供し、生涯学習の推進を図ります。

平成26年度の取り組み及び評価と課題

- ・小学校校庭及び余裕教室を児童・生徒、地域サークル等に開放

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 目標の達成度…A

【成果】

活発に利用されており、市民の生涯学習の場として定着している。

【課題】

学校によって利用件数が大きく異なる。学校の立地、地域に活動場所があるかどうかにも関係するが、利用の少ない学校については、地域住民への周知が必要である。

人権・同和教育等事業

【 目 標 】

市民の学習機会の充実を図るとともに人権問題についての正しい認識を深めます。

平成26年度の取り組み及び評価と課題

- ・人権教育講演会の実施
- ・啓発新聞等の購読
- ・人権教育研修への参加
- ・人権啓発パンフレット印刷

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果】

東日本大震災の復興をテーマにした映画と講演会、児童労働をテーマにした講演会を実施した。内容が充実している、具体的でわかりやすいと好評だった。いずれも、市長部局の関連課と協力して実施した。

【課題】

他の部署と協力して行うことで、内容はより充実させることができたが、事業実施にあたり綿密な打ち合わせも必要になった。進行を円滑に行うため、さらに強力体制を充実させていく必要がある。

家庭教育推進事業

【 目 標 】

家庭教育に関する学習の機会を提供し、家庭の教育力の向上をはかります。

平成 26 年度の取り組み及び評価と課題

- ・家庭教育講座の実施

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果】

父親も母親も、子育て、家事について、ワークショップを交えながら分かりやすく学べたと好評だった。

【課題】

4回連続講座は、最終回に参加者が減ってしまった。講座の構成、回数に工夫が必要である。

小坪公民館図書貸出事業／沼間公民館図書貸出事業

【 目 標 】

地域住民の教養の向上とともに情操を養い、心豊かな生活と文化の振興に寄与します。

平成 26 年度の取り組み及び評価と課題

- ・市立図書館と連携をはかり、地域住民の要望する図書・雑誌等を提供

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 目標の達成度…A

【成果】

市立図書館との連携が図られ、地域の図書館として機能している。

【課題】

公民館の転用による運営形態の変更後も、利用者へのサービスを維持できる体制を整える必要がある。

小坪公民館学級講座事業／沼間公民館学級講座事業

【 目 標 】

地域住民の教養の向上、健康増進及び情操を養い、サークル活動等へ発展を促し、利用者の拡大と生涯学習への動機づけを行います。

平成26年度の取り組み及び評価と課題

- ・各種講座の実施

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…B 目標の達成度…A

【成果】

趣味教養を中心に幅広い分野の講座が開催されており、地域住民に浸透している。

【課題】

講座により、申し込みが少ないものがあった。参加者には好評だったので、広報の工夫が必要であると思われる。公民館所有のパソコンが古いため、今後の使用については検討が必要である。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

教育委員会社会教育課は、各種講座事業、学校開放事業、家庭教育推進事業、人権教育等事業、公民館図書貸出事業、公民館学級講座事業を行っています。

社会教育委員会議においても、平成 22 年度より社会教育事業評価を行うなど、より良い事業運営のための助言を行っています。

事業の実施にあたり、テーマ、内容に応じ、市民協働部、福祉部、環境都市部その他の市長部局の各課における啓発関連事業との共催や連携を積極的に行っているとの報告を受けています。

事業のうち、講座・講演会については、アンケート調査結果を点検・評価の基礎資料としています。平成 26 年度は、各種講座事業では現代的課題のうち SNS、環境、法律、国際問題、食育、パソコンと幅広い分野についての課題を扱っております。家庭教育推進事業では、市制 60 周年記念事業と位置付け、父親のための講座を 2 回、元 JAXA 宇宙飛行士山崎直子氏の講演を開催しています。人権教育事業では、葉山町、逗子市人権擁護委員会、生活安全課との共催による福島の復興を応援するイベントと、市民協働課の国際文化フォーラム in 逗子との同時開催で児童労働についての講演会を開催しています。いずれの事業とも幅広く多くの課題を扱い、概ね市民の満足度が高く、充実している様子が見受けられます。複数の課などと連携することで、内容が深まり質の向上が期待できますが、復興応援イベントでは協力体制の中での準備不足によると思われる機材のトラブルが起こったことは残念であり、講座運営のいっそうの努力が望まれます。

学校開放事業については、利用統計を点検・評価の基礎資料としています。学校によって利用件数が大きく異なるのは、学校の立地や住民数、地域の他の施設の多寡による面があると考えられます。学校が教育活動で使っていないときに一般の方が利用できるようにするという事業の性格上、利用件数が多くなることだけを目指すべきではありませんが、一般市民も利用できる施設であることの十分な周知は必要であると思われます。

公民館の図書貸出事業、学級講座事業については、公民館からの報告書を点検・評価の基礎資料としています。

図書貸出事業は、新規登録数、貸出数ともに毎年大きな変化はなく、地域の図書館として定着していると思われます。

公民館の学級講座は、分野も多岐にわたっており、満足度が高い様子が見受けられます。公民館所有のパソコンはかなり古くなっているため、パソコンを使った講座のあり方について検討が必要であると思われます。

社会教育関連事業の評価については、平成 26 年度事業までは単年度ごとの事業計画について行いますが、平成 27 年度からは社会教育推進プランに基づいた中長期的な視点に立った事業計画がなされ、評価もプランに基づき実施します。今後、社会教育委員会議は、社会教育推進プランと照らし合わせながら、事業の点検・評価を行っていきます。

○参 考 資 料

平成 26 年度の教育委員会の活動状況

1 教育委員（右欄の（ ）内は委員任期）

教育委員長	竹村 史朗（平成 19. 11. 13～27. 11. 12）（委員長 H23. 6. 26～）
委員長職務代理者	山西 優二（平成 20. 12. 17～28. 12. 16）（職務代理者 H23. 6. 26～）
委員	桑原 泰恵（平成 21. 12. 1～29. 11. 30） 横地 みどり（平成 23. 6. 26～27. 6. 25）
教育長	青池 寛（平成 22. 6. 21～26. 6. 20） 村松 雅（平成 26. 6. 21～30. 6. 20）

2 教育委員会開催状況（平成 26 年度実績）

定例会 12 回開催

臨時会 1 回開催

3 教育委員会審議案件

4 月定例会	平成 26 年 4 月 15 日（火）
日程第 1	教育長報告事項について
日程第 2	報告第 5 号 教育委員会職員の人事について
日程第 3	報告第 6 号 平成 26 年度逗子市奨学金受給者の給付決定について
日程第 4	報告第 7 号 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則等の一部を改正する規則の一部改正について
日程第 5	報告第 8 号 逗子市教育委員会事務決裁規程及び逗子市教育委員会管理職職員業績評価規程の一部を改正する規程の一部改正について
日程第 6	報告第 9 号 逗子市社会教育委員の辞任及び任命について
日程第 7	議案第 10 号 平成 26 年度工事計画の策定について
日程第 8	議案第 11 号 逗子市立図書館協議会委員の辞任及び任命について
日程第 9	その他
5 月定例会	平成 26 年 5 月 13 日（火）
日程第 1	2 月定例会会議録の承認について
日程第 2	3 月定例会会議録の承認について
日程第 3	教育長報告事項について
日程第 4	議案第 12 号 平成 27 年度逗子市立小学校使用教科用図書の採択方針について
日程第 5	その他
6 月定例会	平成 26 年 6 月 10 日（火）
日程第 1	4 月定例会会議録の承認について
日程第 2	教育長報告事項について
日程第 3	議案第 13 号 逗子市教育委員会公印規則の一部改正について
日程第 4	報告第 10 号 議案（平成 26 年度逗子市一般会計補正予算（第 1 号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第 5	委員長の選挙について
日程第 6	委員長職務代理者の指名について
日程第 7	その他
6 月臨時会	平成 26 年 6 月 21 日（土）
日程第 1	議案第 14 号 教育長の任命について

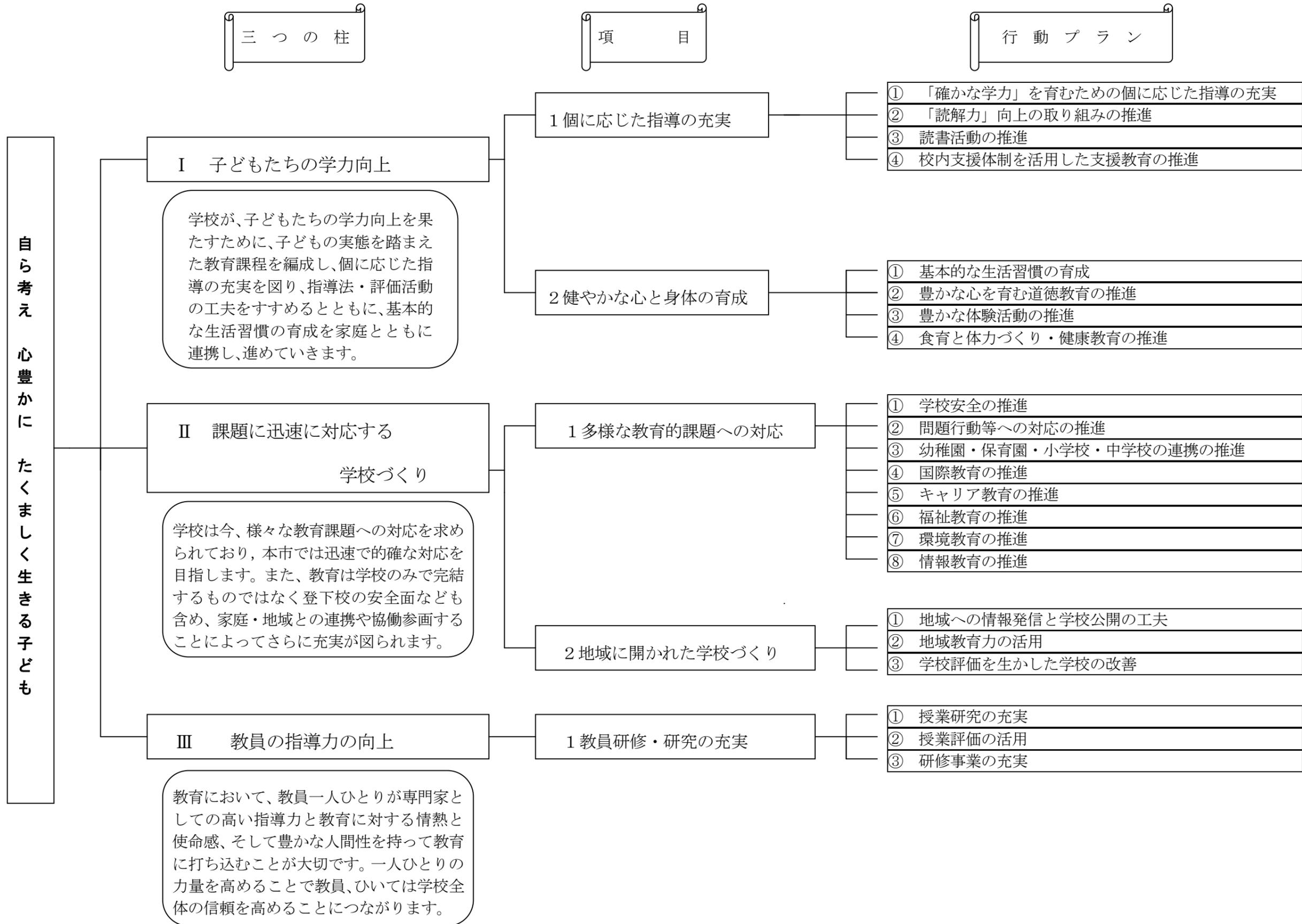
7月定例会	平成26年7月9日(水)
日程第1	5月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第11号 教育委員会職員の人事について
日程第4	報告第12号 平成26年度逗子市奨学金受給者の追加採用について
日程第5	議案第15号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について
日程第6	その他
8月定例会	平成26年8月5日(火)
日程第1	6月定例会会議録の承認について
日程第2	平成26年逗子市教育委員会第1回臨時会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	議案第16号 逗子市立体育館条例施行規則の一部を改正する規則について
日程第5	議案第17号 教科用図書の採択について
日程第6	その他
9月定例会	平成26年9月17日(水)
日程第1	7月定例会会議録の承認について
日程第2	8月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	陳情第1号 国指定史跡長柄桜山古墳群に近接したトイレの設置を求める要望書
日程第5	その他
10月定例会	平成26年10月8日(水)
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	議案第18号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
日程第3	議案第19号 議案(逗子市都市公園条例の一部改正、逗子市立図書館条例の一部改正、逗子市立体育館条例の一部改正及び逗子市公民館条例の廃止について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	その他
11月定例会	平成26年11月12日(水)
日程第1	9月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第13号 教育委員会職員の人事について
日程第4	報告第14号 議案(平成26年度逗子市一般会計補正予算(第5号))作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	その他
12月定例会	平成26年12月8日(月)
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	議案第20号 逗子市池子遺跡群資料館管理運営規則の制定について
日程第3	議案第21号 逗子市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則について
日程第4	議案第22号 逗子市立体育館条例施行規則の一部を改正する規則について
日程第5	その他
1月定例会	平成27年1月13日(火)
日程第1	10月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第1号 教育委員会職員の人事について
日程第4	報告第2号 逗子市立体育館条例施行規則の一部を改正する規則の一部改正について
日程第5	議案第1号 逗子市教育委員会事務分掌規則の一部改正について
日程第6	議案第2号 逗子市教育委員会事務決裁規程の一部改正について
日程第7	その他

2月定例会	平成27年2月10日（火）
日程第1	11月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第3号 教育委員会職員の人事について
日程第4	議案第3号 教育財産の取得の申出について
日程第5	議案第4号 逗子市立図書館協議会委員の任命について
日程第6	議案第5号 逗子市教育ビジョンについて
日程第7	その他
3月定例会	平成27年3月24日（火）
日程第1	12月定例会会議録の承認について
日程第2	1月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	報告第4号 議案（平成27年度逗子市一般会計予算）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	報告第5号 議案（平成26年度逗子市一般会計補正予算（第8号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第6	報告第6号 議案（逗子市教育長の勤務時間、休暇等及び職務に専念する義務の特例に関する条例の制定について、逗子市常勤特別職職員の給与及び旅費に関する条例等の一部改正について及び逗子市非常勤特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第7	報告第7号 県費負担教職員の任免の内申について
日程第8	議案第6号 逗子市公民館条例施行規則の廃止について
日程第9	議案第7号 逗子市郷土資料館規則の一部改正について
日程第10	議案第8号 教育財産の用途廃止について
日程第11	議案第9号 社会教育推進プラン策定について
日程第12	その他

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会（4/15）	勉強会（4/2, 4/30） 神奈川県市町村教育委員会連合会（4/9）
5月	定例会（5/13）	勉強会（5/20） 小学校運動会（5/31, 6/7）
6月	定例会（6/10） 臨時会（6/21）	勉強会（6/10）
7月	定例会（7/9）	市長との懇談（7/23）
8月	定例会（8/5）	勉強会（8/5）
9月	定例会（9/17）	勉強会（9/9） 中学校体育祭（9/20）
10月	定例会（10/8）	勉強会（10/8） 小学校運動会（10/18） 市長との懇談（10/22） 小・中学校「学校へ行こう週間」（10/29. 31, 11/4. 27. 28, 12/2. 3. 5） 神奈川県市町村教育委員会連合会研修会（10/31）
11月	定例会（11/12）	勉強会（11/18）
12月	定例会（12/8）	勉強会（12/3）

1月	定例会 (1/13)	勉強会 (1/7)
2月	定例会 (2/10)	勉強会 (2/2)
3月	定例会 (3/24)	勉強会 (3/11) 中学校卒業式 (3/13) 小学校卒業式 (3/20)



平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(逗子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①基礎・基本の定着に向けた授業改善 ②言語活動の充実に向けての研究推進 ③外国語活動の計画的な実践の推進	①分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る ②個に応じた指導の実践の充実 ③逗子小の特別な学習環境を踏まえた学習指導の実践 ④長期休業期間中の学習支援の充実 ⑤支援教室の積極的な活用
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した ⑤達成した
	成果と課題 ①校内研究を通して、学年を単位とした教材研究や指導法の検討を進め、授業改善につとめた。 ②委託研究と並行して思考力・判断力を育て高めるための言語活動の充実について取り組みを進めた。また、体育科授業研究を進め11月に研究発表を行った。 ③担当を中心に研修会を行い、時間割表の位置づけと年間計画を作成、実践に取り組んだ。	成果と課題 ①・②校内研究をおとして低・中・高ブロックを単位とし充実を図った。 ③オープンスペースの積極的な活用が図れた。 ④サマースクールについては、今年度「海洋教育」に力を置いて実施した。海での活動が主体であったが、学校支援地域本部のバックアップにより、多くのボランティアが集まり、安全に充実した内容で実施することができた。 ⑤支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターが連携して積極的に活用した。	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	H24(2012)年度取組内容 ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の実践と検証 ②発達段階に応じた読書活動の推進 ③指導法の工夫改善	H25(2013)年度取組内容 ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進 ②思考力・判断力・表現力の向上に向けての取り組みの検討	H26(2014)年度取組内容 ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の検証 ②発達段階に応じた課題図書の実践 ③指導法の工夫改善
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①と③については、委託研究において思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について研究を進め、研究成果については研究発表を行った。 ②については、学校独自の課題図書を選定するまでには至らなかった。	成果と課題 ①・② 委託研究において思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について研究を進め、研究成果については研究発表を行った。 ③ 授業参観等で管理職も積極的に指導に当たった。	成果と課題 ①・③国語科を中心に行った「言葉」を大切に指導の工夫では、横浜国立大学から講師を招聘し、授業研究を中心に検証を実施し、一定の成果を得た。 ②学校図書館指導員の尽力により課題図書の整理や紹介とともに図書の時間の有効活用が図られた。
③ 読書活動の推進	H24(2012)年度取組内容 ①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着 ③市立図書館の積極的な活用	H25(2013)年度取組内容 ①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの活用推進 ③市立図書館との連携の推進	H26(2014)年度取組内容 ①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着 ③市立図書館の積極的な活用
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価と課題) ①達成した ②達成した ③達成できなかった
	成果と課題 ①については、学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室の整理整頓を進めた。 ②については、各学年と連絡調整を行い、年間実施計画を立てて取り組みを進めた。 ③については、使用学年・学級が増え活用が進んだ。	成果と課題 ①学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室の整理整頓を進めた。 ②各学年と連絡調整を行い、年間実施計画を立てて取り組みを進めた。 ③使用学年・学級が増え活用が進んだ。	成果と課題 ①今年度より貸出し方法をこれまでの「ブックカード方式」から「DATE DUE」に変更したが、手続きの簡素化が出来、貸出し数の増加にも繋がった。 ②今年度も多くの読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせを全学年で実施した。 ③児童への周知が不十分なこと、ネットワークを介した検索システムが確立していないことなどが挙げられる。
④ 校内支援体制を活用した支援教育の充実	H24(2012)年度取組内容 ①校内支援チームの取り組みの充実 ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラー、巡回相談員、うらおいフレンドや外部・専門機関との連携の充実 ④支援教室の活用を進める	H25(2013)年度取組内容 ①校内支援会議等を通して情報共有と組織的な取り組みを推進 ②保護者との密な連携による支援の実践 ③校内支援体制を確立し外部専門機関との連携を推進	H26(2014)年度取組内容 ①校内支援チームの取り組みの充実 ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、うらおいフレンドや外部専門機関との連携の充実
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した
	成果と課題 ①については、年3回の児童理解研修会を行うとともに、毎月の職員会議で情報交換を行った。また、校内支援会議では教育相談CDを中心に具体的な支援の手立て等を検討し、実施した。 ②については、支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を図り、支援の方法や内容については職員間で共通理解を行い、巡回指導員の手も借りて実践した。 ③については、心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスを受けた。また、保護者の対応についても支援していただいた。 ④については、支援教室の整備を行い、児童の個別支援や保護者相談の場として活用した。	成果と課題 ①年3回の児童理解研修会を行うとともに、毎月の職員会議で情報交換を行った。また、校内支援会議では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立て等を検討し、実施した。 ②支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を図り、支援の方法や内容について職員間で共通理解を行い、巡回指導員の手も借りて実践した。 ③心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスを受けた。また、保護者の対応についても支援してもらった。	成果と課題 ①3名の教育相談コーディネーターを中心に児童相談所、市子育て支援課、スクールソーシャルワーカーと定期的にケース会議をもち、情報共有だけでなく、今後の具体的な方向性についても検討を進めた。 ②主な進学先2校の教育相談コーディネーターと連携を密に取った。また、心の教室相談員も中学校と情報交換を積極的にに行った。 ③教育相談コーディネーターだけでは対応できないケースについては、積極的に外部専門機関を利用し、みとりと方向性を確認した。 ④支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターが連携して積極的に活用した。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①あいさつ運動の推進 ②基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者に評価を聞き指導に生かしている。 ②については、児童への指導やPTAと連携は進めてきたが、保護者を巻き込んだ取り組みとはなっていない。 ③については、各クラスで取り組んでいる。</p>	<p>①あいさつ運動の推進 ②基本的な生活習慣育成について学校から発信していく ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者に評価を聞き指導に生かしている。 ②児童への指導をやPTAと連携は進めてきたが、保護者を巻き込んだ取り組みは今後さらに進める必要がある。 ③各クラスで取り組んでいる。</p>	<p>①あいさつ運動を推進する ②マナー・ルールを守る態度を育てる ③基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく ④学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した ④ 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会を中心に「あいさつ運動」を継続して行った。 ②道徳の時間を中心に全ての教科・領域、また学校行事等でも集団行動での規律やマナー等の指導に力を入れた。児童の中でお互いに守っていくという意識が根付いてきているが、登下校中のマナーはまだ不十分である。 ③④お便りや懇談会、PTA運営委員会と呼びかけ連携した取り組みを進めていく。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の連携を図る ②児童会活動の活性化と充実を図る ③異年齢集団の交流を推進する(縦割り集団によるグループ活動への取り組み)</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践は行われ、成果も上がっている。各教科・特別活動指導における道徳との関連については、十分にできていない。 ②については、児童会担当教員がよく児童を指導し、縦割り集団や東日本大震災募金活動などにも取り組みを行うことができた。 ③については、縦割り集団活動の内容充実を図ることができた。</p>	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の連携を図る ②児童会活動を活性化させていく ③異年齢集団の交流を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践は行われ、成果も上がっている。各教科・特別活動指導における道徳との関連についても配慮できた。 ②児童会担当教員がよく児童を指導し、縦割り集団やユニセフ募金、マダガスカル小学校支援活動などにも取り組むことができた。 ③縦割り集団活動の内容充実を図ることができた。</p>	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の連携を図る ②児童会活動等を通して自ら取り組む主体的な姿勢を育てる ③異年齢集団の交流を推進する(たてわり集団によるグループ活動への取り組み)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①各教科・領域を横断的に取り上げ積極的に実践を行った。 ②特にユニセフ活動を中心に全校をとおして活発に活動した。 ③今年度より異学年集団の交流のねらいをより明確にしていたため、活動内容を祭系からグループ活動系に変更した。活動については工夫・改善が必要であるが、ねらいはほぼ達成できた。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、文化庁巡回体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験を行った。また学年独自で邦楽鑑賞なども行ってきた。 ②については、職員室前の廊下や階段等に、児童の作品や地域の方々の方々の作品を展示した。 ③については、高学年で行った宿泊行事は児童間の人間関係を深めるなどの成果を上げた。</p>	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①文化庁巡回体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験を行った。また学年独自で邦楽鑑賞なども行ってきた。 ②職員室前の廊下や階段等に、児童の作品や地域の方々の方々の作品を展示した。 ③高学年で行った宿泊行事は児童間の人間関係を深めるなどの成果を上げた。</p>	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する ③宿泊行事やサマースクール(海洋体験教室)などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①今年度より高学年を対象に「影絵」、低・中学年を対象に文化庁巡回公演の劇を鑑賞した。 ②職員室前の廊下やオープンスペース等に、児童の作品や地域の方々の方々の作品を展示した。 ③夏季休業中にも関わらず多くの参加があった。体験活動では、児童が協働して取り組むプログラムも多く用意し、相互の人間関係、信頼関係を深めることができた。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める ②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めて行く(運動能力調査の実施) ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。 ②については、運動能力の測定等を行い、児童の実態を把握することができた。 ③については、栄養教諭配置となり、学年ごとの食育授業やサマースクール講座なども開催して、保護者とも連携し進めることができた。</p>	<p>①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく ②健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく ③早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。 ②運動能力の測定等を行い、児童の実態を把握することができた。 ③栄養教諭配置となり、学年ごとの食育授業やサマースクール講座なども開催して、保護者とも連携し進めることができた。</p>	<p>①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める ②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めて行く(運動能力調査の実施) ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①2名体制の養護教諭を有効に活用し、特にインフルエンザ、溶連菌感染症等の流行性感冒についての未然防止・早期対応を迅速に図った。 ②運動能力調査を実施し、本校の児童の特徴や向上すべき点を分析し、指導に役立てた。 ③栄養教諭の配置校である本校では、各学年での食育の推進とともに、給食試食会等をおして、保護者向けの食育も充実させた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③大規模地震・大規模津波を視野に入れた総合的な防災計画を作成する	①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等の定着と充実を図る ④児童への安全教育の推進と教職員の危機管理能力の充実を図る
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した
		成果と課題 ①、②PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、関係機関との合同点検を実施できた。 ③防災アドバイザーの助言のもと津波避難の在り方を検討し具体化させた。	成果と課題 ①、③文化教育ゾーンの4施設と合同で避難訓練を実施し、各職員の配置や緊急時の誘導の仕方等について確認できた。今後は不審者が侵入した際の対応訓練も、各公共施設と連携して行ってきたい。 ②月ごとの安全点検を徹底し、必要な場合は修理を早急に行うなどの対応を取った。 ④引き続き、「逗子小学校安全マニュアル」に沿って、津波や火災、不審者など様々な危険から回避する訓練を定期的実施し、児童には「自分の命は自分で守る」という意識付けを行っていく。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進		①差別やいじめを許さない学級づくりを行う ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる ③外部専門機関との連携を密にしておく	①差別やいじめを許さない学級づくりを進める ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見、予防を心がける ③外部専門機関との連携を密にするとともに、支援教育推進巡回指導員などの活用を進める ④全校体制のもと児童個々に応じた指導・支援の充実を図る
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した
		成果と課題 ①毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。 ②支援教育の推進と同様に考えている。 ③支援教育の推進と同様に考えている。	成果と課題 ①、④「命の大切さ」を児童に伝えるため、道德の時間を中心に全ての教科・領域の中で、「命の授業」に取り組んだ。また、児童には朝会での学校長の話の中で、保護者にはお便りや、職員には事故防止会議等で「いじめ」「暴力」「差別」の根絶を投げかけた。 ②、③問題行動のある児童に対しては、教育相談コーディネーターが中心となって早期発見・早期対応に当たっているが、ケースによっては外部専門機関との連携を密にとり、連携して対応している。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める ②幼稚園・保育園との交換行事を学年行事として実施していく ③中学校との交流行事を進める	①幼稚園・保育園との情報交換を密にしておく ②幼稚園・保育園との交換行事を実施していく ③中学校との交流行事を検討する	①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める ②幼稚園・保育園との交換行事を学年行事として実施していく ③中学校との交流行事を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成できなかった
	成果と課題 ①については、就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行った。 ②については、次年度就学予定の園児との交流を行い高い評価を頂いているが、こちらから出かけていく交換行事は行えなかった。 ③については、職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、交流を進めることができた。	成果と課題 ①就学予定園児について、幼稚園・保育園と連携ができた。 ②次年度就学予定の園児との交流を行い高い評価を頂いているが、こちらから出かけていく交換行事は行っていない。 ③職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、交流を進めることができた。	成果と課題 ①、②幼稚園、保育園との交流は、「学校へ行く週間」や「ようこそ集会」などで単発で行っているが、交換行事やカリキュラムの検討までは進んでいない。 ③中学校との交流も、外国語活動や生徒指導の引継ぎ等で行っているが、今後他の教科、行事にも広げて行きたい。双方の日程調整が課題となっている。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める ②IEAとの連携について実践していく ③評価規準等について検討を進める	①外国語活動の在り方について職員研修を行う ②IEA(国際教育指導助手)との連携について検討を進める ③評価等について検討を進める	①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める ②IEA(国際教育指導助手)との連携について実践していく ③自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業実践の実施
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①、②については、校内で研修を進め、また、IEAとのコミュニケーションも担当が調整しながら、担任を中心とした授業実践を進めている。 ③については、各学年で検討をしているが、学校として定めるには至っていない。	成果と課題 ①、② 校内で研修を進め、また、IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションも担当が調整しながら、担任を中心とした授業実践を進めている。 ③各学年で検討を試し行っているが、学校全体としての計画を定めるには至っていない。	成果と課題 ①、③中学校の英語教員と相互に交流授業を行い、特に自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した外国語活動における小・中連携のあり方やカリキュラムの繋がりに関して吟味した。 ②IEA(国際教育指導助手)との連携については、高学年のほか、低・中学年にも実施し、今後の外国語活動の導入を見据え、児童に興味・関心をもたせるような教材を開発した。

【逗子小学校】

	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
<p>行動プラン</p> <p>⑤ キャリア教育の推進</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①他校の実践事例等の情報を収集し、発達段階におけるキャリア教育の在り方を探る ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①、②とも、キャリア教育について研修が不十分であり、教職員間の共通理解や実践報告などを校内で行うことはできなかった。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う ②2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①一定程度のキャリア教育に係る個別の研修も行い教職員間の共通理解が進んでいるが、校内研修で取り上げて研修を深めるまでには至っていない。 ②2分の1成人式の取り組みが定着し、児童や保護者にも好評である。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①サマースクール等支援サポート活動を活用し推進を図る ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①サマースクールの工作や給食献立づくりなど保護者や学校支援地域本部事業を効果的に活用し、推進を図った。 ②全体計画のほか、学級によっては「ふれあい授業」などで扱う場合もあり、同学年でも学級ごとに内容が異なる場合がある。今後は、学校支援地域本部事業を活用し、講師の派遣など一層の充実を図りたい。</p>
<p>行動プラン</p> <p>⑥ 福祉教育の推進</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①地域講師やボランティアを活用し、身の丈にあった福祉教育の実践を行う ②児童の生活に根ざした福祉教育について実践を行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、外部講師を活用し実施した。 ②については、福祉教育担当者会で確認されている「ふつ々の・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う ②児童の生活に根ざした福祉教育について検討する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①外部講師を活用し実施した。 ②福祉教育担当者会で確認されている「ふつ々の・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①人と人の温かい人間関係・コミュニケーションづくりに努め、思いやりの心、人権尊重の精神を育む教育の推進をはかる ②地域講師やボランティアを活用した、福祉教育の実践を進める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳の時間を中心に各教科・領域で取り組んだ。また、児童会でも「あいさつ運動」やユニセフ活動をとおして推進を図った。 ②第4学年を中心に、逗子市社会福祉協議会や県立戸養護学校と連携し、身近な福祉について学んだ。また、東京で開催されるパラリンピックへの関心を高めるため、障がい者スポーツの一つであるフライングディスクを障がい者とともにいった。</p>
<p>行動プラン</p> <p>⑦ 環境教育の推進</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践 ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや放射線測定器を活用した児童の観測を行っている。 ②については、5年生を中心にエコノートや外部講師によるエコクッキングの取り組みを進めた。 ③については、家庭と連携してエコノートやエコクッキングの取り組みを進めた。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや気温の計測などの取り組みを行った。 ②5年生を中心に家庭と連携してのエコノートやエコクッキングの取り組みを進めた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践を推進する ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会の環境委員会が中心となり、田越川沿いの清掃活動を行った。ごみの多さとマナーの低下を身をもって感じ、環境問題について関心を高めた。 ②教室のゴミ箱を分別できるように分けている。また、教室から移動する際は、電気や冷暖房の電源をこまめに消すよう努めている。 ③4年生では、浄水管理センターやクリーンセンターの見学をとおして、汚水やごみをリサイクルする過程を学んだ。そして、学んだことを家庭と連携し、ごみの分別や清掃活動などに積極的に取り組んだ。</p>
<p>行動プラン</p> <p>⑧ 情報教育の推進</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じた系統性のある学習計画を実践していく ②高学年対象に情報モラルについて外部機関による授業を実施する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①については、情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②については、今年度は外部機関との連携による授業を行うことができなかった。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う ②必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②資料を基に高学年で指導した。今年度は外部機関を招へいしての学習は行うことができなかった。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じたIT機器やソフトを使用し系統性のある学習計画を実践していく ②情報モラルに対する意識の向上を図るため外部機関等を活用した授業を実施する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①低・中・高のブロック別に目標と評価規準を設定し、コンピュータ室を効果的に活用し、年間をとおして取り組んだ。 ②情報モラルについては、一部児童が問題のある画像を検索してしまった経緯があったので、今後一層の危機意識をもって指導に当たる必要性を感じた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①学校ホームページの充実 ②学校便り・学年便り・学級便りなどの充実 ③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開 ④学校ナビの活用	①学校ホームページの更新・発信を行う ②学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信 ③保護者だけでなく地域への情報発信(掲示板等の活用)	①学校ホームページの充実を図る ②学校便り・学年便り・学級便りなど各種のお便りの充実を図る ③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開を行う ④学校ナビ(逗子小ガイド)の改訂・充実を図る
	(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した ④達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した
	成果と課題 ①については、組織的な取り組みが不十分であった。 ②については、学校・学年・学級の便りは共に充実していた。 ③については、行事等で保護者アンケートを実施し意見の反映を心がけた。 ④については、様々な場面で活用し保護者にも啓発した。	成果と課題 ①教務部が担当し発信・更新を行った。 ②学校・学年・学級の便りの充実が図れた。 ③行事等で保護者アンケートを実施し意見の反映を心がけた	成果と課題 ①、②根拠のない噂やツイッターによって混乱や学校への不信感をもたれないよう、学校からの情報を出来るだけ早く、正確にお知らせするため、様々な媒体をとおして発信を行った。 ③保護者や学校評議員、学校関係者評価委員より改善点等の意見を出してもらい、意見に対する具体的方策について、学校便りやホームページを通じて発信をした。 ④今年度学校支援地域本部及びボランティアによって逗子小ガイドの変更点や項目の加除訂正を全ページに渡って行い、大幅な改訂を行った。保護者にとって、逗子小学校の情報を知るためにより分かり易いガイドとなった。
② 地域教育力の活用	①地域協議会の活動の充実 ②サポート通信の発行 ③学校支援地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実	①これまでの学校支援地域本部事業の整理 ②サポート通信の発行 ③地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み	①地域協議会の活動の充実を図る ②サポート通信の発行を推進する ③学校支援地域コーディネーターを1名位置づけ、中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実を図る
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①②③学校支援地域本部事業のなかで実施できた。今年度は『逗子小ガイド』を作成し、地域との連携も進んだ。	成果と課題 ①、②、③学校支援地域本部事業の中で実施できた。今年度は『逗子小ガイド』の改定作業を行い、その中で地域との連携も進んだ。	成果と課題 ①サマースクールをはじめ、逗子小ガイドの改訂、読み聞かせなど本校における学校支援地域本部の役割は大きい。 ②学校支援地域本部によるサポート通信は、ボランティアの募集の際、大変有用であった。 ③今年度、本校における学校支援地域本部の規約を設け、学校支援地域コーディネーターを1名位置づけ、全体の調整役になってもらった。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①検討された評価項目等による学校評価の実施 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善 ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実	①学校評価の場面、内容、項目等についての再検討 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進	①検討された評価項目等による学校評価を実施する ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善を行う ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実を図る
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①、②については、教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行い、学校の教育活動に反映するようになった。 ③については、日時計再設置作業やクリーンアップイベント、サマースクール・サマーコンサート等で実践できた。	成果と課題 ①、②教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行い、学校の教育活動に反映するようになった。 ③クリーンアップイベント、サマースクール・サマーコンサート等で実践できた。	成果と課題 ①年度末には全職員にも学校評価のアンケートを実施し、授業参観等で実施したアンケートとあわせて学校関係者評価委員、学校評議員の意見を反映させ、次年度に向けた教育活動の改善を図った。 ②春の授業参観、秋の学校へ行こう週間、そして年度末に保護者、地域に学校評価に関するアンケートを実施した。 ③PTA及び、学校支援地域本部との連携は進んでいるが、さらに深めて行きたい。また、PTA活動と学校支援地域本部の事業との兼ね合いが課題として挙がっている。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①本校の研究テーマを踏まえた授業実践の充実を図る(市研究委託を受け体育を中心に研究を進める)</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、体育を中心とした研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、文化教育ゾーンの施設活用を行った。 ②については、研究授業および事前検討等で指導助言等を受け、授業に活かすよう心がけた。</p>	<p>①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①体育を中心とした研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、文化教育ゾーンの施設活用を行った。 ②研究授業および事前検討等で指導助言等を受け、授業に活かすよう心がけた。</p>	<p>①本校の研究テーマ(伝え合う心の育成)を踏まえた授業実践の充実を図る</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②教育課題部(研究部)を中心に校内研究の推進を図れた。今年度は、昨年度までの研究に一区切りを付け、「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」というテーマで、国語科を中心に、「言葉」を大切に指導の工夫を追究した。低・中・高学年ブロックごとに授業研究を行い、研究講師の指導・評価を受けながら授業改善に努め研究内容の共通理解が図れた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う</p> <p>②外部講師による授業評価を生かした授業作り</p> <p>③児童の学力把握の調査結果を生かした授業作り</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、授業参観や学校へ行く週間などの際に、授業に関しての評価を保護者にしてもらった。 ②については、研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。 ③については、学年ごとに児童の学習状況を把握し活用を図った。</p>	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施する</p> <p>②外部講師による授業評価を活用する</p> <p>③児童の学力把握の調査を活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①授業参観や学校へ行く週間などの際に、授業に関しての評価を保護者にしてもらった。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。 ③学年ごとに児童の学習状況を把握し活用を図った。</p>	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う</p> <p>②学習指導要領に即した評価規準の充実及び指導と評価の一体化を図る</p> <p>③家庭との連携による家庭学習の充実を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①自己評価、学校関係者評価を生かした授業改善は日々行っているが、今後も一層の授業力向上を図りたい。 ②経験者研修に当たっている教員は、指導と評価の一体化を意識して、指導計画・評価計画を練り、研究授業でも意識して取り組めた。また他の教員についてもノートやプリント、テスト等により授業ごとの評価を行っているが、次の授業へそれをどう生かし改善を図るのかは教員間で差があり課題である。 ③漢字や計算、日記など、学級によって家庭での課題は様々であるが、家庭との連携はよく図られている。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す</p> <p>③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、校内研究推進において授業公開を行った。 ②については、自己目標で課題を明確にしたが、それに応じて積極的に研修を行うまでには至らなかった。 ③については、初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</p>	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受ける</p> <p>③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究推進においてほぼ全員が授業公開を行った。 ②自己観察書研修目標で課題を明確にし、それに応じて研修を行うことができた。 ③初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</p>	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す</p> <p>③初任者や経験の少ない教員に対して学校全体で育てる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究のテーマに即し、積極的に授業公開、研究協議が進められた。 ②自己の課題に即した、学校教育課や教育研究所主催の研修会への積極的な受講を呼びかけ、研修後はその成果を授業改善に取り入れている。 ③初任者や臨任教員、非常勤教員については、教育指導員の指導を受け、指導力のアップを図るとともに、学年全体でフォローする体制をつくり、チームとして取り組んでいる。</p>

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(沼間小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導	①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への、具体的な工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導、並びに家庭学習の充実 ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	
		成果と課題 ①校内研究や授業研究の実施に伴い、「わかる授業」への工夫改善は進んだが、今後も継続する必要がある。 ②発達段階に応じた学習の仕方についても学年で共通理解を図りながら、今後も継続していく。	成果と課題 ①基礎・基本の定着のために、補習を含めたさまざまな手段を使って、子どもたちを導いてきている。「わかる授業」から「ともに学び合う」授業を次の課題にして取り組んでいる。 ②家庭学習の必要性については、学級及び学年通信、学校だよりを通じて保護者の協力を得ながら、定着した効果を上げている。 ③「ともに学ぶ授業」づくりを目指していることにより、教員は学び合うことで子どもたちが答えを割り出せる、授業展開及びそのための教材づくりを研究している。	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	H24(2012)年度取組内容 ①各教科で言語活動の充実を目指す ②「自分の考えを表現できる」を指導目標 ③「学び合い」を大切に授業	H25(2013)年度取組内容 ①各教科での言語活動の充実 ②自分の考えを表現できる子の育成 ③「学び合い」を大切に授業づくり	H26(2014)年度取組内容 ①各教科における、言語活動の充実を目指した年間指導計画及び授業づくり ②自分の考えを、自分の言葉にして表現しようとする子どもの育成 ③各教科並びに様々な教育活動を通じて、「学び合い」を大切に授業づくり	
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	
	成果： ①については、校内研究で全職員が取り組んだ。 ②については、校内研究でサブテーマとして取り組んだ。 ③については、発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題：「表現する力の系統性」を生かして読解力の向上・定着に向けた取り組みを継続する。	成果と課題 本校の校内研究のテーマに沿って全職員が取り組んだが、継続することで読解力のさらなる向上を図る。	成果と課題 ①言語活動の充実を図ることは、各教科並びに特別活動等において、実施されてきた。その中で扱われてきた題材を通じて、計画的な指導を行うことができた。 ②いわゆる自己表現活動、プレゼンテーション能力の育成だが、これは毎朝の会のスピーチや、各教科並びに総合学習等の発表において実践することができた。 ③「学びあい」は校内研究のテーマでもあるので、さまざまな教育活動においてアクセントをもたせた取り組みができています。	
③ 読書活動の推進	H24(2012)年度取組内容 ①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活用を位置づける	H25(2013)年度取組内容 ①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活動を位置づける	H26(2014)年度取組内容 ①読書活動の日常化を果たすことによって、子どもたちの学校生活の基盤を養う ②子どもたちが、読書に親しみやすい環境を整備していく(学習情報センターとしての、図書館機能の充実) ③学習活動の中に、子どもの発達段階に応じた読書活動を位置づける	
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	
	成果： ①については、全職員が取り組んでいる。 ②については、読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。 ③については、学校図書館指導員と連携した指導が展開された。 課題：学習活動で有効な図書活用を工夫する。	成果と課題 本校の読書活動が全教職員の共通理解の下で進められていることや、児童による図書委員会の取組、学校支援地域本部事業での取組が定着していることが児童の読書環境の充実に役立っている。	成果と課題 ①読み聞かせボランティアが日替わりで、各クラスの朝の会において、読み聞かせを行うとともに、教室内に書物が整備されていて親しまれている。 ②図書室及び調べ教室共に、子どもたちが興味・関心を持ちやすく、また調べ学習をする上でニーズに合った条件整備が整えられている。 ③休み時間、学習時間等を通して、読みに親しむ習慣は、各学年及びクラスの中で定着している。	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①校内支援体制を現状にあわせて構築する ②支援ニーズの把握と指導の充実を目指す ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実	H25(2013)年度取組内容 ①校内支援体制の構築 ②支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援と保護者との連携・協働の推進	H26(2014)年度取組内容 ①校内支援体制における円滑な組織運営 ②児童並びに保護者に対する支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援及び保護者・外部機関との連携・協働の推進	
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	
	成果： ①については、小学校対応心理職の配置を活用して、校内支援体制が機能してきた。 ②については、児童の情報共有と役割分担が進んだ。また、心理職との連携が進み、継続的な看取りとその後のフィードバックが指導に生かされた。 ③については、支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携が進んだ。 課題：気づきの早い段階から支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携を行い、個に応じたきめ細かな取り組みを進める必要がある。	成果と課題 ①校内支援体制づくりへの共通理解は進み、学年協働、学校内支援が進んでいる。 ②支援シートを記入する取組では保護者との連携が欠かせない。 ③保護者と信頼関係を結び、連携・協働をさらに推進していきたい。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした組織運営及び体制作りを、今年一年をかけて確立してきた。次年度は二人体制をとって、更なる実用化を図っていく。 ②③同じく教育相談コーディネーターが中心にはなるが、児童個々の学習障害や児童指導的な問題や行動に対するアセスメントは、学級並びに授業担当者が行う中で、児童または必要に応じて保護者への支援を外部機関とつなぎながら行っている。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める</p> <p>②学校だより・保健だより・給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</p> <p>③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果:</p> <p>①については、あいさつや話の聞き方では全職員の一致した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。</p> <p>②については、担当者が意識的に取り組みを進め保護者からの評判もよい。</p> <p>③については、小中連携が深まり、ねらいをもって取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。</p> <p>課題: 保護者との連携による学びの基礎力の向上や小中連携が子どもを育むキーポイントであることを確認してさらに取り組みを進める。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める</p> <p>②学校だより・保健だより・給食だより等を発行して積極的に啓発活動を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>各グループの担当が適切な話題を取り上げて進めることができ、保護者への啓発活動も保護者に理解されている。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導について、学校全体で計画的実践的に進める</p> <p>②学校だより・学年及び学級だより・保健だより・給食だより等を発行して、保護者への啓発運動を推進する(保護者と連携した児童の生活習慣の確立)</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年会→児童指導部において観察・話し合いを進めてきた結果を、職員会議の中で進めてきた。生活のきまりや基本的な生活習慣の確立を図ることをねらいとするために、「沼間小スタンダード」となるものを、次年度を通じて創っていく計画である。</p> <p>②各お便りが定期的に発行されていたことで、学校の情報や共通理解を依頼することについて、確かな発信を果たすことができた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となった挨拶運動を推進する</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果:</p> <p>①については、授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。</p> <p>②については、挨拶運動は人間形成として根づいたものになるよう取り組みを継続したい。</p> <p>③については、発達段階に応じた役割を設定し、異年齢交流を工夫し、成果を上げている。</p> <p>課題: 挨拶運動等日常的な取り組みを継続すること、また道徳の時間を生かしつつ全教育活動の中で道徳教育を進める。</p>	<p>①各教科、総合的な学習の時間、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳教育への関心も高いが、教職員全員が適切な指導を進めていくために研修を進め、共通理解を促したい。</p> <p>②あいさつ運動は校内での指導が反映されているが、定着するまでには至っていない。継続指導が望まれる。</p>	<p>①各教科、総合的な学習、外国語活動等と連携を図りながら、計画的に道徳教育を推進する</p> <p>②地域人材活用の授業実践(年間3回以上)</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して、異年齢交流を通じて思いやりの心を育む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各教科並びに特別活動等との兼ね合いを考慮しながら、道徳教育を精力的に推進してきた。</p> <p>②4・5・6年生で、教科または生活指導の一環として取り扱うことができた。</p> <p>③特別活動を中心にして、その他多くの場面を通じて、縦割り活動の推進を果たすことができた。内容の更なる充実という意味では、再考の余地があることを共通認識している。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大きさを学ぶ自然体験学習を進める</p> <p>②地域の行事を大切に、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果:</p> <p>①については、行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。</p> <p>②については、自然の大きさについては子どもたちの中に気持ちは育ってきている。</p> <p>③については、芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展示で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に使うことで豊かな体験活動が展開され、子どもたちの日常が充実してきた。</p> <p>課題: 豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直しながら、系統性ある取り組みを進めている。また、奉仕活動等は家庭の教育力が大きく影響することから、地域・家庭との連携をさらに深めていきたい。</p>	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大きさを学ぶ自然体験学習を進める</p> <p>②集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会とする</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>各学年とも意図的な取り組みを進め、豊かな体験活動が展開されている。</p>	<p>①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める(自然体験活動、林間学校、修学旅行)</p> <p>②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①意図的・計画的な取り組みの末に、各学年とも確かなねらいを果たすことができ、それを通常の学級運営に活かすことができた。</p> <p>②学年の発達段階に応じた芸術系並びに福祉系の団体を招聘し、実体験ができる企画・推進ができた。</p>
④ 食育と体づくり・健康教育の推進	<p>①健康教育を学校全体で推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果:</p> <p>①については、体育や休み時間等での外遊びで健康づくりが展開された。</p> <p>②については、全学年で食の指導計画が示され、発達段階に応じた学習が実施されている。</p> <p>③については、安全教育等も発達段階に応じた学習が実施されている。</p> <p>課題: 健康教育や食育を意識して取り組んでいるが、家庭と連携した取り組みをさらに進めていきたい。</p>	<p>①健康教育を学校全体で推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題:</p> <p>各学年とも意図的な取り組みを進めていることから、成果が感じられる。</p>	<p>①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTAと連携した食育指導の充実を実施する</p> <p>③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①養護教諭からの「保健だより」を通じての発信、並びに保健委員会の活動を通じて、計画的な取り組みを果たすことができた。</p> <p>②栄養士並びに担当教諭が中心となり、生活の中における食の大切さについて、各学年に応じた教材や課題を提示して取り組むことができた。PTAとは給食の試食会で子どもたちの配膳の様子を参観し、学校給食への興味と理解を深めることができた。</p> <p>③薬物乱用については学年の発達段階に応じて、特別活動の中で取扱い、意識を高めることができた。安全教室は、インターネット、携帯電話、不審者対策というねらいで、それぞれ実施することができた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①学校防災計画に基づいた安全体制の整備 ②教職員、保護者による通学路の点検 ③自分の命は自分で守ることができるように安全への啓発活動を実施	①沼間小学校防災計画に基づいた、安全体制確立のために、地域と連携した組織運営の整備を図る ②不審者対策、安全教育の実施、災害用伝言ダイヤル171の訓練等の充実 ③自分の命は自分で守ることができるように、各学年の発達段階に応じた安全への啓発を高めていくようにする
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		成果と課題 防災アドバイザーを活用して安全教育の評価を進め、より良い計画案ができています。	成果と課題 ①小学校区における避難所運営会議並びに年に一回の訓練について、地域と連携した取り組みを推進することができた。 ②不審者安全対策については、校内における実地訓練並びに体験型の安全教室(2・3年生を対象とした「スキップ」)を行った。防災ツールを増やすために、「災害用伝言ダイヤル171」に取り組んだ。次年度は3回の実施を計画している。 ③道徳・学級指導・特別活動等を通じ、命の大切さをもとにした自己防衛について意識を高めさせることができた。
② 問題行動等への対応の推進		①問題行動への組織的対応を図る ②定期的な実態把握に努めるとともに、早期発見・早期対応を進める ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を図る	①問題行動への組織的対応を図る(教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談体制の再検討) ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める(生活アンケートの工夫と充実した活用) ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る(他機関との連携の充実)
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		成果と課題 児童指導に関わる一次支援として、各学級とも学級を開き、スクールカウンセラーや、巡回指導員を積極的に受け入れて問題行動への対応を進めていることから、未然防止・早期対応が進められている。	成果と課題 ①校内における教育相談に関することとして、教育相談コーディネーターの位置づけと立ち回り、具体的な役割について、一年間を通して確立を図ることができた。次年度は二人体制を作ることにより、更なる効率と実績を高めていくようにする。 ②児童指導部の中で生活アンケートの内容見直しは勿論のこと、記名方式を試みて実態把握の充実にも努めた。 ③支援体制の確立は、校内外を含めた連携を積極的に執り行うことで、個に応じて総合的な見地に立った支援体制をとることができた。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進		①小・中連携については担当者が年間計画を立てて進める ②子どもの姿をもって語り合い、情報交流を進める ③幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する	①幼・小・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小・中9年間の学びの連続性に向けて、情報交流を進める ③幼・保との連携では、授業交流や行事における子ども同士の交流を推進することで、一連の流れのあるつながりを推進する
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		成果 ①については、県の学びづくりに取り組むことで中学校との連携事業が進み、児童生徒に対する理解が深まった。 ②と③については、幼、保、小の連携や小、中の連携を行い、子どもを中心においた情報の伝達が進んだ。 課題：小・中連携については9年間の育ちを見通して取り組む必要がある。今後も計画的に進めていきたい。	成果と課題 ①各機関との連携は、行事の参観及び追跡調査といった形で取り組んできた。 ②沼間中との連携で、義務教育「9か年の学び作り」という点で、一小一中を利点とする連続性のある学び方について、その取り組みが夏季合同研修会において始まったところである。 ③毎年、本校に入学予定の在所である幼稚園・保育園児を招き、1年生がゲームや合唱等を行い、歓迎の意を表わす会を催している。本校からは、該当の保育園・幼稚園を訪れ、保育参観や情報交換を行っている。
④ 国際教育の推進		①英語活動のカリキュラムの検討 ②英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施 ③国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を進める	①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る ②IEA(国際教育指導助手)の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進める
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		成果 ①については、指導要領・逗子市外国語活動ガイドラインに沿って授業づくりに取り組み、実践した。 ②と③については、コミュニケーションの素地を意識して、必然のある場面での英語を活用した授業づくりに取り組んだ。 課題：ねらいに沿った活動が実践されてきたが、今後も研究・研修を継続していく必要がある。	成果と課題 ①外国語活動の時間を通じて、毎時間において異文化理解を深める題材を扱い、コミュニケーション能力の必要性を大切にた取り組みを進めてきた。 ②③外国語活動の授業以外でも、全学年を通じて、IEA(国際教育指導助手)が授業並びに特別活動の時間に参画し、授業実践を進めることができた。 題材の共有化については、そのための手段・方法を考えていくことを課題として考えている。

【沼間小学校】

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③キャリア教育への保護者の理解を促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した</p> <p>成果: ①については、学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。</p> <p>②については、学校生活全般を意図的に活用している。</p> <p>③については、懇談会や学級通信等で学校生活の様子の一環として保護者に伝えている。</p> <p>課題: キャリア教育は生き方教育であることを理解し、提示していく必要がある。</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③キャリア教育への保護者の理解を促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 いろいろな教育活動場面を活用してキャリア教育が進められている。特にゲストティーチャーを招いた授業ではキャリア教育の幅が広がっている。</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③学校行事並びに児童会活動の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①各教科、特別活動並びに総合的な学習の中で、自己の将来について見つめ直したり、課題解決を目的とした取り組みをしたりすることができた。更なる具体的なキャリア教育として位置づけられるものを、模索しているところである。</p> <p>②各教科において、将来における職業観について見つめさせ、勤労観の大切さを学ばせてきた。体験学習については、一部の学年で実施することができた。</p> <p>③様々な学校行事を通じて、児童会組織を中心とした活動の推進を果たすことができた。</p>
⑥ 福祉教育の推進	<p>①日常的な人を思いやる教育から始める</p> <p>②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、教職員がゲストティーチャーと打合せを実施し、きめ細かな取り組みを進めることで成果が見える。</p> <p>課題: 総合的な時間や教科横断的な学習を組み立て、本校の福祉学習として教育課程ができつつある。共通理解を図っていきたい。</p>	<p>①日常的に人を思いやる教育から始める</p> <p>②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>③社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題 信頼に基づく指導を大切に取り組んでいることから、学級運営では人を思いやる教育が基本となっている。福祉学習における体験的な学習についても工夫して取り組んでいるが、学年によって今年度は、社会福祉協議会との連携事業を見送った学年もある。</p>	<p>①外部人材を活用して、各学年における年間計画の作成のもとで、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>②社会福祉協議会と連携し、地域と協働した児童の体験的な学習活動を推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①教科並びに特別活動を通じて、福祉に対する理解及び必要性について扱ってきている。指導方法の工夫・改善については、今後の課題としている。</p> <p>②社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生で行うことができた。</p>
⑦ 環境教育の推進	<p>①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める</p> <p>②発達段階に応じた実践を取り入れる</p> <p>③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、各学年の取り組みを引き継いでいる。</p> <p>課題: 児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広がってきたい。</p>	<p>①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を進める</p> <p>②子どもたちの実践活動を通して、家庭や地域での環境に関わる理解を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①家庭科や理科、総合的な学習で環境教育に取り組み、児童の意識改革が進んだ。</p> <p>②夏休みの課題として取りあげ、実践的な取組を進める等主体性も見られる。</p>	<p>①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する</p> <p>②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習を推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①特に、生活科、家庭科、理科、総合的な学習の時間等において、環境問題に対する興味・関心が高まった。</p> <p>②夏季休業期間中の課題として、各学年の発達段階に応じて、環境問題について考えさせ、自己の考えを持つように促した。地域との具体的な協働については、今後の課題として考えていく。</p>
⑧ 情報教育の推進	<p>①情報機器活用能力の育成に努める</p> <p>②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める</p> <p>③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、情報教育については各教科の学習と関連させて取り組むことができています。</p> <p>課題: 情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。</p>	<p>①情報機器活用能力の育成に努める</p> <p>②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める</p> <p>③情報機器を有効に活用し、授業効果を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・積極的に情報機器の活用は進められていることから、授業効果を高めることができています。</p> <p>・情報リテラシーや情報モラルについては基本的な指導は学校で行うが、家庭との連携を積極的に進めていきたい。</p>	<p>①ICT(情報通信技術)機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める</p> <p>②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①様々な授業において、ICT(情報通信技術)機器を活用した学習形態並びに児童の学習経過や結果を発表する場面として、機器の存在価値を果たす取り組みがなされていた。</p> <p>②特に情報モラルについては、各学年の中で適宜学習が進められている。外部講師を招いての情報教育は、今後は下の学年までを考えた計画が必要だと感じている。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①年間通した学校状況の適切な公開を進める ②学校情報のより有効な発信方法を工夫する ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、PTA総会前に時間をとって学校説明会を行う、学校だよりで情報提供する等学校状況の公開を進めている。 ②については、担当部署が定期的に取り組み、HPを月1回更新した。 ③については、PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会とのコミュニケーションが深まっている。</p> <p>課題:学校から地域に情報発信できるよう、PTA、地域支援本部、連合町内会組織等を活用していく。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①年間通した学校状況の適切な公開を進める ②ホームページの更新を月1回程度とする ③地域と学校の相互理解が進むよう、コミュニケーションの場を大切にす</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 学校だよりや学年だより等ではきめ細かな学校からの発信が進められたが、担当者が変わり月1回程度のホームページの更新は難しかった。今後は役割分担の引き継ぎを確認し、組織的な対応の継続を図る。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築(5回以上設定)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①顔の見える、開口を開いた学校をモットーにしていることから、本校における教育活動については諸機関を通じて、こまめに発信することができた。 ②今年度からの重点の一つとして取り組んできたが、少しずつ成果を上げることができている。保護者との人間関係の構築が、安定した学年・学級運営を推進していくこと並びに信頼関係の構築につながる根源であることを、共通認識することができた年であった。</p>
② 地域教育力の活用	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①地域支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする</p> <p>(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した</p> <p>成果: ①については、地域コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。 ②については、学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。 ③については、地域コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。</p> <p>課題:地域コーディネーターを支える人的資源の育成に取り組んでいきたい。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域コーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する ②学校支援ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする</p> <p>(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した</p> <p>成果と課題 学校支援ボランティアと適切なコミュニケーションができ、円滑な運用が進められている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ②地域コーディネーターを活用した新たな人材発掘を進め、開かれた学校支援地域本部事業を展開する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①多くの見守りの手を感じる、本校の学校運営状況であり、諸機関の連携は密接に機能していた。 ②新たな人材発掘については、人員の増員ということで各機関の強化を果たすことができた。学校支援地域本部の取り組みについては、子どもたちの生活環境整備並びに学習効果の効率を上げるために、広範囲における活動の足跡を残すことができた。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①重点を絞った目標設定をして取り組む ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める ③学校評議員、関係者評価員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、職員の意識変容が進み、学校評価の理解が深まってきた。</p> <p>課題:学校評議員、関係者評価委員にも学校の現状をよく理解していただき、学校改善への力となっている。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①重点を絞った目標設定をして取り組む ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める ③学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ① 学校評価について職員の理解が進みつつあり、保護者や児童アンケートの結果を分析的に見て活用しようとしてきた。 ② 学校評議員や学校関係者評価委員の学校理解が進み、現状把握と学校改善への提言が活用されるものとなっている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①保護者との人間関係の構築のために、懇談機会を増やすことをはじめとして、年度当初に重点行動目標としたことについて、意識的に結果を残せるよう取り組めた。 ②学識経験者からは授業アドバイス、学校評議員及び地域教育協議会の方からは、読み聞かせをはじめとする様々なボランティアという形で、学校運営の改善に対して積極的な参加を果たしてもらった。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①授業研究の日常化を目指す ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、校内研究については全職員で取り組み、充実した。 ②については、算数・国語・児童理解では専門の外部講師を招聘した。 ③については、校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。</p> <p>課題: 次年度はかながわ学びづくり研究推進校で得た成果を生かしてさらに授業研究を深めていく。</p>	<p>①授業研究の日常化をめざす ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘し進めていて、参加職員の満足度も高い。</p>	<p>①授業研究の日常化(毎日が参観日)を目指す ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める ③授業研究を公開(年間二回以上)し、学校内における実践交流を進める ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①校長及び教頭はもちろんのこと、教育相談コーディネーター、うるおいフレンド、そして授業準備時間等を利用して、お互いの授業公開に努めていた。保護者に対しては、必要に応じて積極的な公開を行っていたが、どの学年でいつでもという体制を作るには、様々な条件整備が必要である。 ②逗子市委託研究Ⅰに取り組むことで、スーパーバイザーを指導・助言の柱にして、充実した授業実践を果たすことができた。 ③指導案を添えて前後期を通じて一回ずつ以上、全体に呼びかけた授業公開を行うことができた。 ④校内研究を推進していくための基盤として、三つの学年ブロックを中心とした取り組みを進めてきた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言の活用を進める ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果: ①については、基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いだ。 ②については、授業研究会を活用した教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革を促した。 ③については、子どもによる振り返りを授業評価として活用することに取り組みたい。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 授業評価の活用については児童の特性を生かし、視点を与えた感想記入等でも授業評価として活用している。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②保護者及び関係諸氏の評価を受けることで、授業実践の見直しを図る ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにもなう授業改善</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学状の結果が出た後に、早い段階で全体及び児童個々についての分析を済ませて、事後の指導に活かすことができた。 ②スーパーバイザーからの指導・助言を得て、その結果を授業改善に活かすことができた。保護者からの意見や感想を拾い上げるために、感想用紙を用意して記入を求めて振り返りをすることができた。 ③校内研究及び児童からは視点を絞った質問項目に対して記入方式で授業評価を得て、授業改善へとつなげていくことができた。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①OJTを主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。</p> <p>課題: 研究会・研修会を大事にして、学ぶ意欲と姿勢をもって進めていきたい。</p>	<p>①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく ③公開授業研究会等の研修の機会を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘して進めている。</p>	<p>①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成 ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく ③校内人財育成の強化(メンター・メンティー、B・Sの関係性を位置づける)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学習研究部、低・中・高学年ブロックを中心として、スーパーバイザーを交えた校内研究会を通じた組織運営の基盤を確立することができた。研究授業者は勿論だが、研究会の司会や発表を通じて、幅広い年齢層に渡って組織内で人財育成を果たすことができた。 ②本校における仕事の基本スタイルとして、日々のライフワークとして定着している。 ③自己観察書の面接の折に、キャリアプランを含めてメンタリングやB・S(プラザー & シスター)関係のことを話題提示し、人財育成の効率化を図ることができた。</p>

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(久木小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実	
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る ②少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る	①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る ②少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①継続的な課題であり、取り組みを続けたい。 ②児童の学力向上に取り組むべく、学習形態の工夫、スクールライフサポーターなどを活用し基礎学力の定着を図った。人的環境の充実を望む。	成果と課題 ①継続的な課題であり、引き続き取り組みを続けたい。 ②児童の学力向上に取り組むべく、単元の中においても学習集団の実態に合わせ、チームティーチングや少人数指導などを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指した。本校児童の学習の定着状況を確認し、課題がどの学年の何に起因しているかを全職員で調査研究した(算数)。これは、本校の教育課程を編成する上においても、また、校内研究(算数)を推進する上においても非常に重要な資料となっている。	
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①国語科・各教科・道徳・総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。	①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る	①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。特に校内研究において算数科に取り組み、授業実践を通し研究を続けた。次年度も継続予定である。	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。特に、校内研究において算数科に取り組み、授業実践を通し研究を深めた。次年度も継続する。	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。校内研究においては、昨年度に引き続き、授業実践を通して研究を進めてきた。上記「①成果と課題」の調査結果(算数)からは、低学年の語彙力や理解力、文章理解力、経験域の狭さなども課題として挙がってきている。言語活動の充実を図るためにも、低学年指導の在り方についても考えていきたい。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①司書教諭・学校図書館指導員・学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する。 ②お話会による読み聞かせ等の活動を行う。	①読書活動推進全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う	①読書推進活動全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①継続して取り組んだ。児童の間に読書活動が定着している。ボランティアは学校支援地域本部に位置づけられている。 ②お話会の内容を検討し、児童のニーズに合わせた内容とすることができた。お話会ボランティアとの定期的な打ち合わせが重要となる。	成果と課題 ①計画通り実施できた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指していきたい。 ②児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動も自主性を増している。 ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。	成果と課題 ①計画通り実施することができた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指したい。 ②期読書の割合も増え、児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動がより主体的になってきている。 ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちのニーズに応じた具体的な支援を行う。 ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課等の外部機関と連携を深める。 ③幼保小中連携を深め、情報交換を密にする。	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じた、具体的な支援を行う。 ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める。 ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じた、具体的な支援を行う。 ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める。 ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①ケース会議等が充実し、児童への支援を一層進めることができた。人材と時間の確保は継続課題である。また、新たな教育相談コーディネーター育成が課題である。 ②スクールカウンセラー・巡回相談員と連携し、支援に役立てることができた。今後も積極的活用を進めたい。 ③情報交換の場の設定は今後も継続していきたい。	成果と課題 ①定期的に児童を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定することができた。引き続き、児童・保護者への支援や対応の充実を図りたい。 ②支援教育推進巡回指導員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることができた。 ③特に、幼稚園・保育園、療育相談との連携を深めることができた。今後も継続していきたい。	成果と課題 ①定期的に児童や学習集団を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定し、具体的な対応について検討することができた。ケース会議を定期的実施することで、児童の姿や課題などを確認し、保護者の理解を得ることにつながる事案もあった。 ②巡回相談員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることが出来た。 ③幼稚園、保育園、療育相談との連携を深めることが出来た。中学進学に向け、中学校と定期的に連携を図ることが出来た。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行う。 ②学校・保健だより等を通して情報を発信する。 ③学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②及び③について、日常的な取り組みの継続が課題である。</p>	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う。 ②学校・保健だより等を通して情報を発信する。 ③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①全職員の一致した取り組みが重要である。特に、全校集会での話の聞き方の向上が見られた。日常的な指導の継続の必要を感じる。 ②学校だより、保健だよりなどの通信は、実態に応じた計画的・意図的に発行することができた。 ③各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があり、一層の努力を必要とする。</p>	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う。 ②学校・保健だより等を通して情報を発信する。 ③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①全職員の一致した取り組みが重要である。全校集会での話の聞き方に児童の成長がみられる。各学級においては、担任が必要に応じ、現状に合った指導を丁寧に繰り返してきたことの成果が出てきたと感じる。 ②学校だより、保健だより、学校ホームページなどの情報発信は、意図的効果的に行うことが出来た。 ③各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があるので、引き続き、担任の思いが伝わる、保護者の思いを受け止める、丁寧な連携を意識していきたい。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う。 ②あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳と他教科や行事等の学習活動と関連させた指導に取り組んだ。 ②地域・保護者の協力を得ながら継続的に取り組んでいる。</p>	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う ②日常のあいさつを心掛けたリ、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みが進んだ。 ②朝会、学級指導等を通して取り組んだ。日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続していきたい。</p>	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う ②日常のあいさつを心掛けたリ、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みを進めることが出来た。 ②朝会、学級指導等を通して取り組んだ。以前よりあいさつの声が聞こえるようになってはきた。更なる日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続した取り組みをしていきたい。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①稲づくり・大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う。 ②キャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①昨年よりの継続で、作った味噌を使った調理まで学年を越えて学習を連続させることができた。また、大豆を中心素材に他教科と関連させて学習を進めることができた。継続的な取り組みが課題である。 ②計画通り実施した。</p>	<p>①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う ②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づけている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。 ②計画通り実施することができた。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。</p>	<p>①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う ②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づけている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。 ②計画通り実施することが出来た。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①保健安全年間計画・給食指導年間計画等に基づいた指導を進める。 ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①稲作り・大豆作りを食育への取り組みに位置づけることができた。 ②昨年度の成果に準ずる。芝生化の取り組みはこの3年間で定着してきている。芝生維持管理の負担軽減を図ることが課題となる。</p>	<p>①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画通りに実施することができた。 ②芝を植えることで土壌の改良が進み、水はけが良くなっている。芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることができた。年間を通した芝の定着を目標とした。</p>	<p>①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画通りに実施することが出来た。 ②芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることが出来た。校庭のどの場所が芝の定着率が高いかなどの研究を重ねた。結果、校舎に沿ったところをグリーンベルトにすることが効果的であること、3月下旬に植えた芝が定着すれば、約半年緑の芝の中で教育活動を行えることなどの予測を持つことが出来た。次年度は、検証し方向性をまとめていきたい。</p>

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める ②PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む ③防災アドバイザーによる地域の状況確認と防災・減災の在り方について検討を進める	①防災教育年間計画の作成に取り組む ②防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める ③PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①年間計画通り訓練等を実施した。継続的指導により防犯意識を高めた。 ②地域と連携した取り組みは継続している。PTA予算から学校用備蓄品(水、ビスケットなど)を購入し、教室棟屋上入口に保管することができた。 ③防災アドバイザーを活用し、防災体制の見直しを図った。それにより、震度5弱以上(津波警報)の際の避難について確認することができた。引き続き、防災体制について研究・検討及び整備を図っていきたい。	成果と課題 ①これまで行ってきた避難訓練や引取り訓練などを見直し、年間を見通した「防災教育年間計画」としてまとめた。この中には、授業との関連や防災意識を育てるためのオリエンテーションなども組み入れた。次年度、実施しながら検証・研究を進めたい。 ②年間計画通りに訓練等を実施した。継続的指導により、児童の防犯意識を育てた。 ③地域と連携した取り組みは継続している。特に、見守り隊の地道な活動により地域の防犯意識が高まっていると感じる。児童には「自分の命は自分で守る」意識を育てるべく、PTA・地域との連携をさらに進めていきたい。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進		①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る ②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく ③外部機関やスクールカウンセラー、巡回指導員等との連携を深める	①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る ②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく ③外部機関やスクールカウンセラー、巡回相談員等との連携を深める
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①基本方針に基づいた指導を実践した。 ②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童(保護者)への対応を進めることができた。校内での共通理解も進んだ。 ③巡回相談員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることができた。今後も一層の連携を図りたい。	成果と課題 ①基本方針に基づいた指導を実践した。 ②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童(保護者)への対応を進めることが出来た。校内での共通理解も進んだ。 ③支援教育推進巡回指導員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることが出来た。必要な時にケース会議を持つことや、定期的に振り返りを行い、短期・中期目標を確認することなどが定着してきたと感じる。今後も一層の連携を図りたい。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①小中の連携について、できる内容から取り組みを始める。 ②幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む。	①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める ②幼稚園・保育園と連携した、支援教育に取り組む	①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める ②幼稚園・保育園と連携した、支援教育に取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①支援教育担当者同士の情報交換等を含め、連携を進めた。 ②昨年度に引き続き、幼稚園・保育園との交流・情報交換を行い、連携を進めることができた。	成果と課題 ①中学校教諭による6年各クラスでの授業(算数・外国語・体育)を2月ごろに行ったり、夏休みにバレーボールとバドミントンの部活体験を実施したりした。また、中学校教諭の学校参観による児童理解なども実施することができた。 ②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園への参観など、職員交流の手立ての充実を図った。	成果と課題 ①複数回にわたる小学校の授業見学、小学校の朝会で生徒が合唱発表、中学校教諭の6年生出前授業、夏休み中の部活体験など、年間を通して連携を深めることが出来た。 ②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園へ参観したりするなど、職員交流の手立ての充実を図った。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①新学習指導要領完全実施にあたり、小学校外国語活動の充実を図る。 ②国際教育指導助手の効果的な活用を図る。	①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る ②IEA(国際教育指導助手)の効果的活用を図る	①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る ②IEA(国際教育指導助手)の効果的活用を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	成果と課題 ①昨年度までの成果を踏まえ、外国語活動の実践に取り組んだ。 ②国際教育指導助手とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、国際教育助手が毎年替わってしまうことである。	成果と課題 ①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。 ②IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、IEA(国際教育指導助手)が毎年替わってしまうことである。	成果と課題 ①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。 ②昨年度とは違う形でIEA(国際教育指導助手)が配置されたこともあり、これまで以上に、IEA(国際教育指導助手)とコミュニケーションを取りながら外国語活動を進めていくことに困難があった。次年度は、今年度の課題を踏まえてより良い連携を図ることが出来るよう努めたい。

【久木小学校】

	行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑤	キャリア教育の推進	<p>①キャリア教育の視点を教科・総合的な学習の時間の内容に入れながら実践を進める。</p> <p>②キャリア教育に関わる研修等に参加し、教職員の理解を高める。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域の方々やお店の協力を得て、生活科・社会科・総合的な学習の時間等で実践を進めることができた。</p> <p>②一部教員が研修等に参加し理解を深めたが、学校全体として共有するには至っていない。継続的な取り組みが課題である。</p>	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る</p> <p>②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することができた。</p> <p>②教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることができた。日常的な取り組みの継続が必要と感じている。</p>	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る</p> <p>②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することが出来た。</p> <p>②教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることが出来た。今後も、日常的な取り組みの継続が必要と感じている。</p>
⑥	福祉教育の推進	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間等を通して福祉学習に取り組む。</p> <p>②福祉部・社会福祉協議会との連携を取り、福祉教育の推進を図る。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度以降、福祉教育全体計画を見直し、内容の充実を進めることが課題である。</p> <p>②各機関との連携を取り、実施した。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む</p> <p>②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。</p> <p>②福祉学習(車いす介助体験学習など)の計画・実施に関わって連携を図ることができた。今後も連携を続けたい。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む</p> <p>②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。</p> <p>②福祉教育の計画・実施に関わって連携を図ることが出来た。</p>
⑦	環境教育の推進	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①地域連携の視点を持って環境教育の内容を発展させる</p> <p>②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に活かす</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①総合的な学習の時間の全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。</p> <p>②地域の方々や連携し「いのちの森事業」に取り組んだ。次年度も継続予定である。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①教科・総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む</p> <p>②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に生かす</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。</p> <p>②地域の方々や連携し「いのちの森事業」に取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①教科、総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む</p> <p>②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に生かす</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことが出来た。</p> <p>②今年度もグリーンカーテンを育てることで、環境教育の一助と成すことが出来た。</p>
⑧	情報教育の推進	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る。</p> <p>②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに情報モラルの育成も図る。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①プロジェクター・書画カメラ等を活用し、日常の授業等に役立てることができた。使用頻度も高く、利用しやすい環境設定もできている。</p> <p>②情報教育担当を中心に取り組んでいる。職員全体で共通理解することが今後の課題である。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る</p> <p>②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①情報教育指導計画(全体計画)に基づいた指導を継続することで、全校の児童への指導の確実な定着をめざしたい。</p> <p>②情報教育担当者を中心に、総合的な学習の時間を通して取り組んでいる。次年度への継続課題とした。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①情報教育指導計画をもとに情報教育に取り組む</p> <p>②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①情報教育指導計画に基づいた指導を実践した。</p> <p>②「携帯やスマートフォンに係る光と影」など、今日的課題について校内で十分課題共有し、指導に当たることが必要と感じている。次年度への継続課題とした。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<p>①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める</p> <p>②学校だよりやホームページ等で学校の情報を広く伝える</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①3年目の取り組みとなる地域教育協議会の運営が円滑になった。学校への理解・協力も進んでいる。</p> <p>②継続して情報発信に取り組んでいる。学校だよりも充実してきている。</p>	<p>①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める</p> <p>②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。</p> <p>②学校だよりを地域に回覧することにより、本校の教育活動等の理解が地域にも広がってきたと感じる。ホームページの更新を定期的に行うことができなかったため、次年度に向けて改善を図りたい。</p>	<p>①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める</p> <p>②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。</p> <p>②学校だよりを地域に回覧し始めて1年半が経つ。以前に比べ、本校の教育活動等への理解が地域にも広がってきたと感じる。更に、今年度に入りホームページの更新を週に数回行ってきた。本校の教育活動を認める保護者も増えてきていると感じる。また、災害時には、ホームページからそれに関わる情報を取ることが出来るようにトップページに工夫を施した。今後も、更なる改善を図り、適切な情報公開を目指したい。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める。</p> <p>②芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①大豆作り・稲作りは継続して取り組み、発展的な活動も生まれている。昨年度できなかった「わくわくフェスティバル」も開催でき、地域・保護者との連携が深まった。</p> <p>②芝生化への取り組みが無理なくできるようになった。課題は昨年同様、冬から春にかけての維持管理である。市としてのバックアップ体制を望みたい。</p>	<p>①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める</p> <p>②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、大盛況で目的を十分果たすことができたと感じる。次年度も実施したい。</p> <p>②課題は多いが、地域との協力・連携は十分に取れるようになっている。維持管理に関わって、より良い方法の研究・試行を進めたい。</p>	<p>①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める</p> <p>②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、毎年参加者も多く、目的を十分に果していると感じる。</p> <p>②課題は多いが、地域の協力・連携は十分である。維持管理等々に関わって、より良い手立ての研究・試行を進めたい。</p>
③ 学校評価を生かした学校の改善	<p>①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。</p> <p>児童の学習・生活の様子が分かるように開催時間を工夫したため、具体的な助言を受けることができた。</p>	<p>①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす</p> <p>②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子が分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることができた。</p> <p>②学校づくりアンケートを11月に実施し、次年度への課題を整理することができた。</p> <p>また、教育活動で大切にすること、連携を図ることなどについて、学校・保護者・地域で確認を図ることができた。</p>	<p>①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす</p> <p>②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子が分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることが出来た。その助言を参考に、学校経営方針の振り返りと次年度に向けた確認を行っている。</p> <p>②昨年から様式を変更した学校づくりアンケートを今年度も実施した。アンケートを集約することで、本校の課題を整理し、次年度の方向性を学校・保護者・地域で共有することが出来た。今年度は、児童へのアンケートも実施した。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①前年度までの研究成果と課題を踏まえ、研究を発展させる</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①これまでの研究成果を踏まえ、研究を継続した。今年度より算数科に取り組み、授業研究を行った。全担任が公開授業を実施した。研究を進めるに当たり、次年度は外部講師を招きたい。</p>	<p>①委託研究推進校として、取り組んだ成果を研究発表会において発表する ②外部講師の活用を積極的に行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることができた。 ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことができた。</p>	<p>①本校の研究テーマを踏まえて授業研究に取り組み、授業力の向上をめざす ②外部講師の活用を積極的に行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることが出来た。 ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことが出来た。次年度は、年3回の研修を予定している。(講師：横浜国立大学 池田敏和教授)</p>
② 授業評価の活用	<p>①評価規程を活かした授業実践に取り組み、評価規程の見直し、検討を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①観点別評価項目による「あゆみ」を作成することができた。次年度は実践を通して評価規程の検証を行うことが課題である。</p>	<p>①評価規程を活かした授業実践に取り組み、評価規程の見直し、検討を行う ②外部講師による授業評価の生かした授業づくりを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①指導と評価の一体化を踏まえ、評価規程を意識した授業づくりを進めることができた。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすように取り組んだ。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②外部講師による授業評価を生かした授業づくりを行う ③評価規程を生かした授業実践に取り組み、評価規程の見直し、検討を行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①返子市の分析、学校独自の分析を踏まえ、当該学年の児童の良さを伸ばし、課題については共有するように努めた。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう、ブロック研究を主に取り組んだ。 ③指導と評価の一体化を踏まえ、評価規程を意識した授業づくりを進めることが出来た。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①初任研、年次経験者研修において校内協力体制を作り、研修指導にあたる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③返子市教育指導員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②教育研究所の各種研修会に積極的に参加した職員が増加した。特に支援教育関係の研修が充実していた。次年度の研修計画も期待したい。 ③臨任・非常勤だけでなく経験の少ない教員への指導にも活用の範囲を広げたい。</p>	<p>①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③返子市教育指導員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②校内研究において全担任が算数科を中心に研究授業を行った。教育研究所の各種研修会に積極的に参加した職員が増加した。しかしながら、校内における還流が課題である。 ③臨任・非常勤だけでなく経験の浅い教員への指導にも活用することができた。</p>	<p>①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③返子市教育指導員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修を実践し、まとめることが出来た。 ②校内研究において全担任が算数科を中心に授業実践をすすめている。しかし、研修会及び教育研究所主催各種研修会への参加は、多くの職員が参加しているとは言いきれない状況にある。参加率が以前より増えてきているとはいえ、継続課題としたい。 ③臨任・非常勤、経験の浅い教員への指導に十分活用することが出来た。</p>

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(小坪小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①校内研究で得られた成果を具体的な授業の中で活かす実践を積み上げる ②基礎・基本の習得のための指導の工夫に取り組む	①研究の成果を踏まえた教育課程の見直しに着手する ②基礎的・基本的な知識・技能の習得のための指導の工夫をさらにすすめ、定着度について検証する
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
		成果と課題 ①「コミュニケーション力の育成」を目指した研究の成果を授業実践に活かすことができた。 ②基礎・基本の習得に向け、児童の実態把握から、指導法の工夫・改善に努めた。	成果と課題 ①研究の成果を踏まえ新たな課題として「既習事項を活かす」ことにより、より「確かな学力」を育むことにつながった。 ②基礎・基本の習得に向け、児童の実態を把握し、習熟度別の指導体制を取り入れるようになった。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①「PISA型読解力」の育成を図る授業に取り組む	①各教科等における「言語活動の充実」のあり方について再確認する ②コミュニケーション能力の育成に取り組んできた成果を授業を通して検証する	①「逗子市読解力向上プラン」を通じて言語活動のさらなる充実を図る ②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「さらに育てたい力」を明確にする
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 ①今年度は、職員全体でPISA型読解力についての授業実践を行い、内容の充実を図ることができた。新しい学力観に基づき、多くの研究実践校を視察し、講師を招き評価の在り方について追求した。	成果と課題 ①研究のまとめとして成果と課題を共有するため、提案授業の教科を絞ったため、各教科における「言語活動の充実」については全体で確認することができなかった。 ②2年間の研究のまとめとして成果を授業を通して検証することができた。	成果と課題 ①読解力の充実に関しては各教科の学習において意図的に取り組んだが、「読解力向上プラン」の活用には至らなかった。 ②各教科で「育てたい力」を意識することにより、言語活動の充実についても取り組むことが出来た。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①読書が日常の習慣として身につくように、学年間での交流に取り組む ②蔵書数を増やし、身の回りに本がある環境から自分なりの読書習慣を見つけさせる ③家族で読書する取り組みを行う	①読書活動につながる教育内容・指導方法を工夫し実践する ②家庭との連携を図り、読書の習慣づけを図る	①各学年、各教科で、図書室を利用した学習を推進する ②継続して、読書の習慣化をめざし、取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組み、読書活動が定着している。 ②市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書室を活用したりできるよう夏期休業期間や読みやすい場や時間を提示することができた。 ③図書室より図書だけを出し、家庭へ情報提供をしたり、学級担任による読書の取り組みを進めたりすることにより、本を読む機会が増えてきているので継続していきたい。	成果と課題 ①朝の一斉読書等、読書活動の充実については計画的に取り組んだ。 ②読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。	成果と課題 ①各教科の学習において、問題解決的な授業計画が充実し、図書室を利用する機会が増えた。 ②引き続き、読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①校内組織各部連携による校内支援体制の充実 ②他機関、他校種との情報の共有化、活用をめざす ③校内支援シートの見直し	①支援教室立ち上げ、教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高める ②スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンドの活用をすすめ、保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る	①支援教室の活用方法について検証し、支援の充実を図る ②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした小坪小学校の支援体制が確立でき、機能してきた。 ②教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、児童への支援を積極的に進めることができた。 ③校内支援体制が定着し、担任や保護者との連携も密になり、個々の児童の持つ課題について共有できるようになった。支援シートが完成し、支援シートの具体的な活用を行っている。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした支援教育の組織的な取り組みの充実を図ることができた。 ②支援教育推進巡回指導員による各教室の見取りを充実させ、必要に応じて支援会議を行い、組織的な支援の充実を図った。	成果と課題 ①支援教室の運用が具体化し、個別支援が組織的に行われるようになった。 ②校内支援体制の取り組みについて、保護者、地域に情報発信し、理解を得ることができた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	①行動目標達成をめざし、地域と共に取り組む ②児童自ら生活習慣を振り返ることができる取り組みを行う ③地域と一体となった生活習慣作りに取り組む (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①学校目標やめざす子ども像などを学校便りや懇談会等で積極的に伝えてきた。 その成果について、保護者に周知されている事が学校評価アンケート結果から読み取れた。 ②保護者・地域に向けて学校便りやホームページ、掲示板等で積極的に情報発信を進めることができた。 ③今年度の目指す子ども像について各家庭に学校便り、学年便り等で伝えてきた。 講演会では、発達段階に応じた家庭での育て方について話し、情報交換を得る機会を持つことができた。	①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上をめざす ②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立をめざす (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①あいさつの重要性を折りに触れて指導し、行動目標としてあいさつの定着に取り組んだ。 ②給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。	①学校・家庭・地域の情報や行動の情報交換を密にして連携を深める ②保護者・地域の方々を対象とした講演会や研修会を行い、それぞれが担うべき役割を再確認する (評価) ①達成した ②達成した 成果と課題 ①行動目標を「あいさつ」として設定していることが地域、保護者に理解され、その視点からの学校理解が深まった。 ②引き続き、給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①全体計画の改善を図りながら取り組む ②実施計画の中に目標として位置づける (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①道徳教育の日常化を目指し、学年ごとに計画的に取り組むを進めることができた。 ②縦割り行事の年間計画を立て、学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫してきた成果もあり、たいふ活動が定着してきた。	①道徳の時間を要して様々な学習活動の中で、発達段階に応じた人権意識の育成に取り組む ②異年齢集団の活動を通して、規範意識の向上を図り互いに思いやる心情や、奉仕的な心情を養う (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①道徳の時間を要として人権に関わる指導を意図的に進めてきたが、教育活動全体に関わる必要があるため、今後さらなる充実を目指していく。 ②全校で「たてわり班」を構成し年間をとおして「たてわり活動」に取り組む、成果を上げた。	①さらに道徳の授業の充実を図り、人権意識の涵養、命について考える機会とする ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する (評価) ①達成した ②達成できなかった 成果と課題 ①道徳の時間だけでなく、学校生活全般を通して、命について考える機会を設定した。 ②地域の教育力の活用は様々な場面で意図的に活用したが、道徳の授業実践に結び付けることは難しかった。
③ 豊かな体験活動の推進	①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の広がりをめざし、いっそうの充実を図る ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①行事や体験学習等を活用してふれあい活動が計画的に展開できた。 ②計画通りの体験活動を実施した。全学年の年間計画に位置づけ、活動の定着を図っている。	①たてわり集団を組織し、学校行事の中で活用していく ②学校行事・児童会行事を通して育てたい力を明確にし、内容の充実を図る (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①たてわり班を活用し、運動会、遠足等の学校行事を企画することができ、リーダーシップとフォロワーシップの育成に取り組んだ。 ②学校評価の充実を目指す中で、学校行事での「つきたい力」を学校全体で共通理解するように努めた。	①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組む ②学校行事・児童会行事を通して問題解決的な学習を進める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①たてわり班の活用が学校行事の中心として位置づいてきた。 ②学校行事での「つきたい力」を学校全体で共通理解するように努め、指導と評価の一体化が定着しつつある。
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①教科や総合的学習との関連を図る ②家庭との連携を視野に食育、性教育の取り組みを進める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①全学年で食の年間指導計画を作成し、各学年とも計画に即した取り組みができてきた。 ②全学年で性教育の年間指導計画を作成し、各学年とも計画通りに取り組みを進めることができた。	①食に対する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身に付けるための食育指導に計画的に取り組む ②発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進し、家庭へも情報発信する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①各教科の指導内容から食育に関するものを洗い出し、意図的に取り組むことはできたが、学年ごとの段階等まだ、今後さらなる充実が必要である。 ②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進することができた。	①各学年の食育に関するこれまでの取り組みを体系化していく ②健康教育を推進する中で、健康の意義について保護者の理解を深める (評価) ①達成できなかった ②達成した 成果と課題 ①栄養教諭による食育指導が充実してきたが各学年の体系化までには至っていない。 ②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進するとともに、保健だより等で保護者に意図を周知していくことができた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①児童自らが体験を通して危険予測・危険回避の能力を培うため、安全教育を計画的に実施する ②児童の安全な学校生活の確保と緊急避難所としての機能向上のため、環境整備に努める	①各教科の中で思考力・判断力の育成を充実させることにより、児童の危機管理能力を向上させるような実地訓練を計画・実施することを含む、防災教育の充実を図る ②様々な、災害を想定し、安全確保のための環境整備をさらにすすめる
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
		成果と課題 ①訓練だけに終わらない防災教育のあり方を意識し日々の教育活動の中に位置づけてきた。 ②PTAと連携し、避難路の整備、非常食の備蓄に取り組んだ。	成果と課題①資料を活用しながら、各学年の発達段階に即した防災教育を道徳の授業等教育課程上に位置づけた。 ②大規模災害の想定を拡大し、避難の仕方を検討、実践するなど環境整備を推進した。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進		①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立するとともに、様々な場面をとらえ、児童の規範意識や温かい人間関係作りを推進する ②児童理解を深めるための研修を実施し、問題行動への対応について、教職員の共通理解を図る	①校内相談体制の向上を目指し、外部機関との連携をさらに推進する ②児童理解に対する校内研修を充実させ、問題行動の予防的指導に取り組み
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
		成果と課題 ①朝会や学級指導を通して、ルールの大切さを指導し、規範意識の醸成に努めた。 ②児童指導に関する研修を年間を通して実施し、児童の様々なニーズへの対応力の向上に努めた。	成果と課題①スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員のアドバイスのもと、支援教室の運用を具体化することができた。 ②児童指導に関する研修が定着しつつあり、日々の実践の中で活用することが出来ている。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①教科、総合的な学習の時間を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有化に取り組む	①個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る ②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消をめざす	①入学時に幼・保だけではなく、教育研究所や療育関係機関とも連携し、児童に対する職員間の共通理解、情報の共有も図る ②小・中連携では行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①ようこそ小坪小集会に幼稚園、保育園児を招待し様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。 ②幼稚園、保育園児による授業参観、行事への参加、中学校の先生との日常的な情報の共有により、入学前の交流の充実が図ることができた。	成果と課題 ①学習面からの幼保との連携を深めると同時に、新入学児童に対しては実際に見学する等して実態把握に努め、いわゆる小1プロブレムの回避に努めた。 ②卒業にあたっては着実な引継ぎに努める等したが、日常的な教科での連携は難しかった。	成果と課題 ①入学児の幼・保参観をきめ細かく行うと同時に療育の観点からの聞き取りも行い指導体制の構築に努めた。 ②卒業にあたっては中学校への着実な引継ぎに努め、担任だけではなく、教育相談コーディネーター同士の情報共有も行ったが行事や授業での接続は難しかった。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①年間指導計画に基づく外国語活動の授業実践の充実を図る ②「IEA」と連携し、異文化に対する理解を深めコミュニケーション能力の向上を図る	①多様な文化を理解するための学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然等に関心を深めるような取り組みをする	①外国語活動の中でのコミュニケーション力の育成や国際教育における、異文化理解を通して、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる ②各学年の教育課程上に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	成果と課題 ①年間計画を作成し外国語活動の授業実践を計画的に進めることができた。 ②国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を積極的に進めることができた。	成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、各学年の発達段階に応じた国際教育の推進に努めた。 ②海外の行事について学習の中に取り入れ、楽しみながら諸外国の文化への理解を深めた。	成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、各学年で、国際理解のための授業を設定することができた。 ②IEA(国際教育指導助手)の勤務時間等が減り、各学年の授業がイベント的な扱いにならざるを得なかった。

【小坪小学校】

	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
行動プラン			
⑤ キャリア教育の推進	<p>①授業実践を通して、キャリア教育のカリキュラムを改善する</p> <p>(評価) ① 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①小学校におけるキャリア教育の視点を確認し、授業実践を行う事ができたが、全体の年間計画作成には至らなかった。</p>	<p>①キャリア教育について、研修を実施し、子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験的に取り入れる ②総合的な学習の時間の全体計画を見直す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の時間等で自己の生き方について考える取り組みはなされてきたが学校全体での共通理解を図るための研修の設定は今後の課題である。 ②3～6年の取り組みは全体計画に沿って実践されたが、小規模校の中で、組織的な見直しを図ることは難しかった。</p>	<p>①キャリア教育に対する、教職員の共通理解を図り、取り組みについて検討する ②総合的な学習の時間の探究活動をキャリア発達に即して見直す</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画を見直す中で、キャリア教育の視点を組み込むことの必要性は共通理解してきた。 ②3～6年の取り組みを全体計画に沿って実施するように働きかけたが、キャリア発達に即して活動を設定するまでには至らなかった。</p>
行動プラン			
⑥ 福祉教育の推進	<p>①小坪の自然・社会・人的環境を生かして、年間計画のいっそうの充実を図る ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①小坪の自然・社会・人的環境を生かした、単元開発を行った。 ②福祉学習の計画・実施に関わって連携して進めることができた。</p>	<p>①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②学校生活のあらゆる場面で、発達段階に配慮した人権教育を実施し、人権感覚の醸成を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年の発達段階に即した福祉学習の取り組みが推進され地域、外部団体との連携が深まった。 ②日頃から教職員の人権意識の向上に努め、教育活動全体の中で人権教育がなされるよう努めた。</p>	<p>①各学年の福祉体験活動を整理し、小坪の特色を活かした福祉教育の推進を図る ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意識的に取り組む</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年とも福祉学習に取り組んだが地域の特色を生かすまでには至らなかった。 ②日常の教育活動における教職員の人権感覚をさらに向上させるための研修を実施した。</p>
行動プラン			
⑦ 環境教育の推進	<p>①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる ②多様な環境教育に計画的に取り組む</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に計画的に取り組むことができた。地域との連携について積極的に進めることができた。 ②環境に関する授業を教育課程上に位置づけし計画的に取り組んだ。</p>	<p>①各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動洗い出す ②地域教育力を活用し、環境に係る体験的な活動をとり入れる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の全体計画の中で、環境教育については4年生に特設されているが、他学年の教科・道徳指導の中でも実施されていることを全体で共有した。 ②支援地域コーディネーターを活用し、ワカメの刈り取り等地域の特性を活かした体験的な活動が設定された。</p>	<p>①環境教育の全体計画を作成し、カリキュラム上の位置づけを明らかにする ②地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画の中で、環境教育の位置づけが明確にされているが、カリキュラムの中での洗い出しはまだ着手できていない。 ②支援地域コーディネーターを活用し、環境に関わる体験活動の充実が図られた。</p>
行動プラン			
⑧ 情報教育の推進	<p>①「ICT」を活用した授業のカリキュラムの作成改善に取り組む ②情報の発信者としての家庭との連携を図り、モラルの育成を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①外部講師の出前授業や講習会で、より専門性の高い授業を行うことができた。 ②情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を図り、職員の共通理解ができた。</p>	<p>①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①各教室のICT環境を活用し、授業場面で多くの実践がなされた。 ②携帯電話・スマートフォンなど新しい情報機器における情報モラルの醸成について課題を把握し、保護者の意識向上に努めた。</p>	<p>①引き続き、ICT(情報通信技術)機器を活用した授業に取り組み、教員のスキル向上を図る ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①パソコンの入れ替えにより、各教室のICT(情報通信技術)環境がさらに充実し、授業場面で多くの実践がなされた。 ②児童の情報機器活用能力が進んでいく中、それに伴うトラブルも避けられない状況を認識し、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、判断力の育成を図った。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る</p> <p>②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校便りの他、個人情報の保護に十分配慮しつつ、ホームページにおいて情報の発信ができた。ホームページの更新は2週間に1回定着した。</p> <p>②保護者の授業研究会への参加により学校教育への理解が図られ、より理解・協力が得られるようになった。</p>	<p>①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る</p> <p>②個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。</p> <p>②学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った</p>	<p>①授業参観や「学校に行こう週間」等保護者・地域への公開の場を活用し、学校教育目標や取組の実態などの周知を図る</p> <p>②日常の授業だけではなく、研究会なども公開することにより、学校運営への理解を求める</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①「学校へ行こう週間」等で保護者、地域の方に学校の様子を公開することはできたが、そのねらいや取り組みの工夫等が伝わり、学校に対する理解が深まったとは言えない。</p> <p>②引き続き、アンケート項目の工夫改善に取り組んだ。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を教育課程に位置づける</p> <p>②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に取り組み、成果を交換し合う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域本部の内容の精選を行った。また、地域コーディネーターとの連携を密にするため、定期的に年間計画の確認や取り組み方の連絡を取り合い、事業を円滑に進めることができた。</p> <p>②年間を通して多くの地域講師に来ていただけるよう校内で活動計画づくりをして取り組み、より活動の幅を広げることができた。</p>	<p>①地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実をめざす</p> <p>②保護者や地域にボランティア登録をすすめ、地域本部のネットワークづくりを推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域協議会の充実を図り、積極的な問題提起を行い、コーディネーターを中心に積極的な活動を行った。</p> <p>②地域人材の積極的な活用は図ったがボランティア登録の働きかけには至らなかった。</p>	<p>①学校支援地域本部を通し、保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する</p> <p>②地域との連携を深める中で、地域素材の掘り起こしを進め、学習活動の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域協議会の活動について見直し、独自の活動として校内の環境整備に取り組んだ。</p> <p>②地域人材の掘り起こしに努め、地域講師として活動してもらうことができた。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>①評価結果を公開し、広く意見を求め学校の改善につなげる</p> <p>②活動を公開し、改善の取り組みに理解や支援を求める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果： ①児童・保護者・教職員からアンケートをとり、その結果を学校関係者評価委員会、学校評議員会、職員会議等で、今後の課題として話し合った。また、その結果を学校便り、ホームページ等で積極的に伝え、家庭からの協力をいただけるよう情報発信を積極的に行った。</p> <p>②学校評価のあり方やアンケート内容について教職員で話し合い、アンケート内容を改修すると共に課題解決に向けてさらに工夫改善を図ってきた。</p> <p>課題：評価結果から課題を明確にし、さらに学校全体で学校改善に取り組む必要がある。</p>	<p>①学校教育目標における重点目標や行動目標の自己評価を活かし、学校評価の実効性を高める</p> <p>②学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ②行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。</p> <p>②学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。</p>	<p>①学校教育目標との関連という視点から、評価項目や評価方法の改善に取り組む</p> <p>②学校評価に基づき、改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校教育目標の具現化をめざした重点を設定し、それに沿った評価項目を設定した。</p> <p>②学校評価の結果を学校だよりで保護者・地域に発信し、改善点を明確にすることができた。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①教育目標との関連を明確な校内研究に取り組む ②人権教育の研究成果を生かした授業研究に取り組む ③外部講師の活用を積極的に行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①昨年度に引き続き、校内研究では「コミュニケーション力」の向上を目指して取り組んだ。全教員が研究授業を行い、研究討議を重ね内容を深めることができた。また、他地区の研究の取り組み方を学ぶために研究発表会等に積極的に参加し、本校の研究に役立てた。 ②次年度の市委託研究発表に向けて全学年で計画的に授業研究を行い、子ども達の「聞いて・考え・伝える」授業の在り方を追求し研究討議を行った。 ③外部から講師を計画的に招聘し、研究授業をサポートしていただき研究が深まった。</p>	<p>①学習指導案の事前研究、研究授業、事後研究など、校内研究の充実を図る ②これまでの取り組みを検証し、成果と課題を明確にし、次につながるまとめをする</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学年・ブロックを主体とした授業研究が活発に行われた。 ②市内だけでなく、近隣の地区にも呼びかけた研究全体会を実施し研究の成果と課題を発表することにより、次につながるまとめをすることができた。</p>	<p>①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする ②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①これまでの研究の蓄積をもとに新たなテーマを設定し、算数における既習事項を軸に6年間の見直しを持てる体制を整えた。 ②ブロックの研究組織での取り組みを中心に全員が授業を公開し指導力の向上を図った。</p>
② 授業評価の活用	<p>①保護者の評価を授業改善に生かす ②児童相互の授業参観を行い、教師と児童が一体となった授業改善に取り組む ③外部講師による授業評価の日常的な実施</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実を図ることができた。また、研究授業に保護者の参加を促し、より多くの方に参加いただき、本校の取り組みを説明することができた。今後もより多くの参加者に授業評価をしていただき、授業力の向上を図りたい。 ②昨年度に引き続き、児童相互の授業参観を実施し、児童の評価活動を授業改善に活かす取り組みができた。 ③外部講師の計画的な招聘により、適宜、授業の指導講評をいただくことができた。</p>	<p>①指導と評価の一体化について教員の共通理解を深め、授業改善に努める ②校内研究を通じ、授業評価を教員同士で行うことにより、研究に対する参画意識を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①日々の授業参観や校内研究への取り組みにより、指導と評価の一体化については共通理解が図られ授業改善につなげることができた。 ②学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。</p>	<p>①授業評価のあり方や活用の方法について、共通理解を深める ②学校の教育力の向上につながるような授業評価のあり方を引き続き検討していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①日々、授業のねらいの明確化を特に意識して取り組むことが共有されつつあり、目標に沿った授業評価が行われるようになった。 ②引き続き、学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①校外の研修への参加を促し、専門的力量的の向上を図る ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う ③児童指導に関する研修を継続する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内外の研究に積極的に取り組み、研究協議を重ねたことにより、研究内容も深まり、計画的な研究ができた。 ②他地区の研究発表会に全職員が積極的に参加し、それらの内容報告し、情報を共有できたことは、校内研究を進める際に参考となった。 ③児童指導・支援については、計画的な研修会を設定し、情報の共有を図り全教職員で取り組むことができた。今後さらに、支援を必要とする子ども達についての研修を深め、支援体制を定着していきたい。</p>	<p>①自主的な教員研修が行われるよう、支援体制づくりをすすめ、時間の確保や機材等、環境の整備を図る ②OJTを組織的に推進し、「チーム小坪」の協働を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①各分掌の中から必要な研修について自主的に設定するようになり、必要な環境の整備に努めるようになった。 ②年齢・経験年数のアンバランスから、ミドルリーダーの育成が難しく、組織的にOJTを推進するには至らなかった。</p>	<p>①教職員のキャリア形成に資するような研修を実施し、指導力の向上を図る ②校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるように、組織的に取り組む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①今年度の指導の重点から、必要な研修を計画し、積極的に取り組んだ。 ②児童の実態や教員のニーズに沿った研修が設定され、日々の学級、学年経営に活かすことが出来た。</p>

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(池子小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①学習状況調査などのデータや日々の見取りに基づいて子どもの実態を把握し、授業研究の取り組みを通して指導方法の工夫と改善を図る ②少人数やチームティーチング等、多様な学習形態を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	①今まで取り組んできた地域教育力を生かした学習支援ボランティア等をより活用し、個を支援する学習環境を整える ②基礎的・基本的な知識・技能がどれだけ子どもたちに定着しているかを検証し、より効果的な学習形態の工夫改善(指導と評価の一体化)を図るとともに、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成にも力を入れる	
		(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった	
		成果と課題 ①児童の実態を見ながらブロック間でも情報交換し、授業を通して指導方法の改善を図った。今後も学力向上を目指し、学習状況調査などのデータも活用し、学校全体で取り組みたい。 ②多様な学習形態を活用し、学習の定着を図った。	成果と課題 ①今年度は地域の学習素材や教育力の更なる活用に心がけ、各教科や特に生活科・総合的な学習の時間の具体的な場面で個を支援する教育活動ができた。 ②授業力向上に心がけ、個々のニーズに合った指導支援に繋がるケースが増えているが、合理的な配慮を踏まえた更なる検証、工夫が必要である。	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	H24(2012)年度取組内容 ①読解力向上に向けて、学年ごとに授業実践のあり方を検討し、改善を図る ②コミュニケーション能力育成について、活動場を広げる取り組みを行う	H25(2013)年度取組内容 ①学習状況調査などの結果を踏まえ、本校児童の特性を分析し、読解力向上のために各教科や教科外の活動において言語活動の活性化を図る ②すべての教育活動の中で、コミュニケーション能力の育成を意識して取り入れることをめざす	H26(2014)年度取組内容 ①読解力向上のための言語活動の実践内容を各学年の年間計画にのせ、6年間で子どもたちにとってより効果的な取り組みとなっているか分析・検討を進める ②コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設け、授業実践の工夫改善を図る	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	
		成果と課題 ①各教科、総合的な学習の時間等の年間計画を見直し、ねらいや目標を達成するために授業実践の改善を図った。 ②各教科の授業内容に、考えたことをグループや学級全体に伝える活動や交流を多く取り入れ、活動場を広げる取り組みを行った。	成果と課題 ①学習状況調査などの結果から、本校児童の特色を知り、各学年で言語活動の活性化に努めた。 ②各学年、各学級で行う教育活動の中で意識的に言語活動の場を設け、コミュニケーション能力の育成をめざした。	
③ 読書活動の推進	H24(2012)年度取組内容 ①市立図書館との連携を進め、図書室の機能向上を目指す ②発達段階に応じた読書活動のあり方を検討し、多様な活動を展開する	H25(2013)年度取組内容 ①図書室の利用指導を行うと同時に、各教科の中で、図書室を利用した学習を推進する ②蔵書のよりよい充実を図り、学習情報センター及び読書センターとして、学校図書館の機能向上をめざす	H26(2014)年度取組内容 ①司書教諭、学校図書館指導員、学校支援ボランティアの連携と、効果的な活用を進め、読書活動の充実を図る ②市立図書館との連携を深め、学級文庫の充実を図る。また、蔵書のデータをパソコンに入力し、検索を容易にするため、校内のデータベース化を目指す	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった	
		成果と課題 ①学校図書館指導員が各学年の学習内容に沿った図書を担当や教科担当からの希望を集約して、市立図書館から多くの本を取り寄せ活用した。 ②各学年の発達段階に合わせて、ボランティアによる「池小お話し会」を年間計画に位置づけ、読み聞かせや素話の機会を、計画的に展開した。	成果と課題 ①学習内容に合わせて市立図書館の貸し出しを利用し年間を通して活用できたと共に、学級文庫用のリサイクル本を充実させることができた。次年度は、各教室の学級文庫として配置していきたい。 ②蔵書数、購入数、廃棄数などはデータ化できたが、検索を容易にするためのデータベース化には至らなかった。次年度も継続して進めていきたい。	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①校内支援体制のさらなる充実を目指し、外部組織との連携を深める ②学校評議員会、地域協議会などでも支援体制の理解を得られるよう、情報の発信に努める	H25(2013)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的な対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を確立させる	H26(2014)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的な対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を充実させ、児童理解の研修等を通して、授業力、学級経営力の向上をめざす	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	
		成果と課題 ①逗子市の教育研究所や子育て支援課等と連携し、児童の支援を進めた。学習支援が必要な児童には個別指導を行い、また巡回指導員による支援教室も始動した。 ②学校評議員会や学校支援地域協議会等で本校の支援教育の活動について説明し、理解・協力を仰いだ。	成果と課題 ①年に2回児童指導研修会を実施し、支援や配慮が必要な児童理解ができた。何か問題が起きたときに、早急・適切に対応できた。 ②支援が必要な児童に支援教育推進巡回指導員による支援教室で学習することによって、ソーシャルスキルが高まった。教材も増え、活用できた。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①幼・保との連携において、基本的な生活習慣の充実を図る</p> <p>②学校だより、保健だより、給食だより等を通じて、家庭教育力の向上を図る</p>	<p>①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活を心がけることで基本的な生活習慣の育成をめざす</p> <p>②保護者・地域・関係諸機関と連携し、情報交換や協同事業を通して家庭教育力・地域教育力の向上を図る</p>	<p>①学校からの「たより」や参観・懇談など、様々な機会を通して保護者・地域・関係諸機関などへ積極的に情報発信をしていくことで、さらなる連携を図る</p> <p>②児童を取り巻く環境の変化に応じた健全育成を図るため、保護者や地域を対象にした講演会(研修会)を積極的に開催し、子どもを見守り、育てるための考える場を設定する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①入学予定の幼稚園や保育園を訪問し、情報交換を行った。これにより、クラス分けの参考になり、基本的な生活習慣を含めて入学後の学校生活がよりスムーズにおこなうことができるようになった。</p> <p>②学校からのお便りを通して保護者に情報を提供し、家庭教育の向上を図った。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①正門前での朝の交通指導で、校長があいさつ運動を推進することにより、学校全体のあいさつ運動も活性化したと考える。</p> <p>②学校支援地域本部事業など、保護者・地域・関係諸機関との連携も密に行い、特に地域教育力を十分に活かすことができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校便り、学年便り等、定期的に発行され、学校からの積極的な発信に繋がった。HPは年度末に新たな形で更新ができたが、全職員での研修が必要である。</p> <p>②子どもたちの規範意識の高さは、学校、地域、保護者の連携の結果である。また、委員会やたて割り活動を通じた学校をあげての取り組みの効果が出ている。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①教育課程全体を見直し、様々な教育活動におけるねらいを明確にする中で道徳授業の充実を図る。</p> <p>②6年間の全体計画を見直し、地域との連携の中で、道徳教育を推進する。</p>	<p>①道徳の授業を要として、様々な学習活動の中にも道徳的な内容を積極的に取り入れることで、道徳教育の充実を図る</p> <p>②各種体験活動の充実を図り、その活動を通して心に響く道徳教育を実践する</p>	<p>①人を思いやる心、命を大切にすることを重点に、児童一人ひとりの心に響く教育を学校・家庭・地域と連携を密にしながら推進する</p> <p>②学校支援地域本部と連携し、地域の人材や特性を生かした道徳教育の実践に取り組む</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①教育課程全体の見直しと、道徳資料の充実を行った。</p> <p>②各学年の年間指導計画の見直しを継続して実施した。6年間を通した見直しまでは十分ではなかったが、道徳の授業を保護者に公開するなど、学校全体としての意識向上に努めた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①各教科と道徳との関連が示されるように担任が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習の場面の中で、道徳的価値を見なおすように努めた。</p> <p>②様々な体験の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校教育の要である道徳教育は、普段の生活の中で活かされなければならない。本校では生きた題材を元に子どもたちの心に響く授業を意識し公開することができた。</p> <p>②出生地学習は自尊感情の向上に繋がれることを意識した心をはぐくむ授業の実践を行うことができた。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①学校支援地域本部の活動のさらなる充実を図り、体験活動を推進する</p> <p>②体験活動で育てたい力を明確にし、6年間の指導の体系化を図る</p>	<p>①地域の特性を生かした体験活動(自然体験、福祉体験、勤労体験、遊び体験等)を通して、社会性や協調性を育成する</p> <p>②社会見学・校外学習・宿泊行事・異学年との交流行事などを通して、集団生活のマナーや責任感を育むとともに、思いやりや信頼関係を育成する</p>	<p>①学校に講師を招いての体験活動だけでなく、子どもたちが積極的に地域へ出て行って取り組めるような活動を増やすことで、より効果的な学習活動を目指す</p> <p>②各種体験活動等を通して、体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいくような活動を計画し推進する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①学校支援地域本部を活用して、校庭の植物観察や地域の教育力を活用した福祉活動など、体験活動を充実させる取り組みを行った。</p> <p>②ふれあい遠足、キャンプ、修学旅行を体系的に検討し、内容の充実と安全確保を図り体験活動のさらなる充実を目指した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①地域の教育力を活用し、社会性や協調性を育成することができた。</p> <p>②ふれあい遠足・ふれあい集会・たてわり活動などを通して異学年が交流しお互いに思いやり、信頼関係を育成することができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①子どもたちが地域に出て行く活動については、昨年度までのものに加え、今年度新たに企画したのも多く実施することができた。次年度は、特に地域の高齢の方とふれあえるような体験活動を工夫していきたい。</p> <p>②総合的な学習の時間など、体験を通してさらに学習を深めていけるような活動に取り組むことができた。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①各学年の食育に関するこれまでの取り組みを体系化していく</p> <p>②健康教育を推進する中で、健康の意義について保護者の理解を深める</p>	<p>①食育に関する全体計画に基づき、食教育を計画的に推進する</p> <p>②健康教育について、児童の体力や健康状態を把握し、教職員間で共通理解を図るとともに、家庭や関係行政機関等との連携しながら計画的に推進していく</p>	<p>①各学年の食育に関する取り組みを体系化し、食育指導、体力づくり、心身の成長発達について正しく理解させるための実践を推進する</p> <p>②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①昨年度以上に食育への取り組みを行ったが、体系化には至らなかった。</p> <p>②給食だより、保健だより、廊下の掲示板等を通して、児童の健康に対する保護者の関心を高める働きかけを行った。さらに、保護者対象の講演会も実施した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①食育に関する全体計画に基づき、栄養士による食育の授業や、給食指導を計画的に行うことができた。今後も各学年と連携をとり継続して実施していく。</p> <p>②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通して実践することができた。今後も教職員間の共通理解をはかりながら実践を継続していく。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、食育の視点を持ち進めていく。</p> <p>②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりやホームページを通じての発信を行った。今後、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①児童自らの危機予測・危機回避能力の育成を目指し、安全教育を計画的に実施し、日々の教育活動の中で意図的に取り組む ②交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室実施し、地域と連携し、児童の安全に対する意識の向上を図る	①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく ②地域との連携を通して児童の実態を踏まえた交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室を実施し、安全に対する意識の向上を図る。また、より良い環境を整備していく
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や道徳活動の中で危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。さらに、様々な場面を想定した避難訓練を実施し、実際の行動に結びつけるようにしていきたい。 ②警察等の外部機関と連携し、安全教室等を開催した。また、教職員の研修も行い安全に関する意識を向上することができた。今後も継続して実施していきたい。	成果と課題 ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も計画的に行っていく。 ②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につなげる事ができた。今後も継続していく。	
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進		①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながら組織的対応を図る ②個人情報の保護に配慮しつつ、幼稚園・保育園や中学校との連携を深め、支援に役立てる	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る ②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携を密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①スクールカウンセラーや巡回指導員、うるおいフレンド、外部機関等と連携し早急・適切に対応ができた。 ②幼稚園や保育園との連携を深め、入学予定の支援体制の充実にも努めた。また、中学校とも連携を強化し、入学後の支援に役立つようにした。	成果と課題 ①支援や配慮が必要な児童には、スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員にアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。毎年心のアンケートを実施し、即対応ができています。 ②外部機関と連携を密にし、各児童に合った支援ができた。	
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①幼稚園・保育園と相互の参観等を推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する	①幼稚園・保育園と相互の参観等をさらに推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する	①個人情報の取扱いに、より一層配慮しつつ、幼・保・小・中の連携を進め、学校生活の安心・安全の向上を図る ②小・中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①「学校へ行こう週間」で生活科の交流を今年度も行った。幼保との連携を行事を通してより一層推進できた。役割の明確化は今後の課題である。 ②小中学校の研究の連携を始め、今年度はお互いの研究会に参加した。今後は児童指導の情報交換等もさらに推進していく。	成果と課題 ①幼・保・小担当者会において、情報交換や公開行事参観などを通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続的な連携をはかりたい。 ②中学校の学校訪問や出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けて、支援体制の充実にも努めた。今後も、継続的な連携をはかっていく。	成果と課題 ①幼・保・小連携推進連絡調整会議において、情報交換や公開行事参観などを通し、相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していききたい。 ②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けての児童の授業参観や部活見学、生徒会活動説明会など、学校間の交流が深まった。今後も、継続的な連携をはかっていく。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①池子ヒルズの保護者の協力を得て、国際教育の充実を図る ②池子小学校の国際教育のあり方をまとめ、教育課程に組み込み、学校の特色としていく	①多様な文化に触れる内容の学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然などに関心を高めるような取り組みをする	①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化活動についてふれ、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる ②各学年の外国語活動、国際理解の授業に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①今年度も働きかけを行ったが、池子ヒルズとの交流は困難であった。 ②池子から通学する児童はいるが、以前のような交流ができないため、計画の見直しが必要である。 ③国際教育指導助手と担任が協力して、各学年で英語を中心とした国際教育の学習を充実させることができた。	成果と課題 ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、各学年が国際教育に取り組んだ。 ②IEA(国際教育指導助手)と事前に話し合い、IEA(国際教育指導助手)の出身国の話から、様々な国の文化や特徴について取り上げ、授業づくりをした。	成果と課題 ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。 ②児童がより興味をもつ内容をIEA(国際教育指導助手)と考え、授業作りをした。様々な地域や国の文化にふれ、授業を展開した。

【池子小学校】

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①教育活動全体をキャリアの視点で見直し、キャリア教育の充実を図る ②地域教育力のさらなる活用を図り、調べ学習や体験学習の取り組みの充実を図る	①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験活動を通して取り入れる ②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習を充実させる	①キャリア教育に対する教職員の共通理解を図り、子どもの発達に応じた様々な「生き方の教育」について検討し、その取り組みを実施する ②調べ学習や体験学習のねらいを再確認し地域教育力の効果的な活用を図る
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①体験的活動を通して児童が自己の生き方や自分の将来について前向きに考えることはできたが、教育活動全体でキャリア教育を行うことは今後の課題である。 ②昔遊び、田植え等様々な教育活動で地域教育力を活用し、学習ボランティアの支援により調べ学習や体験学習を充実させることができた。	成果と課題 ①4年生での2分の1成人式 6年生のラーメン作り・八景島シーパラダイス飼育員体験・市長との話をおして自己の生き方や今後の職業選択について考えることができた。 ②保護者や地域のお店(畳店 豆腐店)の協力を得て調べ学習や体験学習が充実した。	成果と課題 ①総合的な学習の年間カリキュラムを作る中、4年生6年生でキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。 ②地域や保護者の方を効果的に活用した体験的な学習を引き続き行った。
行動プラン ⑥ 福祉教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常に生きる福祉教育の推進をめざす ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図るとともに、地域・保護者への発信も充実させる。	H25(2013)年度取組内容 ①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②NPO等の外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する	H26(2014)年度取組内容 ①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る ②日常的な福祉教育・人権教育を推進し、人権感覚の向上に意図的に取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①車いすでの生活について考えさせたり、視覚障害者体験を学習に取り入れたりすることで、体験的に学ぶだけでなく、地域教育力を活用して日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。 ②学級指導や朝会等で、いじめや暴力について児童自ら考えるような指導や講話を実践し、人権意識の向上を図った。	成果と課題 ①市の社会福祉協議会と連携する活動はなかったが学年ごとに体験的な福祉教育を実施した。 ②学年の発達段階に応じた様々な活動をおして地域教育力を生かして日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。	成果と課題 ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。 ②各教科や、ユニセフ募金などの活動を通して、自分たちができることを考えたり、他者を尊重する態度を培うことができた。
行動プラン ⑦ 環境教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理する ②環境保護への体験的な取り組みが日常化するような学びの手だてを構築する	H25(2013)年度取組内容 ①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理し、積極的に活動を行う ②環境教育担当者会での情報交換や、関係諸機関との連携を進め、日常的な活動として環境教育に取り組む	H26(2014)年度取組内容 ①各学年の全体計画を見直し、取り組む行動事項と目標を明確に示し、環境教育を積極的に推進する ②保護者・地域、さらに関係諸機関との連携を深め、子どもたちの環境への意識を育む
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①環境教育の全体計画の作成には至らなかったが、各学年の環境に関わる取り組みは継続して行った。 ②身近なものを通して7Rを学習し、ごみの分別に意識を持って取り組めるようになった。	成果と課題 ①全体計画に基づき、各学年や委員会・全校で活動を行った。 ②関係機関と連携し学習を行ったり、全校行事などで日常的に環境教育に取り組んだ。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムともかかわらず、各学年の全体計画を見直し、取り組む行動目標や内容について、共通理解をはかり、次年度以降も進めていくことを確認した。 ②関係機関と連携した学習活動を引き続き行った。
行動プラン ⑧ 情報教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む ②ICTの効果的な活用について研修の機会を増やす	H25(2013)年度取組内容 ①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る	H26(2014)年度取組内容 ①ICT(情報通信技術)を活用した「授業の充実」と「分かる授業」の実現を積極的に図る ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①図書室やICT機器を活用していく中で、情報モラルを含めた情報活用能力の指導のあり方を研修し、学校全体で意図的に取り組むことができた。 ②職員間で、各教科・行事の中でICT機器の活用方法の情報交換を行うなど、研修の機会を増やすことができた。	成果と課題 ①情報教育の推進と、教職員の共通理解を図るため、来年度の「情報教育年間指導計画」の作成を行った。 ②今後はできあがったものを基に単元研究に取り組んでいきたい。	成果と課題 ①情報教育年間指導計画のもとに単元研究に取り組み、学年に応じて実践した。 ②ICT(情報通信技術)を活用し、児童の意欲や関心を高めることができた。今後も、機器の活用を工夫しながら取り組むたい。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<p>①様々な公開において、意見を集約し、次の3カ年計画の策定に生かしていく</p> <p>②ホームページでは、パスワードを設定するなど工夫することで、より安全に、かつ迅速な情報発信を行う。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①様々な行事において地域に公開する機会を増やし、その都度感想・意見をいただき、今後の改善の参考資料とした。</p> <p>②ホームページ更新の回数を増やし、より迅速な情報発信に努めた。パスワードの設定はしなかったが個人情報には配慮し、多くの目で確認してから発信するようにした。</p>	<p>①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の改善を図る</p> <p>②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校からの情報は、各学級・学年・学校・分掌からのたよりを通して発信することができた。学校だよりは、発行日にほぼ地域へも配付することができた。</p> <p>②学校支援地域本部事業は、様々な活動が活発に実施された。しかし、学校が主導で動いているので、今後は、地域コーディネーターなどと密に連携し、地域コーディネーターが主体的に動ける場も増やしていきたい。</p>	<p>①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施</p> <p>②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①今年度も、学校からの情報発信として、各学級・学年・学校・係からのたよりを通して、保護者・地域に発信することができた。また、年度の後半には、学校ホームページを随時更新し、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。</p> <p>②地域コーディネーターと連携し、学校支援地域本部事業を適切かつ活発に実施することができた。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①学校支援地域本部と学校との連携を点検し、より効果的な活用を図る</p> <p>②地域教育力の活用を年間計画の中に位置づける</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校支援地域本部のコーディネーターの役割を見直し、学校と支援地域本部の連携のあり方を再点検した。その結果、学校が求める支援が明確に伝わり、内容の充実度が増した。</p> <p>②支援地域本部担当が年間計画を作成し、計画的な活動になるよう推進することができた。</p>	<p>①地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善</p> <p>②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の検討</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域コーディネーターを中心に、ふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、展示を積極的に協力していただいた。</p> <p>②学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、よりよい意義深い活動が展開された。</p>	<p>①地域支援コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善</p> <p>②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の推進</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域支援CDを中心に、学校行事や各教科活動での支援やふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、多くの作品の出展協力を得ることができた。</p> <p>②学校評議員会で今年度の活動の協力を通年で呼びかけ、環境整備など協力していただいたことをその都度報告した。</p>
③ 学校評価を生かした学校の改善	<p>①学校評価をもとに学校改善が図られるような方策を検討する</p> <p>②学校評価に基づき、明らかになった課題を次の3年間の計画に盛り込む</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校評価アンケートの項目をさらに工夫改善し、児童・教職員・保護者の振り返りが次年度の学校教育の充実につながるようにした。</p> <p>②学校評価アンケートの活用方法も含め、具体的な助言・指導を頂くことができ、学校の課題が明確になった。</p>	<p>①重点化した目標設定と、学校評価アンケートの実施場面と内容の検討</p> <p>②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>児童・保護者・地域による学校評価の他、学校関係者評価委員会での助言をもとに、教育活動の点検と見直しを図ることができた。今後は、児童・保護者による授業評価など、様々な評価方法を検討し工夫改善に努めたい。</p>	<p>①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析</p> <p>②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校評価アンケートの改善と実施方法の工夫を心がけ、沢山の方々からのアンケートをいただくことができた。今後は実施時期(季節)の検討が必要である。</p> <p>②学校関係者評価委員会の指導・助言をいただきながら、全職員で共有し、教育活動に専念することができた。それがアンケート結果に繋がっている。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
<p>行動プラン</p> <p>① 授業研究の充実</p>	<p>①中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る</p> <p>②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員に校内研究講師を兼ねていただくことにより、校内研究の成果を具体的に授業改善につなげる道筋ができ、指導体系の見直しを図ることができた。</p> <p>②新しい評価の考え方についての研修を行い、それをもとに指導計画を見直すことにより、指導力の向上を図ることができた。</p>	<p>①中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る</p> <p>②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年ブロックごとにめざす子どもの姿や達成のための手立てを設定してブロックごとの事前研究を行い、縦のつながりを重視した校内研究をすすめた。</p> <p>②外部の講師を招いて校内研究の内容に具体的な指導を受け、指導力の向上を図ることができた。</p>	<p>①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にする</p> <p>②校内研究を通して、個々の教員が指導力を高め、授業の改善を進めていく。学校全体で目標が達成できるように意識を高める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にし、その姿を実現するために総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しを行った。</p> <p>②個々の教員が授業改善に向けて、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しに取り組み、今後に向けて共通理解を行った。</p>
<p>行動プラン</p> <p>② 授業評価の活用</p>	<p>①多様な観点から授業評価を行い、学校改善につなげていく</p> <p>②新しい評価をもとに、授業評価を行い、指導力の向上を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員に校内研究講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善を学校改善につなげる道筋ができた。</p> <p>②新しい評価の考え方についての研修を行い、それをもとに授業評価し、授業改善と指導力の向上を図ることができた。</p>	<p>①授業評価に対する、教員の共通理解を深め、授業の改善に努める</p> <p>②校内研究の中で、授業の評価を教員同士で行い、研究に全員で取り組む意識を高める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員に校内研究の講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善をさらに進めることができた。</p> <p>②校内研究に取り組む意識が以前に増して高くなり、ブロックでの話し合いを活発に行うことができた。</p>	<p>①授業評価のあり方や活用の仕方について、検討していく</p> <p>②授業の改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①②実際に児童や保護者などによる授業評価の実施までにはいたらなかったが、より有効な授業評価のあり方について検討することができた。次年度は確実に実施できるよう、さらに検討を重ねていきたい。</p>
<p>行動プラン</p> <p>③ 研修事業の充実</p>	<p>①研修による指導力の向上が核となるような学校運営組織の改善に取り組む</p> <p>②教員の自主的な研修が、授業に活かされ、学校全体の指導力の向上につながるような人材育成を目指す</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①研修による指導力の向上のため、授業の参観や研究会への相互参加を行った。学校運営組織の改善については今後の課題である。</p> <p>②児童の実態から指導の手立てを考え共通理解することで、学年のつながりを意識した研究を進めることができた。このような研修を通して人材育成につながる取り組みを進められた。</p>	<p>①学校内のOJTを機能させ、自主的で活発な教員研修が行われるよう、時間の確保を図る</p> <p>②授業づくりに直接つながるよう、研究研修部を中心に計画的に研究・研修を実施する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。</p> <p>②他校の授業参観や発表会に参加することを通して、校内研究で課題となることや参考にしたいことを明確にできた。また、研修会を設定し学力向上に向けてこれからの課題を明確にできた。</p>	<p>①学校内のOJTが日常的に機能するように、教職員がお互いに声をかけあいながら取り組む</p> <p>②研究研修計画をもとに、実践指導力向上のための効果的な研究・研修に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①経験の浅い教職員に対しては、日常的に学校全体で指導・支援していくよう声を掛け合っている。</p> <p>②校内研究で、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムを見直す際には、講師による研修も取り入れながら取り組んだ。また、児童指導・保健安全に関するさまざまなニーズに対応できるような研修を年間を通して行った。</p>

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(逗子中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチングの実践・検証 ②学習支援情報(個人学習カルテ)の作成と、教科相談等の支援活動の実施 ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善	①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチング及び少人数学級の実践・検証 ②学習支援情報(個人学習カルテ)の作成と、教科相談等の支援活動の実施 ③校内研究と連動し、「生徒一人ひとり」に視点をあてた研修の実施と授業改善	
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
		成果と課題 ①数学、英語を中心に単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。 ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。 ③横浜国立大学の両角准教授をスーパーバイザーとして、年間2回の公開授業と11月の授業研究(3クラス)を中心に校内研究を進めた。	成果と課題 ①数学、英語を中心に単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。 ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。 ③横浜国立大学の両角准教授や有元教授をスーパーバイザーとして、年間2回の公開授業と11月の授業研究(3クラス)を中心に校内研究を進めた。また、教育研究所の先生方とも連携して生徒一人ひとりが生きる学級づくりについて研修を進めた。	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	H24(2012)年度取組内容 ①言語活動の充実を重視した各教科での年間計画の作成 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	H25(2013)年度取組内容 ①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成 ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成(生徒の自己評価) ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力	H26(2014)年度取組内容 ①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成 ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成(生徒の自己評価) ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力 ③6月・1月に行う生徒の自己評価の肯定的な自己評価を5ポイント程度上げる	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
		成果と課題 ①新指導要領の重点の一つでもあることなので、生徒自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、各教科及び特別活動などを通じて、特にプレゼンテーションにつなげる年間計画を設定するようになった。 ②コミュニケーション能力の育成のためには、課題設定と、それを解決するための手立てを、生徒自ら考えさせていくことが大切である。そのために必要な資料として、読み物及び調べ学習資料の充実を図った。	成果と課題 ①校内研究のテーマと関連付けて年間指導計画を作成した。 ②6月と1月の年間2回全生徒に自己評価をしてもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。 ③2年ある程度ついている」というポイントにおいては、課題が残った。	
③ 読書活動の推進	H24(2012)年度取組内容 ①学習情報センターとしての学校図書館の高機能化 ②市立図書館との連携の推進	H25(2013)年度取組内容 ①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実 ②朝読書を中心とした読書活動の充実 ③市立図書館との連携	H26(2014)年度取組内容 ①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実 ②朝読書を中心とした読書活動の充実 ③市立図書館との連携	
		(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
		成果と課題 ①図書室の利用率は高く、司書教諭及び図書館指導員が中心となって、充実した図書室の運営や有意義な委員会活動を行っている。しかし、蔵書のデータ化はされているが、それをさらに有効活用することは、まだ具体的にはできていない。 ②各学年の行事にあわせて、市立図書館からその関連の本の貸し出しを依頼し、生徒たちに新しく幅の広い資料を提供できた。	成果と課題 ①総合的な学習の時間を中心に活用した。 ②年間2回の読書週間で「朝読書」を行い、校長・教頭も含めて「読み聞かせ」を行った。 ③市立図書館の図書の借り受けを中心に連携を図った。 ④総合的な学習の時間を中心に特別活動の時間にも行った。 ⑤2年2回の読書週間で「朝読書」を行い、校長・教頭・教務・学年の先生方が「読み聞かせ」等を行った。 ⑥市立図書館の図書の借り受けを中心に連携を図った。	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立 ②学習支援員 SC うるおいフレンド ボランティアなど個に応じた支援を確立	H25(2013)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した。支援教室等、個に応じた支援の実施 ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検証	H26(2014)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した。支援教室等、個に応じた支援の実施 ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検証と定着	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	
		成果と課題 ①教育相談CDを二人体制にし、5月をSCやSSWS・SVなどによるアセスメント月間と位置付けて、不登校生徒及び普通教室で困惑している生徒を特定し、個別の指導を行ってきた。その結果、登校できるようになった生徒も多くなった。(関係機関は、児相、研究所、なぎさ、子育て支援課などと連携してきた)大学生ボランティア(4名)を募り、人的リソースも確保した。 ②10月からは、支援教室を開設することができた。	成果と課題 ①二人の教育相談コーディネーターを中心に、毎月の校内支援委員会及び関係諸団体とのネットワーク会議等機能した。 ②取り組みの成果として不登校生徒数の減少(18名から14名)をみた。 ③教室前面の掲示板にカーテンを設置し、教室環境の構造化を図ったが、まだ緒についたばかりである。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①保護者等と連携をした、基本的な生活習慣の育成 ②学校からの情報発信を一元化し、各種お便りを統合</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①PTA総会や教育課程説明会などを通じて、基本的な生活習慣の確立が、学習の深化及び大人になるという自立の途につくために、不可欠なものであることを訴えてきた。そのために、毎朝の食事を摂ることや家庭学習の定着が、基本的な生活習慣の育成を推進する上で、最も必要なことを訴えたが、成果は把握できていない。しかし、家庭への連絡手段として、電話連絡は密にとっていた。 ②様々な立場から、保護者及び生徒への発信が、各種お便りとしてなされていた。発信力の向上は昨年度よりも増して、内容も充実していた。各種お便りの特徴を掌握し、学校として一つのねらいに迫るために、様々な角度から情報の発信が一元化できるよう教頭が調整を行い、各種お便りの統合を図っていた。</p> <p>○「Treasure Student褒章制度」を設置し、生徒をプラスのストロークで評価した。</p>	<p>①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成 ・毎日の朝食を必ずとる(80%以上) ・「孤食率」の低下を呼びかける(35%未満) ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す ②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①朝食は全校生徒の9割以上がほぼ毎日取っているが、他は半数以下であった。 ②学校便り、学年便り、学級通信に加え、校長通信を月2回程度発行し、ホームページにも掲載した。</p>	<p>①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成 ・毎日の朝食を必ずとる(85%以上) ・「孤食率」の低下を呼びかける(30%未満) ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す ②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①保護者と連携して基本的な生活習慣の定着をめざしたが、食育については不十分であった。 ②学校だより、ホームページ等で連携がとれた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との関連を密接なものとする。 ②生徒間に思いやり・感謝する人間関係を構築する ③道徳観について保護者との共通理解を深める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①各教科及び特別活動、総合的な学習の時間など、具体的に道徳のどの内容項目に関連しているかを、年間計画作成の段階で確認した。 ②個性の尊重のもとに、お互いの存在感を認め合う、仲間づくりの大切さは、各学年の発達段階の中で伝統的にも根付いている。年間二回の全校道徳で、「いのちの授業」を実施した。 ③学年及び学級通信を通じて、道徳観なるものが取り扱われてはいるものの、それで保護者との共通理解が深まったとまでは言い難い。</p>	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動 ②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討(全校道徳年間3回以上実施) ③地域人材活用の授業実践(年間2回以上)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。 ②年間3回の全校道徳を実施した。 ③全校道徳で地域人材を活用した。</p>	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動 ②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討(全校道徳年間4回以上実施) ③地域人材活用の授業実践(年間3回以上)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。 ②年間3回の全校道徳を実施した。 ③全校道徳で地域人材を活用した。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①生徒がボランティア活動等の社会奉仕活動に、その意義を知りながら自ら参加し、社会性や協調性を育むようにする。</p> <p>(評価) ①達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①ボランティア活動及び社会への奉仕活動について、その意義は十分に知りながらも、実践参加するまでには至っていない。しかし、各学年の発達段階の中で、社会性や協調性を身につける取り組みは進められている。特に二年生職業体験学習においては、主体的な意識のもとで、社会性を意識した事前及び事後学習が進められている。Z-Learningとして本校の総合的な学習の時間の中で、市民性教育の充実を図るために、次年度に向けて基盤作りに取り組んできている。</p>	<p>①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施 ・現代的な教育課題 ・学校行事の縦割りブロック活動 ・自然体験活動 ・職業体験 ・修学旅行</p> <p>(評価) ①達成した</p> <p>成果と課題 ①次年度3年生が、市への提言を行う予定。</p>	<p>①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施 ・現代的な教育課題 ・学校行事の縦割りブロック活動 ・自然体験活動 ・職業体験 ・修学旅行 ②3年生で3年間の市民性教育の集大成としての発表会を保護者・地域に公開して行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①3年生が修学旅行を通して学んできたことを「どのようにして逗子市に活かせるのか」ということについて市への提言を行った。 ②市長にも来校していただき、多数の来校者の中、発表会を実施できた。</p>

【逗子中学校】

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①授業や行事の中での体力づくり、健康教育の実践の定着化 ②地域の協力やPTAとの連携した、食育の体系化	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実 ・体育授業のチームティーチング(教員3名による指導) ・ラジオ体操 ・マラソン大会 ②地域やPTAと連携した食育の推進	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実 ・体育授業のチームティーチング(教員3名による指導) ・ラジオ体操 ・マラソン大会 ②地域やPTAと連携した食育の推進 ③チャレンジデイの取り組みを学校として企画し、自主参加を呼びかける
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	<p>成果:</p> <p>①学年ごとにテーマを定着させ、それぞれのねらいを果たすために、年間計画の中に位置づけ定着がなされた。保健体育を3Tで実施し、ラジオ体操や集団行進の徹底をはじめとした体力づくりを推進した。</p> <p>②食育の実践化として、各教科及び特別活動などを通じて、果たされているものの、具体的な実践として昨年度から取り組み始めた一・二年生を対象に管理栄養士を招き家庭科の授業を通じて、本校の食育学習の根幹をなすものと、共通認識を持ち実践化が図られている。</p> <p>課題:</p> <p>○地域の協力を得ながらPTAとの連携につなげていくことは、文化祭時の「餅つき」は実施したものの、次年度への課題としている。</p> <p>○PTAとの食育における連携については、成人教育委員会との活動の中に計画できるよう検討していく。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①三つの具体例をすべて取り組んだ。</p> <p>②1・2年生の技術家庭科で食育の授業を行ったが、PTAを巻き込むには至っていない。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①体育科の人数を確保する必要がある。</p> <p>②1・2年生の技術・家庭科で食育の授業を行った。「餅つき」を通して地域・PTAの協力を得て推進できた。支援学級では、畑を作るなどの活動を通して、充実させることができた。</p> <p>③長縄に学校全体で取り組んだが、家庭への啓蒙活動を充実させる必要がある。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し ②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実 ③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定	①逗子警察署生活安全課等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し ②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実 ③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)以外にも県警の安全教育を実施し、本校の防災計画も見直した。 ②年間3回の避難訓練、年間3回の災害時伝言ダイヤル訓練を実施した。 ③池子小学校で行った「避難所運営訓練」に中学生がボランティアとして参加した。	成果と課題 ①不審者対策の講演会などを実施し、安全教育を徹底した。また、防災についても避難訓練等徹底した。 ②年3回の避難訓練や災害伝言ダイヤル訓練を実施し成果をあげた。 ③逗子中で実施された避難所訓練に参加し成果をあげた。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進		①スクールカウンセラー、うるおいフレンド(心の教室相談員)、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討 ②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携	①スクールカウンセラー、うるおいフレンド(心の教室相談員)、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討 ②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
		成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に、人材の活用と情報の共有化を推進した。 ②研究所にお願いして「構成的グループエンカウンター」の手法による学級づくり、研究所スーパーバイザーによる研修会を実施した。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に人材の活用と情報の共有化を推進し成果をあげた。 ②研究所や支援教室の利用等で、全職員の共通理解のもとで成果をあげた。今後もこの態勢で実施していきたい。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①小学校と中学校間で「体育」や、「外国語活動」などだけではない、授業や行事などの交流の推進を検討。 ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や9年間を見通したカリキュラムの共同研修などを発展	①小・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの検討 ③湘南保育園との連携の模索(職業体験)	①小・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの実施 ③湘南保育園との連携
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①小中連携事業の中で、外国語の授業を中心とした事業は定着してきた一方で、その他の教科に広がっていない現状はある。しかし、お互いの研究会に参加することを、研究主任同士を通じて共通理解をとり、実際に2~3回の交流を行なうことができた。今後は多くの教員に、広がっていくように企画していく。 ②それぞれの研究主任及び教頭を通じて、9ヶ年を見通した「学び方カリキュラム作り」の、基本的な考え方について共同研修の場を設けたが、それを発展させていくまでには至らなかった。	成果と課題 ①池子小学校で体育教員が、逗子小学校で英語教員が授業を行った。 ②モデルを提示した。 ③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園、聖マリア幼稚園で職業体験を実施した。	成果と課題 ①池子小で体育教員、逗子小で英語教員が授業を行った。 ②モデルを提示した。 ③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園で職業体験を引き続き実施した。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①異文化を理解し、多文化と共生するために、授業や行事を通して、コミュニケーション能力の育成 ②国際教育指導助手の、効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成	①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通して、コミュニケーション能力の育成 ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施	①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通して、コミュニケーション能力の育成 ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施 ③市民性教育の一環として、修学旅行において、在住の外国人や観光客に住みやすさのインタビューをして、観光都市逗子のあり方を考える
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成できなかった
	成果と課題 ①異文化理解や多文化との共生を図るには、英語科が中心になりがちなものの、他教科及び特別活動や総合的な学習の時間においても、その必要性を盛り込んだ取り組みがなされている。 ②英語の授業において、国際教育指導助手の効率的な活用は充実した役割を果たしている。異文化理解とともに、コミュニケーション能力の育成にも、大きな力を尽くしている。	成果と課題 ①地域人材の活用まで及ばなかった。 ②IEA(国際教育指導助手)を活用し、「日本の学校、オーストラリアの学校」を紹介した。	成果と課題 ①地域人材の活用まで及ばなかった。次年度からは、地区内でのIEA(国際教育指導助手)の交流に取り組んでいきたい。 ②IEA(国際教育指導助手)を活用し、アメリカの地域や文化を紹介した。 ③修学旅行において、外国人とコミュニケーションをとるのは時間的にも難しい。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①職業体験学習の実施による社会性の育成 ②学校行事・生徒会活動の発展を図り、社会性や集団性を育成 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった	①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進 ②学校行事・生徒会活動の充実 ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラムづくり (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進 ②学校行事・生徒会活動の充実 ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラム完成 (評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①職業体験の取り組みにおいて、その事前事後の学習を通じて、一般社会の中で不可欠となる礼儀や作法などを学んでいる。それはアポ取りに始まって当日の実習、そして事後のお礼状書きなど、一連の流れの中で貴重な社会性を育むことができていた。 ②生徒会活動の充実、は生徒会の企画力及び実行力が問われる中で、生徒にそうした力を育成していくため、特に夏季休業期間中を利用して何らかのリーダー研修が企画できるよう、中長期的な見地に立って考えているところである。	成果と課題 ①例年通り59箇所以上の事業所の協力で職業体験を実施した。 ②PTA及び学校支援地域本部の協力の下、取り組んだ。 ③取り組みの2年目ということで、カリキュラム作りを行った。	成果と課題 ①例年通り39箇所の事業所の協力で職業体験を実施した。 ②PTA及び学校支援地域本部の協力のもと、取り組んだ。 ③取り組みの3年目ということで、修学旅行の学習活動をもとに、逗子市への提言という形で発表することができた。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①福祉体験学習の実施により心の育成 ②社会福祉の理解を深め、社会性の伸長を図る。 (評価) ① 達成できなかった ② 達成した	①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成 ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長 (評価) ① 達成できなかった ② 達成した	①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成 ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長 ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける (評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①実体験型の学習計画を、総合的な学習の時間の中で企画・実施しているよう、また、三年間を見通した系統的な位置づけが果たせるよう、今年度は次年度以降実施に向けての話し合いにこたえてしまった。 ②社会福祉に目を向けさせ、思いやりの心を育むためとして、特に本校教育目標の重点である「3あい(認め合い、学び合い、高め合い)」にあるように、様々な場面で社会性となってその力が発揮されている。	成果と課題 ①社会福祉協議会と連携して中学生にできるボランティアを模索したが、実現に至っていない。 ②市役所福祉部の協力の下、1年生を対象に講演会を実施した。	成果と課題 ①・②共に社会福祉協議会と連携し、3年生対象に福祉教育の授業を実施した。 ③田越川清掃活動、万引き防止キャンペーン等、新しい試みにも参加した。次年度も継続して行っていきたい。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①生徒会活動で、ホテルの里づくりの推進 ②総合的な学習の時間で環境教育の重点化 (評価) ① 達成した ② 達成した	①生徒会活動を中心とした、ホテルの里づくりの推進 ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践 (評価) ① 達成した ② 達成した	①生徒会活動を中心とした、ホテルの里づくりの推進 ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践 ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける (評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①学校支援地域本部事業としても、ほたるの里づくりに必要な生態状況を知ることで、それを守るために環境整備が必要であることを知り、そのために川の清掃活動などを積極的に取り組んだ。 ②地域清掃を含めた美化活動を、総合的な学習の時間の中で進めていく中、環境教育の第一歩として今年度は、一年生を対象にした講演や、夏季休業中に行なわれた特別講座などで重点的に取り組んだ。	成果と課題 ①6月に本校裏の川で合計十数匹の虫を確認した。 ②学校支援地域本部及び池子地区の住民と一緒に地域清掃を実施した。	成果と課題 ①初夏に天候が悪く、ホテルをあまり確認できなかった。餌のカワナを飼育中だが、水槽に照明が欲しい。 ②昨年度の反省を受けて12月中に3月の日程を決めて、地域清掃の連絡を行った。また来年度は総務会の方針で、10月にも地域清掃を行う予定である。また、保健委員会を中心に芝生の育成を行った。 ③田越川の清掃活動など、新しい試みにも多く参加した。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①映像を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成 (評価) ① 達成した	①市民性教育の一環として、ICTを活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成 ②ICTの「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進 (評価) ① 達成した ② 達成した	①市民性教育の一環として、ICT(情報通信技術)を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成 ②ICT(情報通信技術)の「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進 (評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①各教科及び道徳や特別活動などで、プレゼン能力の向上を目指すために、先輩たちの言動を自分たちと比較することによって、よき励みや自信につなげていけるようにした。	成果と課題 ①1年生はデジタルカメラ、2年生はオーバーヘッドカメラ、3年生はパワーポイントを活用して発表会を実施した。 ②県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。	成果と課題 ①1年生は実物投影機、2・3年生はパワーポイントを活用して行事などの発表会を実施した。特に3年生については、Z-Learningの視点より市長や教育委員会の協力の下、情報活用能力の育成に努めた。 ②県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①毎月最初の「学校公開日」を設定し、家庭・地域との連携 ②研究授業の保護者・地域への公開を実施 ③情報を積極的に発信し、学校便りの工夫：目に見える教育活動の実施</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学校公開日の周知について、お便りなどでお知らせしてきたが実績を上げることができなかった。公開日の意義やねらいを改めて明確に伝えることから、次年度の改善の糸口にしていきたい。 ②研究授業開催の折に、近隣の学校や評価委員の参加があった。授業力向上を目指している意図を、もう一度、保護者・地域に理解してもらい、参加者増につなげたい。 ③内容も発行数も充実していて、常に各学年の様子や行事の取り組み状況を盛り込んだもので、学校全体の動きを象徴するものとして定着している。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定 ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①毎日を学校公開日としたが、実際には参観者はいなかった。 ②年間5回の授業公開を実施した。 ③事例として挙げたものすべてに取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定 ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ④池子地区総務会にも出向き、情報発信していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①PTA役員を中心に授業見学が行われた。 ②年間5回の授業公開を行った。 ③事例として挙げたもの全てに取り組んだ。 ④学校長が参加した。</p>
② 地域教育力の活用	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成を図り、地域行事に積極的に参加 ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA役員との連携を強化 ③学校支援地域本部における地域コーディネーターの役割の明確化</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果： ①地域に共存している自覚のもとで、様々な地域行事に参加し、生徒たちの意識を高めることができた。 ②各会とも充実した運営及び連携を図ることができた。「地域教育協議会」の活動においては、学校のニーズに応じた人選を行い、特に体育祭や文化祭・合唱祭においては、PTAとの連携のもとで、多大な協力を得ることができた。 ③地域コーディネーターを新たな方に依頼し、様々な場面で尽力いただけた。明確な役割のもとに、学校側担当者とも綿密な連携が保てていた。</p> <p>課題：地域人材を利用した授業が、あまり開発されていないため、その取り組みが課題である。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数50人以上) ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化・学校支援地域本部における地域コーディネーターの目的別複数配置・小、中、高連携の模索</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①避難時運営訓練や地域の運動会、せせらぎ祭りに延べ100人以上が参加した。 ②事例として挙げたものすべてに取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数100人以上) ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ・学校支援地域本部における地域コーディネーターを活用した人材発掘 ・小・中・高連携の充実</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①市民まつりや川清掃、万引き防止キャンペーン、池子小学童への劇上演などに延べ100人以上が参加した。 ②芝生ボランティア、花壇整備、全校道徳への支援をいただき新たな人材を発掘した。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①学校目標との関連を明確にしつつ、目標や評価項目を設定して評価のポイントを絞り、実効ある評価活動を実施 ②学校の自己評価に基づいた学校関係者評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくりの推進</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校目標を具体的に実現させていくため、各場面において目標との関連付けを確認し、実効ある評価活動を目指して取り組んできた。その結果を、次年度に活かせるよう活動してきた。 ②学校の自己評価を基準にした中で、学校関係者評価からの指導・助言を活かし具体的な学校改善に努めてきた。年間を通じて計画的な取り組みを重ね、開かれた学校づくりの推進を図った。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する</p> <p>(評価) ①達成した</p> <p>成果と課題 ①年度の重点を校長通信でお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する ②学校評価保護者回答集計を保護者に協力を求める等、情報共有し、改善策を検討していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年度の重点をお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。 ②スキャナーによる集計が行えたので、保護者に回答集計作業の協力までは求めなかったが、学校だより等で全校配布した。</p>

③ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	①研究授業の積極的実践(1人年2回)を実施 ②保護者・外部者による授業評価を実施 ③教科会の充実	①学習評価の工夫による授業改善 ②授業研究の積極的実践(1人年2回以上)の実施 ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実保護者・学校関係者による授業評価の実施 ④教科会を中心とした組織的授業研究	①学習状況調査等、客観的な評価を学習評価の工夫による授業改善にいかしていく ②授業研究の積極的実践(1人年2回以上)の実施 ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実保護者・学校関係者による授業評価の実施と保護者・学校関係者による授業評価の実施 ④教科会を中心とした組織的授業研究
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した
	成果と課題 ①授業力の向上を目指した取り組みで、逗子市委託研究の充実を図るものでもあり、全員が年間2回の「授業公開」という形で達成した。次年度は、研究にかかわるスーパーバイザーの重要性を感じているため、市の委託研究を受けて年間を通したスーパーバイザーを依頼したい。 ②各学校行事において、アンケート形式で授業評価を積極的に求め、その集約結果を学校運営に活かしていくとともに、次年度への改善に役立てている。 ③時間割の中で、毎週一時間ずつ各教科会を設定・保障しており、授業力の向上及び指導法の改善などにつながる、情報交換を含めた充実した話し合いを持つことができた。	成果と課題 ①校内研究の中で取り組んだ。 ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。 ③すべて取り組んだ。 ④週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。	成果と課題 ①校内研究の中で取り組むとともに、教科会の話題として盛り込んだ。 ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。 ③すべて取り組んだ。 ④週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 授業評価の活用	①授業評価の再検討を行い、評価の幅や精度の向上 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」から、課題を明確にし、授業研究を充実	①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善	①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善 ③教員相互による授業評価用紙の検討
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	成果と課題 ①自己表現及び言語活動の充実を図るために、特に少人数授業担当者の中で、指導法の工夫・改善について、具体的に実践化した。 ②授業評価の深化を図るため、生徒による授業評価の方法に新しい方式(過年度までのマークシート方式に加えて記述項目を増やした)を取り入れ、具体的な工夫・改善点を検証した。「評価を意識した授業展開の工夫」という観点では、新学習指導要領の完全実施を实践へとつなげていくために、大変有意義なものとなった。	成果と課題 ①授業公開日に実施した。 ②校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。	成果と課題 ①授業公開日に実施した。 ②校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。 ③今後作成していく。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 研修事業の充実	①校内研修会を通して、研究と修養の内容の共有化 ②研修・研究会・担当者会等での情報を共有する方法の研究の実施	①計画的な校内研修会を通じた人材育成 ②校内の人材育成(OJT)の取り組み強化・メンター制、BS制	①計画的な校内研修会を通じた人材育成 ②校内の人材育成(OJT)の取り組み強化・メンター制、BS(Brother and Sister)制 ③自主参加研修の企画運営
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	成果と課題 ①逗子市の委託研究の研究主題に迫るために、研究主任を中心とした組織の中で模範授業の実施や指導案の書き方、授業研究につなげていく指導書の提供など、OJTを意識した運営を果たすことができた。横浜国大附属横浜中学校との連携が図れた。 ②研修及び研究会の紹介や資料の提供などにつき、グループウェアの利用や自主的研修会「ミニ研究会」の開催・実施(5回)により、特に若年層教員のレベルアップを図ることができた。	成果と課題 ①1月に「コミュニケーション能力の向上」を目的に研修会を実施した。 ②教員個々との面接を通して、メンター及びBS(Brother and Sister)を確認するとともに、メンタリングシートを対象者に配付した。	成果と課題 ①授業指導における、支援のあり方にも目を向け、実践できた。 ②一定の成果はあったが、次年度は時間を確保することも必要である。 ③勤務時間外の設定は、保護者対応等があり、難しいことがわかった。

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(久木中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①指導法の工夫改善を図る(わかったから定着・活用へ) ②少人数指導での習熟度別指導の充実(成果の明確化) ③個人カルテ(学習支援シート)の利用の推進	①指導法の工夫改善を図る(3年間を見据えた系統立てた指導の在り方を探る) ②少人数指導での習熟度別指導とチームティーチング指導での指導工夫の充実と成果の明確化 ③補習体制の充実(長期休業中及び日常的な実施の工夫・改善)
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①年間を通じて教科毎に計画的に授業研究を行い授業改善を行った。 ②数学は2,3年生で少人数指導を行った。外国語では全学年で少人数指導とチームティーチングを効果的に用いることができた。 ③支援を要する生徒について作成・活用ができた。	成果と課題 ①3年間を見据えた各教科の系統立てた指導計画ができた。 ②教職員の配置により英語・数学での少人数授業が全学年で出来ないところがあった。それに代わり国語、理科でチームティーチング授業を行う事ができた。 ③1年を通じて補習授業が計画的に行えた。	
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①久木中学校としての言語活動の充実を教育活動全体を通じて計画的に進める。 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	①久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体を通じて計画的に推進する ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る(教科の課題としてレポート作成、プレゼン発表を推奨する)	①久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体で計画的かつ系統立てて進める ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する(教科の課題としてレポート作成、プレゼンテーション発表を推奨する)
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①②予定通りに実施した。さらに研究授業の際など意識的に進めることができた。	成果と課題 ①朝学活から教科等において時期的に取り組むことができた。 ②総合的に学習や行事等において計画的に取り組むことができた。	成果と課題 ①教科指導全体での言語活動の充実が出来なかった。今後は系統性の部分に絡めて行えばよい。 ②教科の課題としてのプレゼンテーション発表はよく進める事ができているがレポート作成については教科にとらわれず指導をする必要がある。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。(ICT、市立図書館との連携) ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる。(カウンター業務など) ③朝の読書を推進する。(読み聞かせを進める)	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる ③朝の読書を推進する(学校支援地域本部事業の活用)	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める(対人関係づくりに活かす) ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる ③朝の読書を推進する(学校支援地域本部事業の活用や全教職員・図書委員会による読み聞かせ活動を取り入れる)
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①学習情報センターとしての利用は十分に行った。しかし外部との連携については今後の課題である。 ②学校支援ボランティアの活用はできなかった。 ③朝読書は着実に実施した。教職員による読み聞かせを計画的に行なった。	成果と課題 ①学習利用としての学校図書館の機能は高まった。 ②指導員を中心として読書指導や調べ学習の場として活性化ができた。 ③年間を通じて計画的に取り組むことができた。	成果と課題 ①図書館指導員と教科担当の連携のもと、図書館の利用が高まった。 ②学校図書館指導員と生徒会図書委員会が連携して図書館利用が高まってきている。 ③年間2回、延べ4回の読み聞かせをクラスで取り入れられている。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①生徒の状況に応じた支援教育を進める ②研究成果に基づき、より良い学習集団を形成し、生徒が安心して学べ、意欲的に参加する授業づくりを行う ③学校支援地域本部との活動に基づき、教職員、学校支援ボランティアの協働による個に応じた指導を進める。	①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導体制の研究を進める ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る	①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」から「定着・活用」ができる授業づくりを進める ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①生徒の見立てや、情報の共有化を日常的に確実に、支援教育を実践できた。特に今年度は、委託研究の成果に基づき学校全体のシステムとして実施できた。 ②研究テーマを「理解から定着へ」として授業づくりをさらに進めた。 ③地域の方々から様々な支援を得て教育活動を進めることができた。	成果と課題 ①支援教育委員会を中心に全職員が生徒理解できる体制を作っている。 ②授業のユニバーサル化に絡めて取り組むが進んでいる。 ③地域との連携に計画的に進めることができていた。	成果と課題 ①一人ひとりの生徒に合わせた支援の仕方が定着してきた。 ②生徒達が集中できる環境が定着し始め今後は生徒自らが活用できるような設定が必要である。 ③学校行事への参加を含め保護者・地域と連携して行う事ができた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①生徒指導マニュアルに基づき、全教職員の共通理解、保護者との連携のもと生徒指導を進める。</p> <p>②学校からの積極的な情報発信により、保護者・地域との情報の共有化、課題の明確化により、家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。(PTA、地区健全育成会、青少年育成会、学校評議員会)</p>	<p>①家庭・学校・地域との連携を基に基本的な生活習慣の育成を図る</p> <p>②学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める</p>	<p>①家庭・学校・地域との連携をもとに基本的な生活習慣の育成を図る(小・中の連携のもと)</p> <p>②学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める</p>
	<p>(評価)</p> <p>① ほぼ達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①今年度は、反社会的な生徒指導が多く対応に苦慮したが教職員、保護者、関係機関との連携の元に取り組んだ。</p> <p>②地域教育協議会や青少年育成会などを通じて、地域と密接な連携が進められた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学年、学級懇談会を通して家庭との連携で基本的な生活習慣の育成が図れた。</p> <p>②メールリンクサービスや各便りによる共有化は図れたがホームページの更新が今後の課題である。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①地域・保護者・学校が連携してあいさつなどの基本的な生活習慣の育成ができた。</p> <p>②学校便りや学年・学級だよりの発行から情報の共有化が行われ保護者・地域と協力して課題の解決ができた。</p>

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画に基づき道徳の指導を行う</p> <p>②体験活動を中心として道徳的心情、判断力、実践力を育てる。また地域講師の活用を進める。</p>	<p>①道徳教育の重要性を共通理解し全ての教育活動を通じて道徳性を養う</p> <p>②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、規範意識の向上に努める</p> <p>③学校が保護者・地域の協力を得ることにより地域社会や家庭において、相手の立場に立って考え、人を思いやれる心を育てる</p>	<p>①道徳教育の重要性を理解し全ての教育活動の中から道徳性を培えるように進める</p> <p>②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、更なる規範意識の向上に努める</p> <p>③体験学習を重視するとともに地域講師の採用、生徒が感動を覚える題材の開発と活用を行い「命」を大切にする心を育てる</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② ほぼ達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①年間指導計画に基づいて実践した。</p> <p>②様々な体験活動を通して、指導を進めたが、さらに地域講師の活用を進める必要がある。</p>	<p>①学校生活の流れの中で教科を絡めて取り組むことができた。</p> <p>②各学年毎に年齢に合わせて3年間の見通しを持って取り組んだ。</p> <p>③学年に応じて地域講師を呼び、生徒の興味関心を持てるように取り組んだ。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①年ごとに生徒の様子が変わり指導の仕方も併せて変える必要がある。</p> <p>②3年間を見据えた系統性がある指導ができることが一番良いが生徒の状態を見極めるのに時間が掛かりすぎた。</p> <p>③生徒の体験をもとに命を大切にする授業の仕方を工夫する必要がある。</p>

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①行事、生徒会活動等の特別活動、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。</p> <p>②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。また各団体の行事等に積極的に参加する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練その他)</p>	<p>①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める</p> <p>②地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる</p>	<p>①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める</p> <p>②地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる取り組みを更に進める</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①職業体験など、地域との連携による体験学習を進めた。</p> <p>②計画通りに進めることができた。</p>	<p>①学年行事や生徒会地域行事を通じて進めることができた。</p> <p>②職業体験学習・進路学習に加えて地域清掃等での協力を得ることができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①計画的に地域行事に参加し、体験出来る学習ができた。</p> <p>②学校支援地域本部事業と連携して地域清掃などに取り組むことができた。</p>

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①全体計画、各教科の指導計画に基づき適切な食育が進められている。また外部団体との連携を進める</p> <p>②3年間を見通した指導計画に基づき、教育活動全体の中で効果的に進める</p>	<p>①食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき久木中学校としての食育について指導方針を明確にし健康・体力作り等の発達段階に応じた推進をする</p> <p>②飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など家庭と学校との連携を基にして外部機関等と連携して健康教育を積極的に進める</p> <p>③性教育について発達段階を踏まえた正しい指導を進める</p>	<p>①食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づいた久木中としての食育について指導方針を明確にし発達に応じた健康・体力作り等を系統的に推進する</p> <p>②飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など、家庭と学校との連携を基にして外部機関等との連携を図りながら積極的に健康教育を進める</p> <p>③性教育について性教育全体計画に基づいて系統的に正しい指導を進める</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①外部団体との連携を進められた。</p> <p>②学年で計画的に実施できた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①全体計画に基づいて取り組み推進ができた。</p> <p>②外部機関との協力連携により推進することができた。</p> <p>③全体計画に基づいて取り組み推進ができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①今後、食育全体計画に基づいた取り組みを教科と絡めてできるように計画すれば良い。</p> <p>②外部機関と連携して喫煙防止教室、薬物乱用教室などの取り組みができた。今後、危険ドラッグ等の取り組みを入れて行ければさらに効果的である。</p> <p>③性教育全体教育に基づいた取り組みを発達段階に応じて進めることができた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)をはじめとする安全教育や防犯教室などに加え携帯電話、PCに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく ③校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める	①防犯教室などに加え携帯電話、SNS関連に関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく ③校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める
		(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①年間計画に基づいて各教室を実施した。 ②市防災計画に基づき見直しを進めた。 ③地域保育園等や市地域防災訓練と連携した訓練を行う事ができた。	成果と課題 ①年間計画に基づいて外部機関と連携して実施することができた。 ②③防災計画に基づいて訓練を実施したが天候等により保育園との合同訓練は延期となった。
② 問題行動等への対応の推進		①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める ②生徒指導担当・教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく	①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく(いじめ対応等) ③関係諸機関との連携を密に図り生徒一人ひとりの課題に応じた支援を計画的に行う
		(評価) ① 達成した ② 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①、②支援教育委員会を中心に学校全体での取り組みを行い生徒・職員の意識の向上を図れた。 ③地域諸機関との連絡連携を計画的に取り問題解決を図ることができた	成果と課題 ①毎日の打ち合わせで生徒の情報を共通理解のもと、全職員が教育活動を進める事ができた。 ②支援教育委員会を中心に定期的に生徒からの生活アンケートの情報、教師の教育活動による情報を収集し指導・対応した。 ③外部機関との連携によりケース会議等を開くことにより計画的に支援ができた。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進		①入学してくる生徒がスムーズに中学校生活のスタートができ、安心して学校生活が送れるよう、子ども一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるため情報の共有と連携を推進する ②小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進める	①入学してくる生徒がスムーズに中学校生活をスタートさせることができ、安心して学校生活を送れるよう一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に進める(小学校への出前授業・夏休みの教室) ②小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進め、小・中学校連携のもと児童・生徒の成長を図る
		(評価) ① 一部達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
		成果と課題 ①日常的な情報の共有を教育相談CDが行った。その他については今後も努力しなければならない。 ②十分に行ったが、今後も継続する必要がある。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に小学校との情報交換を行い中学校の指導に結びつけることができた。 ②各小学校の研究授業・研究発表などへの参加を積極的に行うことと小学校への出前授業を行う事ができた。
④ 国際教育の推進		①国際社会に生きる日本人としての資質の向上を目指し、学校に派遣されているIEA(国際教育指導助手)を様々な教育活動において積極的な活用を推進する ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行い国際社会に生きる子ども達の育成を進める	①国際社会に生きる日本人としての資質の更なる向上を目指し、派遣されているIEA(国際教育指導助手)を様々な教育活動において積極的な活用を進める ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体・一般外国人との交流を図れるような工夫をし国際社会に生きる子ども達の育成を進める
		(評価) ① ほぼ達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
		成果と課題 ①外国語の指導が中心であったが、さらに積極的な活用を進めたい。 ②今年度は行えなかった。	成果と課題 ①外国語の学習だけでなくIEA(国際教育指導助手)を活用して外国の生活習慣なども学習した。 ②対外的団体などを活用して国際教育を図る必要がある。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①総合的な学習、学級指導の時間を整理し直し、「生き方の学習」について自ら体験的に学ぶ事も含めた指導計画にそってキャリア教育を実践し、さらなる改善を進めている。 ②市民・保護者などの講師による授業や、職業体験学習を地域支援本部との連携・協力により実践している。	①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校での指導計画を作成する ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域での職業体験を行う	①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校3年間の指導計画を作成し系統だった指導を進める ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域社会での職業体験を進める
	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①計画通りに行った。 ②学校支援地域本部との支援・協力をさらに進めていきたい。	成果と課題 ①3年間を見通した進路指導計画を作成し推進できている。 ②職業体験学習やキャリア学習会などを地域・保護者を活用して取り組んだ。	成果と課題 ①生徒達の将来を見据えた進路指導に活かすことができた。 ②生徒達の職業に対する理解学習のキャリア教育講演会など地域・保護者の協力を得て取り組むことができた。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める ②地域と連携した体験活動を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる(保育体験、地域行事への参加、地域清掃など)	①発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深める ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成する	①発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深め生活の中で応用が出来るようにする ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成し生活の中で活用ができるようにする
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①計画通りに行った ②計画通りに行った	成果と課題 ①福祉体験学習を計画的に行い理解・関心を深める取り組みをした。 ②生徒会活動の一つとして地域清掃活動や餅つき大会・募金活動を通じて育成できた。	成果と課題 ①福祉防災教室と絡めた中での福祉教育学習を通して学習することができた。 ②学校警察連絡協議会の活動を通して生徒会が中心となって、小学生のチリントンタイムや地域の行事への参加を行った。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①生徒会活動の中で身近な環境保護の実践活動をする。(ミックスペーパーの回収、エコキャップ回収、募金活動) ②地域講師による環境学習の実施 ③身近にある太陽光発電についての理解を進める	①地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育てる ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし積極的に推進する ③身近にある太陽光発電の施設を利用し、それを理解し環境に対する意識の向上を図る	①地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育て活用する ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし活動を積極的に行う ③太陽光発電の施設を利用して、環境に対する意識を育て生活の中で生かせるようにする
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①計画通りに行った ②計画通りに行った ③総合学習や理科の授業の中でさらに積極的な活用を進めたい。	成果と課題 ①ずし市環境会議会員を講師に環境教育を計画的に取り組んだ。 ②リサイクルセンター見学やミックスペーパー等計画的に取り組んだ。 ③ずし市環境会議会員の環境学習においてデータを活用する取り組みを行った。	成果と課題 ①田越川の清掃活動参加などの活動を通して環境に対する意識づくりができた。 ②生徒会が中心となってミックスペーパーの収集を計画的に取り組み、夏休みにリサイクルの仕組みも見学した。 ③データは活用しているが更なる取り組み方を検討する。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①「情報活用能力」を指導計画に基づき育成している ②学校全体で情報モラルの育成が行われている ③各教科で適切な指導計画に基づいた、ICTを活用した授業を進める	①ICT機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションを取り入れ、発達段階に応じた「情報活用能力」を育成する ②情報モラル教育の育成を図り、あふれる情報を取捨選択し正しく活用できる力を育てる	①情報教育全体計画に基づいて機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションが、発達段階に応じたおこなえるよう系統立てた育成をする ②情報モラルの育成を図り、あふれる情報を一人ひとりが正しく理解して、それを正しく活用できる力を育てる
	(評価) ① ほぼ達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①すべての教科で取り組めるように進めたい。 ②学年・教科で計画通りに行った ③全ての教科で計画的に積極的な活用を進めたい。	成果と課題 ①各学習計画の中で計画的に機器利用を取り入れ育成している。 ②技術の授業及び地域機関を利用して情報モラル・携帯電話の学習を実施した。	成果と課題 ① 学年行事での生徒の取り組みを生徒がプレゼンテーションするなど計画的に行う事ができた。 ② 技術の学習を中心に情報モラルについて取り組み、学校の取り組みとしてSNSなどを含めた指導を行った。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①情報発信の内容や方法について地域の方々からのご意見・感想を集め、改善に努める ②定例会や各団体主催の行事などに積極的に参加していく。また地域清掃等の地域との協働も進める。	①学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う ②青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め支援・協力を得る	①学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う ②青少年育成推進の会をはじめとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め地域と学校の支援・協力体制が確立できるようにする
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 ①②地域教育協議会、地域の会などから意見・感想をいただき改善に努めた。地域行事に積極的に参加するとともに、様々な協働に努めた。	成果と課題 ①たより等については計画的に行う事ができているがホームページの更新等できていない。 ②各地域の青少年育成推進の会、地域行事に計画的・積極的に参加できている。	成果と課題 ①学校だより・学年・学級だよりは計画的に発行できているがホームページの更新を計画的に行うようにする。 ②地域と学校が生徒の情報を共有できていて協力して支援体制がとれるようになってきた。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
② 地域教育力の活用	①学校支援地域本部が学校支援、地域連携の中心として確立し、地域支援コーディネーターと学校側の協働が進められている。 ②地域支援本部の活動について積極的に情報発信して、地域・保護者等から具体的な学校支援や協力を得られている。	①学校支援地域本部に組織を統合して地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な活動を進める ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく	①地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な方法を模索し地域と協力した活動を進める ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①②地域との連携を、積極的に進めた。地域からの支援を受けるとともに、協働を進めることができた。	成果と課題 ①地域コーディネーターを中心に地域と学校が連携協力して活動を取り組めた。 ②多くの意見を載くことができ、次年度の計画に反映していく。	成果と課題 ①地域と協力して、いろいろな行事などに計画的に参加活動が出来ている。 ②学校行事への参加、授業参観などを通して多くの活動に参加して戴き反省・意見を教育活動に反映していく。
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①生徒・保護者向けアンケートの実施を定期的なものとし、自己評価の構成に取り入れる ②学校評価がより良い学校づくりの方法として確立し、地域・保護者の信頼を得て学校運営が進められている。	①生徒・保護者にアンケートを適宜実施し、自己評価に取り入れる ②自己評価に対する保護者・地域、学校評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度の校運営(計画)に反映していく	①生徒・保護者にアンケートを適宜実施し、自己評価の中に取り入れ次回への取り組みや計画に活かしていく ②自己評価に対する保護者・地域、学校関係者評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度学校運営(計画)に反映していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①公開の方法として、ホームページなども利用する。 ②例年と同じ時期となったが、教職員の反省の時期を受けて実施すると、早く進めることは難しい。	成果と課題 ①行事を行う毎に生徒・保護者・地域の方々にアンケートを実施し取り入れている。 ②意見等を踏まえて次年度の計画実施に反映していく。	成果と課題 ①行事アンケートや学校評価アンケート結果を踏まえた計画をしていく。 ②学校評価や学校関係者評価委員会などの時期を早め、次年度の計画に取り入れられるようにした。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	①わかりやすい授業のあり方について学校としての方向性を確立している ②研究会が充実し、指導助言により授業力を向上する ③教科会により教科ごとの授業改善を進める。	①研究授業の積極的な実践を推進し指導方法の工夫改善にや課題研修レポートの作成に役立てる ②指導助言に適切な講師を依頼し、研修の充実と指導力の向上を図る ③研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上を図る	①研究授業の積極的な実践をおこない指導方法の工夫改善を進め教師個々の授業力向上を図る ②指導助言に適切な講師を依頼し、教員研修の充実と教師個々の指導力向上を図る ③研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上と授業力向上を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①②③委託研究は終了したが、引き続き取り組みを継続している。	成果と課題 ①研究授業後に授業案を見直し訂正したレポートの提出を義務化した。 ②外部講師を招いての実践的研修会を計画的に行なった。 ③全体研修やグループ研究会を計画的に実施し成果の共有を図った。	成果と課題 ①年2回の研究授業を義務化し、自ら授業の工夫改善に取り組み授業力向上に努めた。 ②計画的な教員研修の充実を図り、教員の指導力向上につながった。 ③教職員同士が自ら、研修会を開き、資質向上を図るなど成果が見られた。
② 授業評価の活用	①授業評価を積極的に進め、授業改善に反映している。 ②授業公開等の機会を利用して、多くの方々からの授業評価を得て、よりよい授業づくりを進めている。	①校内研究における授業を中心として授業評価・改善活用を進める ②生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる	①校内研究における授業評価・改善活用を進め授業に活かす ②生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①②内容をさらに充実させていく。	成果と課題 ①全教職員が授業のユニバーサル化を意識して取り組むことができた。 ②、③授業アンケートを行い、評価を真摯に受け止め授業改善に繋げる取り組みをした。	成果と課題 ①各教科ごとの授業アンケートにより授業改善を図っている。 ②③生徒自らが授業アンケートに答えたり、保護者・外部関係者が公開授業を見たりして意見をいただき授業改善につなげている。
③ 研修事業の充実	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの校内研修を計画的に進める ②市、県の主催する研修について個々の経験、職務に応じた研修会への参加を促す ③校内での自主的な研修会の実践を促す	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進め教職員の力量の向上を進める ②久木中「教師のスタンダード」づくりを推進する	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進め教職員の力量の向上を進める ②久木中学校の生徒に合わせた「教師のスタンダード」づくりを進める
	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①研究の継続を通じて実践できた。 ②指定研修を受講する教職員が多く、自主的なものは少なかった。 ③実践を進めた。今後の継続が重要である。	成果と課題 ①授業のユニバーサル化と関わって計画的に進め全教師の力量につながった。 ②小中学校の教職員にアンケートを実施し、まとめている途中で、来年度に向けて取り組んでいる。	成果と課題 ①新しい教職員が増えたことも含めて一度行った研修も確認も含めて再研修した。 ②ユニバーサル・デザイン尺度づくりとスタンダードづくりを合わせた形で進めている。

平成24年度～平成26年度 学校による点検及び評価の推移(沼間中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実		①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)を保護者・生徒に周知し、参加を促す ②少人数学級での指導が有効となるよう指導の工夫・改善を行い、検証する	①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)の参加人数の増加を図る ②3年生で少人数学級を、また少人数指導、チームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を、数学、保健体育、技術、英語で実施する	
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	
		成果と課題 ① 定着してきた。 ② 次年度も継続して研究する必要がある。	成果と課題 ① 補充的学習(いわゆる補習)は、教師側が指定しているので除外するが、今年度は発展的な学習として、生涯学習的な講座も組み入れたことで、昨年度参加者49名に対し、今年度参加者94名と倍増した。次年度は、地域の方にも講座を持っていただきたい。 ② 市の小規模校加配、数学の教員配置ができなかったため、数学で取り組みなかった。	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	H24(2012)年度取組内容 ①各教科での授業実践・検証する ②教科外での実践・検証する	H25(2013)年度取組内容 ①各教科指導の場で、言語活動を基に思考力・判断力・表現力等を身につけさせる取り組みを実践するように、全校体制で研究していく ②総合的な学習の時間や特別活動の場で、「読解力」向上の取り組みを取り入れるよう、全校体制で研究していく	H26(2014)年度取組内容 ①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを試行する	
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した	
	成果と課題 ① 校内研究会テーマとなっている言語活動と絡めて各教科ごとに授業実践することができたが、実践計画作成は次年度の課題である。 ② 次年度は教科外での指導計画も教科での実践計画と併せて作成し、実践していきたい。	成果と課題 ① 研究授業を全員実施し、研究テーマにせまり全校体制で研究することができた。 ② 各自課題解決学習を実施し、資料活用能力を発達し、まとめ学習などで発表する力を培う。	成果と課題 ① 横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに、「生徒自ら考え、判断し、創造する授業を目指して～input intake outputを意識した授業づくり～」を研究テーマとして、年間7回の校内研修会、年間1回全員の公開授業と年間1回の研究授業(3クラス)を実施した。今年度はあるべき授業スタイルの共有化が中心であったので、次年度は、実践に一層力を注ぎたい。	
③ 読書活動の推進	H24(2012)年度取組内容 ①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を実施し、その見直しを年度末に行い、次年度につなげ推進する。 ②「学校版子どもの読書活動推進計画」を策定し、その見直しを年度末に行い、次年度につなげ推進する。 ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能を活性化し、その見直しを年度末に行い、次年度につなげ推進する。	H25(2013)年度取組内容 ①図書委員会を中心に、読書活動の活性化のための新企画を提案し、実行を図る ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	H26(2014)年度取組内容 ①朝の読書週間を設定し、読み聞かせを実施する ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ① 図書委員会が中心となり、放送委員会と連携し「TVおはなし会」を行ったり、ポスターを作成したりして、年間を通じて読書推進活動を行った。 ② 検討中の段階であり今後も継続する。 ③ 学校支援ボランティアにご協力いただき、毎日の開館を実施できた。来年度も学校図書館の機能を活性化すべく、図書委員会と学校支援ボランティアの連携を深めていきたい。	成果と課題 ①、②市立図書館等との連携・協力の下、学習情報センターとしての機能の充実はさらに確立していくよう努める。	成果と課題 ① 年間2回の、朝の読書週間を実施し、2回目に読み聞かせの実践を行った。 ② 市立図書館との連携は日常化してきた。また、授業で図書館を使う取り組みも年間を通して行った。	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①生徒全員が、自己肯定感をもつことができるような支援が何らかの形で行われている。	H25(2013)年度取組内容 ①支援を必要とする生徒について校内リソースを活用しながらの支援プランを作成検討し、実行に移せる方法を確立させる ②困り感を持つ生徒と特別支援学級との共同学習のあり方を検討していく	H26(2014)年度取組内容 ①支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートや支援教室を活用しながら支援を進める ②困り感を持つ生徒に対する個別の学習指導を必要に応じて進めていく	
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ① テスト前の補習の充実を図るなど、生徒の学力向上を図った。また、外部から講師を招き、校内研修会を開くなど、主に気になる生徒への対応を研究した。	成果と課題 ①、②学年職員や支援時間担当が対応しても同時に複数の生徒に支援が必要な場合人材不足だったので人的リソースの再配置を考える必要がある。	成果と課題 ① 支援教室での個別指導を行った(年間3名)。また、火曜日の放課後に、希望者を募って「学習会」を実施した。 ② 教育相談コーディネーターを二人体制とし、5月をスクール・カウンセラーや研究所の心理の専門家などによるアセスメント月間と位置づけて、不登校生徒及び通常級で困り感を抱く生徒を特定し、個別の指導を行った。結果として登校できるようになった生徒も2名いた。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①生徒による学級、学年の達成目標として位置づけ、自ら検証させるよう継続指導することで、その充実・定着を図る。</p> <p>②学校だより等を利用して、生徒の意識向上と家庭・地域の協力を促すことで、その充実・定着を図る。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①昨年同様「学校生活のきまりプリント」を生徒に配布し、基本的な学校における生活習慣を徹底できるように努めた。</p> <p>②サイバー犯罪や薬物乱用防止教室を開くなど、地域講師を利用して、生徒の意識向上に努めた。生徒指導の対応マニュアルを職員で周知徹底し、指導に努め、同時に家庭への協力も要請した。</p>	<p>①各種おたより、保護者会等で家庭での基本的な生活習慣を依頼する情報発信していく</p> <p>②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう</p> <p>③教職員からすすんであいさつをする</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①、②、③基本的な生活習慣の育成については、特別活動や総合的な学習なども活用していけるとよい。</p>	<p>①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する</p> <p>②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう</p> <p>③教職員からすすんであいさつをする</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。家庭における、家族としての役割分担を継続してお願いしたい。</p> <p>②、③日常的な対応ができている。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳推進担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において実践することで、その充実・定着を図る。</p> <p>②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業がカリキュラムに位置づけることで、その充実・定着を図る。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年のその時の状況に合わせて、年間指導計画をもとに、臨機応変に教材設定ができた。</p> <p>②なかなか実践できなかった。</p>	<p>①行事や体験学習の関連を利用しねらいの深化が可能な、道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る</p> <p>②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業や体験学習の情報共有をしていく</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る。</p> <p>②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業は、計画的に実施し研究することができた。</p>	<p>①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図り、ねらいの深化を図る</p> <p>②発達段階に応じて、地域講師や地域機関等との連携を利用して、ねらいの深化を図る</p> <p>③3年間が見通せる、道徳の学習一貫作成に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各学年の年間指導計画に明示した。</p> <p>②特に、今年度は湘南三浦教育事務所管内、道徳教育推進教師を対象とした授業公開を11月に実施し、2年生の授業で地域講師3人の協力が得られた。</p> <p>③各学年の年間指導計画を一枚にした。今後、その関連性を精査していきたい。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①従来の行事の見直しを図り、精選をしていく。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①昨年度の取り組みを学年進捗とともに進めるようにし、校外活動とその内容の定着を図ることができた。</p>	<p>①、自然体験学習、修学旅行がより有効な課題解決学習の場となるように深化を図る</p> <p>②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能よう工夫・改善する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①課題解決学習の場として取り組み、まとめ学習の形態を工夫した。</p> <p>②職場体験学習の定着をはかりキャリア教育のねらいにせまるよう工夫改善することができた。</p>	<p>①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける(1年生から)</p> <p>②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能よう工夫・改善する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①1年生「横浜めぐり」の調査テーマとして、逗子の観光・ごみ・歴史をテーマに事前学習し、横浜の現状と比較した。</p> <p>②2日間、42事業所での「2年生職場体験」を実施した。学校関係者評価委員会では、受け入れ側の事情も考え、1日でも目的が達成できるのでは、という声があった。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①将来的な自らの食生活に、これらの学習を活かそうとする意欲がもてるようにする</p> <p>②中学期だけでなく将来的な体力作りを発達段階に応じて展開できる意欲が持てるようにする</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①技術・家庭科の授業内で扱い、意欲を持てるように指導した。</p> <p>②保健体育の授業内で扱い、意欲を促すことができた。</p>	<p>①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる</p> <p>②部活動や家庭でのスポーツ体験に対しての意欲を喚起し、自らの健康管理が大切な能力であることを知らせていく</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①体育科としては授業で適切に扱い、普段の食生活については保健委員会などとタイアップし行えた。</p> <p>②部活動において部活協議会を通じ、それぞれの部活動における部活を喚起できた。自らの健康管理は保健体育科とし、適切に指導をおこなった。</p>	<p>①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる</p> <p>②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう促す</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭から講演等を実施した。</p> <p>②保健体育科や部活動を通じて指導を図ったが、全国体力運動能力テストの結果からは、あまり成果が見えなかった。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 学校安全の推進		①防災アドバイザー、逗子警察等の連携の下に、事故防止及び安全点検、危険箇所の除去を定期的・継続的に行う ②沼間小学校区避難所運営委員会との連携下、生徒が自らの命を守るようとする危機管理意識の向上を図る	①保健委員会等がリーダーシップをとり、生徒自らが危機管理意識をもち、安全点検に参加する ②地域講師を迎えての授業に避難所運営訓練を導入し、身近な体験活動等を通じた防災教育を行う
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した
		成果と課題 ①生徒の手による防災マップの取り組みをおこなうことができた。 ②継続的に実施したい。	成果と課題 ①まだまだ、生徒自らの危機管理意識をもった取り組みにはいたっていない。 ②ふれあいデーや避難訓練時に、避難所運営委員会・消防署等の協力を得て、アルファ米をもどす・救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行うことができた。
② 問題行動等への対応の推進		①共生社会に向けて生徒が互いの困り感を認め合い助け合える温かい学級づくりに努める ②道徳の時間や生徒会活動を通して、規範意識を培い生徒自らがいじめを許さない集団を作っていけるよう指導していく	①安心・安全な学級づくりに向けて、構造的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を学ぶ ②本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する
		(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
		成果と課題 ①生徒会活動を通して規範意識を高める指導は課題である。 ②教員だけでなく社会福祉協議会などの関係団体にも協力してもらう。	成果と課題 ①研究所の協力の下、複数回の研修や実際に授業を行った。研修図書も購入したので、今後とも研修を継続したい。 ②定期的な生活アンケートとともに、日常的に生徒を見ることを大切に、いじめの早期発見・早期対応に努めた。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進		①教職員の研修等で小中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく ②学校間の信頼関係を構築し、9年間の学習や生徒指導を意図的、効果的に行っていく ③授業参観等に参加していく	①教職員研修等で小・中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく ②小・中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」に着手する ③小・中での授業参観や出前授業等実施する
		(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		成果と課題 ①お互いのカリキュラムを知り、課題を共有できた。 ②合同研修会を1回実施したほか、お互いの研究発表会に参加したり、授業などを参観したりすることができた。 ③6年生の児童・保護者対象の授業参観と学校説明会を実施することができた。	成果と課題 ①小・中合同研修会で、学びの連続性をテーマにしたが、家庭学習の定着は検証できていない。 ②小・中合同研修会において、9年間の学びのカリキュラム原案を提示することができた。今後、この原案を元に、できることから実践化していきたい。 ③英語の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。
④ 国際教育の推進		①多様な文化を理解し共生できるよう小学校外国語活動との連携の下に、意識を育ていく ②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく	①校外活動等で、自ら、国際交流の機会を見つけ、発表していく等、実践の機会を模索していく ②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく
		(評価) ①達成できなかった ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した
		成果と課題 ①、②外国語の授業だけでなくIEA(国際教育指導助手)が学校行事などにかかわりをもつことができた。このことを継続したい。	成果と課題 ①沼中ラーニングのテーマとして、国際教育を取り入れられなかった。 ②英語の授業で、IEA(国際教育指導助手)を活用し、国際理解教育を実施した。

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させることで、その充実・定着を図る。 ②職業体験学習の2日間の実施を実現させることで、その充実・定着を図る。 ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有することで、その充実・定着を図る。	①1年「将来の夢」、2年「職場体験」、3年「義務教育終了後の進路」と、段階的に自分の生き方を考えさせる ②職場体験2日間実施し、よりねらいを深化していく	①3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育に着手する ②職場体験を2日間実施し、ねらいをより深化していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①地域講師を迎えての授業を行い、学習のねらいを深化させることができた。 ②2日間の実施ができた。 ③発表の場を設けて、各学年実施できた。	(評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①学年別に計画的に自分の生き方を考えることができた。 ②職場体験は定着し、ねらいにせまることができた。	(評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①1年生で、市長の講話や経済観光課・観光協会・資源循環課・教育研究所などの機関に協力いただき、「沼中ラーニング」(キャリア教育と市民性教育の統合)に着手した。 ②2年生で、42事業所において2日間の職場体験を実施し、事前事後指導も含めて、ねらいを達成できた。
⑥ 福祉教育の推進	①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させ、その充実・定着を図る。 ②地域講師を迎えての授業実践を推進し、その充実・定着を図る。 ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有し、その充実・定着を図る。	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①②3学年福祉体験学習はこころの教育という視点で実施することができた。 ②3年生の福祉体験学習だけにとどまらずピースメッセンジャー等、集会の場で共有することができるようになった。	(評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②外部講師を招いて授業を実施し福祉・人権への意識を高めることができた。	(評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。
⑦ 環境教育の推進	①環境改善に向けての提言を発信する。(環境パネル展等を利用) ②学校版ISO取得を目指す。	①環境委員会を中心に、学校の自然環境を自らの手で守っていく姿勢を育てる ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守るうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる	①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を実行していく ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守るうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①返子市環境ウィークの環境パネル展に提言を発信することができた。 ②総合的な学習の時間に環境に関する課題解決学習ができた。これについては、学年の進行に従って課題をみつけそれから学校全体への取り組みとしていく必要がある。それぞれの学年での環境の取り組みが、全体への活動に結びついていない。	(評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①環境委員会の生徒の手により生物の飼育や学校の自然環境を大切にする取り組みをおこなった。 ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々と連携をとり、学校の自然環境づくりに努めることができ、生徒に自然を守る大切さを知らせることができた。	(評価) ①達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①環境委員会からの企画提出にはいたらなかった。 ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが恒常化してきた。
⑧ 情報教育の推進	H24(2012)年度取組内容 ①ICTを活用した授業を日常的に積極的に行う ②中学校における発達段階に合わせた情報機器の活用能力を図る ③情報の発信者としてのモラルを育成する	H25(2013)年度取組内容 ①ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を研究する ②教科におけるICTを活用した生徒の発表を指導していく	H26(2014)年度取組内容 ①ICT(情報通信技術)を活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を実践する ②教科におけるICT(情報通信技術)を活用した生徒の発表実践を増やしていく
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①プロジェクターや実物投影機等多くの授業で活用された。 ②技術家庭科の授業で扱っている。 ③全校生徒対象に神奈川県警察のサイバー犯罪防止講演会を行った。	(評価) ①概ね達成した ②概ね 達成した 成果と課題 ①ICTを活用した授業は継続して取り組む必要がある。 ②ICTを活用した生徒の発表は継続指導が必要である。	(評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①②数値的なデータはないが、授業にICT(情報通信技術)を活用する取り組みは数多く見られた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①P&T(PTA)と地域連携のもとでの具体的実践を始める ②学校公開の内容充実と活性化、及び、検証を行う ③情報発信における実践と充実、活性化、及び、検証を行う	①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、返P連(返子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する ②学校公開等あらゆる場面で地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく ③青少年育成推進の会、沼間小学校区地域連合会等との外部機関との連携を深める	①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、返P連(返子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する ②学校公開等あらゆる場面で地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく ③関係機関との連携を密にとって、学校情報を発信していく
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①活性化は達成したが、PTAへの移行の課題は検討にとどまった。 ②③メール配信の拡大やホームページの刷新などを行った。	成果と課題 ①、②、③ PTAへの加盟については議論が始まったばかりである。	成果と課題 ①PTA加盟は、現状すぐには難しいと判断し、現在のP&T組織の強化を図ることから着手した(保護者の役割を増やしたり、規約改正し、前年度に運営役員三役を選出)。 ②今年度より、毎月2回のペースで、校長通信「こぶしの花」を発行した(2月13日時点で24号発行)。 ③学校評議員会や住民自治協議会へも参加し、連携を図った。
② 地域教育力の活用	①地域講師を含んだ地域力活用計画に基づいた活用の充実を図る ②学校支援地域本部の地域ボランティアが、年間計画に位置づけられた教育活動に日常的に参加できるようにネットワークの定着を図る	①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく ②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する	①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく ②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①ふれあいデーやダンスの授業などは計画的に進んだ。 ②ふれあいスタッフという生徒の組織ができ、計画的に活動ができた。	成果と課題 ①、②図書館ボランティアは継続できたが開館時間を増やすことはできていない。	成果と課題 ①道徳の授業で地域講師を活用するなどしたが、今後一層教科等で地域人材の活用を図りたい。 ②定着した。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①PCDAサイクルを意識した学校評価の充実とそれに基づいた教育活動の向上、活性化の検証を行う。 ②学校評価結果に基づいた次期3年間の教育ビジョンの拡充を行う。	①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく ②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する	①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく ②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①本校の一連のサイクルが定着し、学校経営にも反映できた。 ②今後検討していきたい。校内研で学年ごとに課題を共有し次年度のビジョンを明確にした。	成果と課題 ①、②マークシート方式に改善することで多様な集団の集計ができるようになった。	成果と課題 ①学校関係者に小学校・高校・大学の関係者を置き、小・中・高・大を見据えた教育について論議した。 ②学校の重点取り組みを明示し、文章で評価いただいた。具体的な激励や改善につながる意見が頂戴できた。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容
① 授業研究の充実	①「分かる授業」の実践や、シラバスの提示により、生徒に自ら学ぼうとする意欲を引き出し、基礎・基本の定着を図る。 (評価) ① 達成した 成果と課題 ①評価基準の課題を提示し、詳しく説明することができた。教科ガイドスにより各単元別にさらに詳しく基準を生徒に説明した。	①グランドデザインを校内研究会で作成する ②年間1人2回は授業公開する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①グランドデザインについて校内研究会で提案し、作成することができた。 ②全員が授業公開をし、授業力向上に役立てることができた。	①グランドデザインの見直しと、それに基づいた授業実践を行う ②年間1人2回は授業公開する (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①グランドデザインを校長より提示し、コンピテンシーレベルの力をどう付けていくのか、協議した。 ②年間1回の授業公開にとどまった。
② 授業評価の活用	①授業評価の結果を活かしたことで、すべての教師が生徒にとって「分かる授業」を行う (評価) ① 達成した 成果と課題 ①授業評価を全職員で発表し確認できた。また、その結果から課題を考察し授業改善に役立てた。	①生徒による授業アンケートは教科ごとに集計し、教科の課題として検証・改善をめざす ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②アンケート用紙は教員用保護者用と文言をわかりやすくする必要がある。	①前年度の検証・改善結果が良い方向に向かっているか再検証する ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する (評価) ① 達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証と流れを考えていたが、2回目が実施できていない。 ②アンケートの実施はできたが、回収率はあまり高くない。今後の課題である。
③ 研修事業の充実	①小中合同研修会を実施し、相互理解を深める ②教員の学校経営・運営に対する参画意識の熟成を図れるような研修も計画する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の共同研究(2年目)で実施した。 ②職員会議前の事故防止会議で実施することができた。	①支援が必要な生徒へのかかわり方や授業内での指導・支援方法について校内研修を企画し実践する ②研修に適切な日時を設定し、目的に応じて外部講師を活用し、研修の効果を高める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①夏と年度末の休業中に研修を企画し、実践できた。 ②さらに学校の状況にあわせた研修を企画し、実践したい。	①教育のユニバーサル化に向けた研修に着手する ②授業研究のスーパーバイザーを選任し、適切なアドバイスをいただく (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①研修とともに、教室前の掲示板にロールカーテンを取り付け、学習環境の構造化を計ったり、スクールスタンダードの作成に着手した。今後は、授業のユニバーサル化に発展させたい。 ②横浜国立大学・米澤准教授をスーパーバイザーに、年間3回の講演で、本校が目指すべき授業スタイルの共有化を図った。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。
 - 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
 - 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
 - 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
 - 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
 - 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
 - 六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。
- 3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。
- 4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（教育委員会の意見聴取）

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）
（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp